Osaka Metropolitan University Hospital



Guide Book 2026

大阪公立大学医学部附属病院

理念・基本方針・患者さんの権利

大阪公立大学医学部附属病院の理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき

1　地域住民の健康に寄与する質の高い医療を提供します。

2　こころ豊かで信頼される医療人を育成します。

3　医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます。

「智」は知恵を育む知識や技術の習得の大切さを、

「仁」は人のもつ痛みや悩みを理解する心の大切さを、

「勇」は正しい判断に基づく決断力の大切さを、

それぞれ表しています。

基 本 方 針

◇患者さん本位の安全で質の高い医療を提供します。

◇地域医療の向上に寄与します。

◇健康・予防医学を推進します。

◇最新の高度医療を提供します。

◇人間味豊かで国際感覚をもった優れた医療人を育成します。

◇新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います。

◇質の高い多彩な研究を推進します。

患者さんの権利

◇安全で質の高い医療を受けることができます。

◇自由意志に基づき治療を選択することができます。

◇十分な説明と情報提供を受けることができます。

◇セカンドオピニオンを希望される場合は、紹介を受けることができます。

◇人の尊厳を尊重した医療を受けることができます。

◇医療に関する個人情報やプライバシーが保護されます。

◇健康教育を受けることができます。

目次

Osaka Metropolitan University Hospital

理念・基本方針・患者さんの権利
病院長あいさつ …… 2
病院組織図 …… 3
病院沿革 …… 4

地域医療機関の先生方へのご案内
地域医療連絡室のご案内 …… 6
各診療科のご案内 …… 7
【様式】診察予約申込書（診療情報提供書） …… 8
セカンドオピニオンのご案内 …… 9
医療連携登録医制度のご案内 …… 10
地域医療情報連携ネットワーク …… 11
がん診療地域連携パス …… 12

患者さんへのご案内
がんの情報室のご案内 …… 13
初診患者さんの受診の流れについて …… 14
患者さんへの支援体制について …… 15

MedCity21 のご紹介
人間ドックコース・専門ドックコース …… 16
施設と医療機器のご紹介 …… 17

Topics
当院の取り組み …… 18

診療科
総合診療科 …… 20
循環器内科 …… 21
呼吸器内科 …… 22
膠原病・リウマチ内科 …… 23
生活習慣病・糖尿病センター（糖尿病・代謝内科） … 24
腎臓内科 …… 25
骨・内分泌内科（内分泌内科） …… 26
消化器内科 …… 27
肝胆膵内科（肝臓・胆道・膵臓内科） …… 28
小児科（新生児） …… 29
神経精神科 …… 30
皮膚科 …… 31
放射線科 …… 32
放射線治療科 …… 33
消化器外科 …… 34
乳腺外科 …… 35
心臓血管外科 …… 36
肝胆膵外科（肝臓・胆道・膵臓外科） …… 37
呼吸器外科 …… 38
小児外科 …… 39
脳神経外科 …… 40
整形外科 …… 41
泌尿器科（腎臓移植） …… 42
女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学） …… 43
女性診療科（婦人科腫瘍） …… 44
眼科 …… 45
耳鼻いんこう科 …… 46
麻酔科・ペインクリニック科 …… 47
形成外科 …… 48
血液内科・造血細胞移植科 …… 49
脳神経内科 …… 50
歯科口腔外科 …… 51
感染症内科 …… 52
ゲノム診療科 …… 53
リハビリテーション科 …… 54
病理診断科 …… 55
緩和ケア内科 …… 56
集中治療科 …… 57

中央部門
中央臨床検査部（臨床検査科） …… 60
中央放射線部 …… 60
病理部 …… 61
中央手術部 …… 61
救命救急センター …… 62
集中治療センター（ICU/CCU） …… 62
リハビリテーション部 …… 63
内視鏡センター …… 63
人工じん部 …… 64
輸血部 …… 64
医療情報部 …… 65
DX 推進センター …… 65
薬剤部 …… 66
看護部 …… 66
栄養部 …… 67
医療機器部 …… 67
臨床研究・イノベーション推進センター …… 68
先端予防医療部（附属クリニック MedCity21） …… 68
患者総合支援センター …… 69
国際診療支援センター …… 69
卒後臨床研修センター …… 70
がんセンター …… 70
化学療法センター …… 71
緩和ケアセンター …… 71
高精度放射線治療センター …… 72
ゲノム医療センター …… 72
医療安全センター …… 73
医療の質・安全管理部 …… 73
感染制御部 …… 74
新規技術・医薬品審査部 …… 74

チーム部門
緩和ケアチーム …… 76
認知症ケアチーム …… 76
感染制御チーム …… 77
抗菌薬適正使用支援チーム …… 77
精神科リエゾンチーム …… 78
褥瘡対策チーム（褥瘡委員会） …… 78
早期離床・リハビリテーションチーム …… 79
栄養サポートチーム（NST） …… 79
報告書確認対策チーム …… 80
排尿ケアチーム …… 80
呼吸サポートチーム …… 81

データでみる大阪公立大学医学部附属病院
施設基準 …… 84
業務概況 …… 86
施設案内 …… 92

病院長あいさつ



平素から大阪公立大学医学部附属病院に格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。病院長の中村博亮と申します。大阪公立大学医学部附属病院は、大阪市内唯一の大学病院、かつ特定機能病院であり、地域住民の皆様に満足していただけるよう、今後も安全で質の高い医療を提供していくことが、責務であると考えております。

当院は地域の中核病院として、地域がん診療連携拠点病院、造血幹細胞移植推進拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、大阪府難病診療連携拠点病院、大阪府災害拠点病院、大阪市認知症疾患医療センターなどの指定を受け、その役割を果たしてきました。

特筆すべきは、西日本唯一の高精度放射線治療機器「MR リニアックシステム」を導入していることで、大学病院としてがん診療を専門とする医療者を育成し、地域医療機関と連携しながら、がん診療への貢献を果たしたいと考えております。

また当院は、健診施設である先端予防医療部附属クリニック MedCity21 も有しており、患者さんの健康づくりに取り組むとともに、予防医療の推進にも貢献いたします。

また、2024 年 10 月に設置した DX 推進センターを中心に、院内の DX 推進に取り組んでおります。2025 年 8 月から AI 電話による再診予約・変更サービスを開始、2026 年 3 月には患者さん向けに「公大病院アプリ」を導入いたしました。「公大病院アプリ」には、予約確認や来院時の受付、診察の通知などの機能があり、多くの患者さんにご利用いただいています。今後も院内の DX 推進を強化し、医療の質向上を目指してまいりますので、引き続きのご理解、ご支援をお願い申し上げます。

本誌は、当院と地域医療機関の皆様との連携強化を目指して作成いたしました。本誌に記載されている情報が、皆様のお役に立てますと幸いです。

2026 年 4 月

大阪公立大学医学部附属病院は病院機能評価認定病院です。

本院は公益財団法人日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価（機能種別版評価項目3rdG:Ver2.0）の認定を受けています。

《病院機能評価 とは》

医療を見つめる第三者の目。それが病院機能評価です。

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者（サーベイヤー）が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

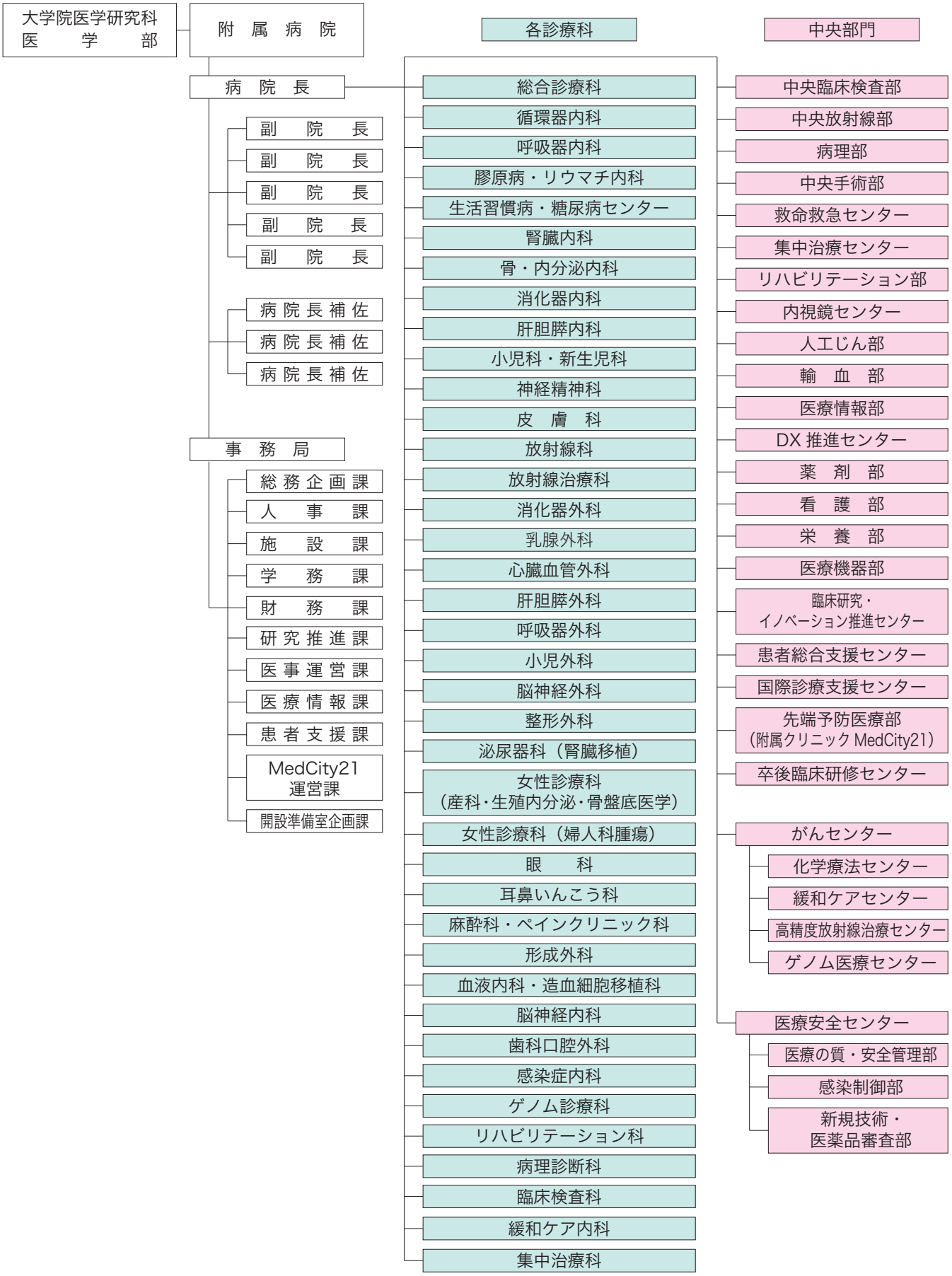
（公益財団法人日本医療機能評価機構Webサイトより）

Japan Council for Quality Health Care

日本医療機能評価機構

認定第 JC1319 号

病院組織図



※本紙は特別な表記がない限り、2026 年４月の情報をもとに作成しております。

病院沿革

1944（昭和19）年 4月	市立医学専門学校設立（北区西扇町12番地） 設立認可S19. 2. 29
	市立南市民病院（篤志家岸本吉右衛門氏の寄付と市費により大正14年6月建設
	阿倍野区旭町1丁目61番地）を市立医専附属病院とする
1947（昭和22）年 7月	大学予科を設置 医科大学設置認可 S22. 6. 18
1948（昭和23）年 4月	市立医科大学開設 旧制 学部開設認可 S23. 2. 20
	附属病院は市立医科大学附属病院となる
1955（昭和30）年 4月	市立医科大学は市立大学に編入、医学部となる
	編入にともない医学部附属病院となる
1956（昭和31）年 3月	附属病院北館竣工（12, 279, 4㎡）
1958（昭和33）年 4月	大学院医学研究科設置 設置認可 S31. 3. 31
1961（昭和36）年 2月	附属病院南館（ガンセンター）竣工（1, 808㎡）
1967（昭和42）年11月	附属病院東館竣工（25, 705㎡）
1970（昭和45）年 4月	附属病院研修医制度 発足
5月	附属病院研究医制度 発足
7月	解剖体慰霊碑建立
1971（昭和46）年 6月	医学部・附属病院両事務組織統一
1974（昭和49）年 5月	附属病院内に金塚小学校養護学級開設
10月	大阪市立大学みおつくし会（篤志献体者の会）発足
1977（昭和52）年 9月	附属病院中央放射線部リニアック棟竣工（382㎡）
11月	附属病院中央臨床検査部 コンピュータ導入
12月	附属病院中央放射線部リニアック診療開始
1985（昭和60）年 7月	附属病院が高度先進医療機関として認可される
	附属病院泌尿器科にて腎結石破砕装置稼動
1986（昭和61）年 2月	附属病院にてＣＣＵ室（冠疾患集中治療室）稼動
7月	附属病院にてＩＣＵ室（集中治療室）稼動
1987（昭和62）年 3月	附属病院医事業務機械化開始
8月	附属病院中央放射線部にて電磁波温熱療法開始
1988（昭和63）年 4月	附属病院にて脊髄誘発電位測定開始
1990（平成 2）年 4月	附属病院に病理部設置
1992（平成 4）年10月	新附属病院竣工
1993（平成 5）年 4月	病院診療科として血液内科、老年科・神経内科、形成外科、総合診療科を新設
	病院中央部門として救急部、集中治療部、冠疾患集中治療部、リハビリテーション部、内視鏡部、人工じん部、輸血部、医療情報部、中央病歴部、中央材料部、薬剤部、栄養部を設置
5月	附属病院本館・南館・北館・東館を順次解体し、現地にて建替え、新附属病院オープン（許可病床数1, 200床）
6月	附属病院前期・後期研究医制度 発足
1997（平成 9）年 2月	特定機能病院として厚生大臣の承認を受ける
3月	「大阪府災害拠点病院」の指定を受ける
4月	心臓血管外科を新設
	医療研修センターオープン
2000（平成12）年 6月	病院中央部門として安全管理対策室の設置（H23 4月に医療安全管理部に名称変更）
2003（平成15）年 8月	許可病床数1, 020床へ変更
2004（平成16）年 4月	卒後臨床研修センター開設
2005（平成17）年12月	医薬品・食品効能評価センター開設
2006（平成18）年 4月	地方独立行政法人への移行により開設者が公立大学法人大阪市立大学となる
2007（平成19）年 3月	スキルスシミュレーションセンター開設
4月	病院診療科を臓器・疾患別に改編
5月	病院中央部門として、化学療法センター、臨床工学部を設置
	財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価（Ver. 5. 0）の認定病院として認定を受ける
2008（平成20）年 4月	厚生労働省より「DPC対象病院」の指定を受ける
6月	許可病床数1, 005床へ変更

2008（平成20）年 7 月	大阪府より「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受ける
2009（平成21）年 4 月	大阪市より「認知症疾患医療センター」の指定を受ける
	厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受ける
2010（平成22）年 2 月	大阪府より「救命救急センター」の承認及び「救急病院」の指定を受ける
4 月	許可病床数 1, 003 床へ変更
10月	大阪府より「地域周産期母子医療センター」の認定を受ける
2011（平成23）年 4 月	病院中央部門として、患者総合支援センターを設置
7 月	許可病床数 982 床へ変更
2012（平成24）年 5 月	公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価（Ver. 6. 0）の認定病院として更新認定を受ける
2013（平成25）年 4 月	許可病床数 980 床へ変更
	病院中央部門として、感染制御部を設置
10月	厚生労働省より「造血幹細胞移植推進拠点病院」に認定される
2014（平成26）年 3 月	ハイブリッド手術室システムの本格稼動開始
4 月	公立大学で全国初の健診施設となる先端予防医療部附属クリニック MedCity21 を開設
7 月	病理診断科を新設
2015（平成27）年 2 月	職業性胆管癌臨床・解析センターを開設
7 月	救急科を新設
10月	歯科・口腔外科、感染症内科を新設
2016（平成28）年 1 月	リハビリテーション科を新設
4 月	許可病床数 972 床へ変更
2017（平成29）年 4 月	臨床検査科を新設
	病院中央部門として病理診断科を病理部に変更
	入退院支援センターを設置
5 月	公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価（3rdG:Ver.1.1）の認定病院として更新認定を受ける
	ドクターカー稼動開始
8 月	中央臨床検査部、輸血部、病理部、感染制御部の臨床検査室が、日本適合性認定協会 ISO15189 の認定を受ける
	医薬品・食品効能評価センターを臨床研究・イノベーション推進センターに改変
2018（平成30）年 4 月	厚生労働省より「がんゲノム医療連携病院」の指定を受ける
	厚生労働省より「認定臨床研究審査委員会」の認定を受ける
	臨床工学部、中央材料部、中央手術部の一部を統合し、医療機器部を設置
11月	大阪府より「大阪府難病診療連携拠点病院」の指定を受ける
2019（平成31）年 4 月	法人統合により開設者が公立大学法人大阪となる
	医療安全センターを新設、その中に医療安全管理部（現：医療の質・安全管理部）、感染制御部、新規技術・医薬品審査部（新設）を設置
	ゲノム医療センターを設置
2020（令和 2 ）年11月	許可病床数　965 床へ変更
2021（令和 3 ）年 1 月	外国人患者受入医療機関認証制度（JMIP）の認証取得
4 月	腎・泌尿器センターを開設
2022（令和 4 ）年 4 月	大学統合により、「大阪公立大学医学部附属病院」へ名称変更
	がんセンターを設置
	大阪府外国人患者受入拠点医療機関　認可を受ける
5 月	西日本初 高精度放射線治療機器「MR リニアックシステム」稼働
10月	集中治療センター（ICU/CCU）を設置
2024（令和 6 ）年 8 月	公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価（3rdG:Ver2.0）の認定病院として更新認定を受ける
10月	DX 推進センターを設置

地域医療機関の先生方へのご案内

地域医療連絡室のご案内

地域医療連絡室では、急性期治療を中心とした高度専門医療の役割である「特定機能病院（当院）」と地域医療機関との病診・病病連携を円滑に行うため、以下の業務を行っております。

▶ご紹介患者さんの外来初診日の予約及び受診相談
▶ご紹介患者さんの受診結果、受診状況の連絡窓口
▶ご紹介元医療機関と当院医師との連絡調整
▶患者さんの逆紹介等の相談

医療機関からの患者さんの受診予約
受付時間：月曜日～金曜日（祝日除く）午前 9 時～午後 7 時 **FAX 06-6646-6215 ／ TEL 06-6645-2877**

■初診予約患者さんの診療予約について

受診される際には「紹介状（診療情報提供書）」のご持参が必要です。
妊娠に関する産科（女性診療科）受診は診療情報提供書（紹介状）なしでも可能ですが、選定療養費がかかります。
完全予約制の診療科・外来以外はご予約なしでの来院も可能です。
《ご予約なしでの初診受付時間》午前 8 時 45 分～午前 10 時 30 分

完全予約制の診療科
・膠原病・リウマチ内科 / 整形外科 / 眼科 / 歯科口腔外科 / ゲノム診療科 ※その他予約が必要な専門外来もあります。「外来診察担当表」にてご確認ください。 【外来診察担当表 掲載場所】病院 Web サイト TOP ＞ご来院の皆さまへ＞外来診察担当表

外来診察担当表

■予約の流れについて

1	診察予約申込書に必要事項をご記入の上、診療情報提供書とともに地域医療連絡室へ FAX にてお申込み下さい。 ※患者さんから直接のお申込みは受け付けておりません。 地域医療連絡室 FAX：06-6646-6215
2	診察日時を調整後、 ・初診予約受付票の送付状 ・初診予約受付票（外来受診のご案内） ・全科共通問診票 を FAX にて返送いたします。 ※総合診療科、膠原病・リウマチ内科、感染症内科、ゲノム診療科、麻酔科・ペインクリニック科、整形外科、神経精神科、放射線科、放射線治療科、総合アレルギー外来は返信に 1 週間程度かかることがありますので、ご了承ください。
3	ご紹介患者さんへ、 ・初診予約受付票（外来受診のご案内） ・診療情報提供書（紹介状） ・全科共通問診票 上記書類をお渡しください。

各診療科のご案内

フロア	診療科名	主な対象疾患
地下1階	放射線科	肝細胞癌、肺癌、閉塞性動脈硬化症や門脈圧亢進症などの血管内治療、ラジオ波治療、RI 検査（シンチ、PET など）、RI 治療（甲状腺がん、バセドウ病、神経内分泌腫瘍）など
	放射線治療科	悪性腫瘍全般、一部の良性腫瘍 など
1階	総合診療科	内科一般、不明熱 など
	感染症内科	感染症一般、呼吸器感染症 など
	ゲノム診療科	遺伝性疾患一般、遺伝カウンセリング、遺伝学的診断 など
	膠原病・リウマチ内科	SLE、関節リウマチ、血管炎症候群、自己炎症性疾患、IgG4 関連疾患 など
	麻酔科・ペインクリニック科	帯状疱疹痛、脊椎疾患による痛み、癌性疼痛 など
	脳神経外科	脳腫瘍、脳血管障害、脊椎・脊髄疾患、てんかん外科 など
	眼科	網膜硝子体疾患（黄斑疾患を含む）、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、眼炎症、眼腫瘍 など
	整形外科	関節外科、手の外科、脊椎外科、骨軟部腫瘍、リウマチ外科、小児整形、スポーツ外科、外傷 など
2階	女性診療科	婦人科（悪性 / 良性腫瘍）、妊娠（合併症 / 正常）、内分泌不妊、骨盤臓器脱 など
	消化器外科	食道・胃・十二指腸、小腸・大腸疾患 など
	肝胆膵外科	肝臓癌、大腸癌などの肝転移、膵癌、胆道癌、神経内分泌腫瘍（NET）、胆石症 など
	皮膚科	皮膚悪性 / 良性腫瘍、薬疹、水泡症、アトピー性皮膚炎 (重症)、尋常性乾癬 (重症) など
	形成外科	顎顔面外科、再建外科、先天性異常、皮膚軟部腫瘍（良性、悪性）、難治性皮膚潰瘍 など
	耳鼻いんこう科	頭頸部腫瘍、めまい、中耳疾患、難聴・耳鳴、鼻副鼻腔疾患 など
	心臓血管外科	虚血性心疾患、弁膜症、大動脈瘤、大動脈解離、肥大型心筋症、成人先天性心疾患、末梢血管病変 など
	呼吸器外科	肺がん、転移性肺腫瘍などの肺腫瘍（良性を含む）、縦隔腫瘍などの胸部腫瘍、気胸 など
	小児外科	小児外科全般、重症心身障がい児の外傷、漏斗胸 など
	乳腺外科	乳腺疾患（良性 / 悪性疾患）など
	循環器内科	狭心症、心筋梗塞、弁膜症、心不全、心筋症、不整脈などの心臓の病気、大動脈や末梢血管の病気、高血圧、肺高血圧症、先天性心疾患、腫瘍循環器（CTRCT）など
	呼吸器内科	呼吸器疾患一般、気管支喘息、慢性肺疾患・肺がん など
	生活習慣病・糖尿病センター	糖尿病、糖尿病性腎症、脂質異常症、肥満症、糖尿病足病変 など
	腎臓内科	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、糖尿病性腎症、多発性のう胞腎 など
	骨・内分泌内科	甲状腺疾患、副腎疾患、副甲状腺疾患、高尿酸血症、骨粗鬆症 など
	脳神経内科	認知症、パーキンソン病、脳卒中、頭痛 など
	消化器内科	消化器疾患、内視鏡検査を要する胆膵疾患 など
	肝胆膵内科	肝・胆・膵疾患、肝炎、肝硬変、肝癌、胆道癌、膵癌 など
	血液内科・造血細胞移植科	白血病（急性 / 慢性）、悪性リンパ腫、骨髄腫、再生不良性貧血 など
3階	小児科・新生児科	先天代謝異常症、小児神経・筋疾患、小児糖尿病疾患、新生児疾患、小児がん など
	泌尿器科（腎臓移植）	腎腫瘍、膀胱腫瘍、前立腺腫瘍、腎移植、腎不全、尿路結石 など
	神経精神科	統合失調症、うつ病、双極性障害、不安障害 など
5階	歯科口腔外科	顎口腔領域に発症する疾患、周術期等口腔機能管理 など

※症状などの事情により受診いただけない場合がございます。

※本様式は当院 Web サイトよりダウンロードしてご利用ください
診察予約申込書 URL ▷ https://omu.info/hsjzexbo

詳細はこちら

大阪公立大学医学部附属病院

FAX：06-6646-6215
TEL：06-6645-2877

・お申込み当日のご予約はできません。
・★印のついている診療科及び紹介内容によっては専門医の確認が必要です。お返事に1週間程度お時間を要する場合があります。
・当院は助産制度対応施設ではございません。

公大ID

診療予約申込書（診療情報提供書）

月　日申込

医療機関情報
医療機関名
住所
TEL／FAX
医師名
担当者

医療連携登録医の方はWeb予約も可能です

登録医番号をご記入ください →

希望の診療科に〇をご記入ください	
	★ 総合診療科
	循環器内科
	呼吸器内科
	★ 膠原病・リウマチ内科
	生活習慣病・糖尿病センター
	腎臓内科 **※採血・尿検査結果事前FAX要**
	骨・内分泌内科
	消化器内科
	肝胆膵内科
	小児科・新生児科
	★ 神経精神科 身長　cm　体重　kg
	皮膚科
	★ 放射線科 ※核医学内用療法外来 **認知症（有・無）、 ADL（独歩）** **難聴（有・無）、 透析（有・無）**
	★ 放射線治療科 **※画像持参必要（CT・MRI）**
	消化器外科　□がんEX外来
	乳腺外科
	心臓血管外科
	肝胆膵外科
	呼吸器外科
	小児外科
	脳神経外科
	★ 整形外科 **※画像持参** **無　・　有　（X-P・CT・MRI）**
	泌尿器科（腎臓移植）
	女性診療科（婦人科・産科）
	眼科
	耳鼻いんこう科 **※聴力検査がある場合、事前FAX要**
	★ 麻酔科・ペインクリニック科
	形成外科
	血液内科 **※採血結果事前FAX要** 身長　cm　体重　kg
	脳神経内科
	歯科口腔外科
	★ 感染症内科
	★ ゲノム診療科
	★ 総合アレルギー外来

患者情報			
フリガナ		性別	□男　□女
氏名		国籍（任意）	
生年月日	□大 □昭 □平 □令 □西暦　年　月　日　歳		
住所	〒		
電話番号	自宅　（　）－（　）－（　） 携帯　（　）－（　）－（　）（続柄：　）		
付き添い	□無　□有（続柄：　）※未成年・認知症外来・神経精神科・皮膚科腫瘍外来は必須		
認知症	□無　□有		
ADL	□独歩　□車いす　□寝たきり　（来院方法：　）		
日本語の理解度	□医療用語可　□日常会話可*　□不可*　言語：*のみ記載（　語） ※患者本人が医療用語の理解が難しい場合は、医療通訳機を使用します		
透析	□無　□有　【□月水金　□火木土】		
保険情報	□国保　□社保　□生保　□労災　□自賠		
保険者番号		生活保護	福祉
記号		負担割合	0割　1割　2割　3割
番号		続柄	□本人　□家族
希望医師	□無　□有（　）		
受診希望日	原則最短日で予約取得します（　月　日以降予約希望） 第一希望　月　日　第二希望　月　日 第三希望　月　日　第四希望　月　日 □いつでも良い　希望曜日　□月　□火　□水　□木　□金 ご都合の悪い日：		
持参資料	□無　□有【□採血データ　□X-P　□CT　□MRI】		
病名			
症状及び検査結果	□　別紙参照（貴院指定の診療情報提供書を添付ください）		
大阪公立大学医学部附属病院記入欄			

※消化器外科（がんEX外来）の場合は、初診日当日に検査が必要になりますので、当日朝より絶食でご来院下さい
※がんEX外来（以下全て確認し☑が必要）：
□内視鏡検査終了　□消化器がん(疑い)の診断　□患者に説明済　□独歩または家族付き添い可　□重度の併存疾患なし

セカンドオピニオンのご案内

当院では、当院以外の医療機関で診療を受けておられる方を対象に、診断内容や治療方針について、当院の専門医が意見を提供し、現在の治療の内容や他の治療法等について意見を提示する「セカンドオピニオン制度」を導入しています。

医療機関の方もしくは患者さんやご家族の方からの申込みを受け付けております。

対象疾患	主に「がん疾患」「心疾患」「脳血管疾患」等 ※対応できない場合もございますので、事前にお問い合わせください。
費用について	1 回あたり 33,000 円（※全額自費となり、保険適用されません。） 時間は、「事前検討」「意見書作成」「面談」を含めて 60 分以内です。
ご用意いただくもの	・セカンドオピニオン外来申込書
	・診療情報提供書
	・検査資料（レントゲンフィルム、検査データ等）
	・相談同意書（患者本人以外の方がご相談に来られる場合） ※患者本人が相談に来られない場合は、続柄を確認できる書類が必要です。

セカンドオピニオン詳細・必要書類はコチラ▷
https://omu.info/vqfcjaos

詳細はこちら

■対象外診療科

当院でのセカンドオピニオン外来の対象外となる診療科は以下の通りです。

・総合診療科　・女性診療科　・神経精神科　・眼科　・皮膚科腫瘍

■申込み方法

完全予約制となっております。一度ご連絡をいただき、「ご用意いただくもの」に記載された書類を下記までご提出ください。面談日につきましては、ご希望をお聞きし各専門医と調整のうえ、個別にご連絡させていただきます。

※お返事には、１～２週間かかります。

持参の場合

大阪公立大学医学部附属病院 1 階医療相談窓口①番

郵送の場合

〒 545-8586 大阪市阿倍野区旭町 1 丁目 5 番 7 号

大阪公立大学医学部附属病院 地域医療連絡室 セカンドオピニオン外来受付

お問い合わせ窓口

セカンドオピニオン外来受付　TEL 06-6645-3399

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日除く）午後 1 時～午後 3 時

医療連携登録医制度のご案内

詳細はこちら

当院では、地域医療機関との一貫的な医療連携の強化と医療サービスの質的向上を目的として、医療連携登録医制度を実施いたしております。

■医療連携登録医の連携内容及び特典

1. 医療連携登録医認定証の発行
2. 優先的な逆紹介
3. 地域医療情報連携ネットワーク（Web 予約システム・診療記録閲覧システム）が利用可能
   ※詳細は P.11「地域医療情報連携ネットワーク」をご覧ください。
4. 広報誌（患者総合支援センターたより）等の配布
5. 当院主催の講演会・研究会への参加案内など情報の案内
6. 医療連携「Face to Face の会」の案内
   ※年 3 回開催していますので是非ご参加ください。





■お申し込み方法

STEP 1

病院 Web サイトより「医療連携登録医制度要綱」及び「地域医療連携システム利用要綱」をお読みのうえ、「医療連携登録医申請書」を申請窓口までご郵送ください。
【掲載場所】
病院 Web サイト TOP ＞医療関係者の方へ＞医療連携登録医制度

STEP 2

お送りいただきました申請書を当院で確認後、登録医認定証を発行いたします。
【送付資料】
・登録医認定証　・地域医療連携システムに係る資料等　・病院概要

申し込み・お問い合わせ窓口

〒 545-8586　大阪市阿倍野区旭町 1 丁目 5 番 7 号

大阪公立大学医学部附属病院　患者支援課

TEL 06-6645-2857　電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日除く）午前 8 時 45 分～午後 5 時 15 分

地域医療情報連携ネットワーク

■ Web 予約システム

詳細はこちら

「医療連携登録医」になると、WEB で外来初診がいつでも予約可能な“ WEB 予約システム ”をご利用いただけます。

メリット

・地域医療連絡室を介することなく、速やかにその場で予約が取れます。
・患者さんにその場ですぐに予約票をお渡しすることができます。

■診療記録閲覧システム

1．概要

当院では、「医療連携登録医」の先生が同意を得た患者さんの診療記録をインターネットを利用し、閲覧するシステムを導入しています。これにより「医療連携登録医」の先生が患者さんの検査・処方・画像などの大阪公立大学医学部附属病院の診療記録を閲覧することができ、治療経過を把握することができます。当システムを利用するにあたり、患者さんの費用負担はありません。

2．閲覧できる情報

・病名　・プロファイル　・退院サマリ　・看護サマリ　・経過表　・移動情報（入院・退院等）
・チーム医療　・検体検査結果　・細菌検査結果　・放射線画像　・生理検査レポート　・内視鏡画像
《各種オーダ情報》
・食事　・診察予約　・処方　・注射　・手術　・透析　・輸血　・処置　・指導料　・栄養指導

3．同意と撤回

当院の医療連携登録医による診療記録の閲覧が可能となるのは、同意書を提出した患者さんのみです。患者さんが同意撤回書を医療連携登録医もしくは大阪公立大学医学部附属病院に提出した場合は、診療記録の閲覧が中止となります。

4．個人情報の保護

患者さんの診療記録を閲覧できるのは、医療連携登録医のみです。

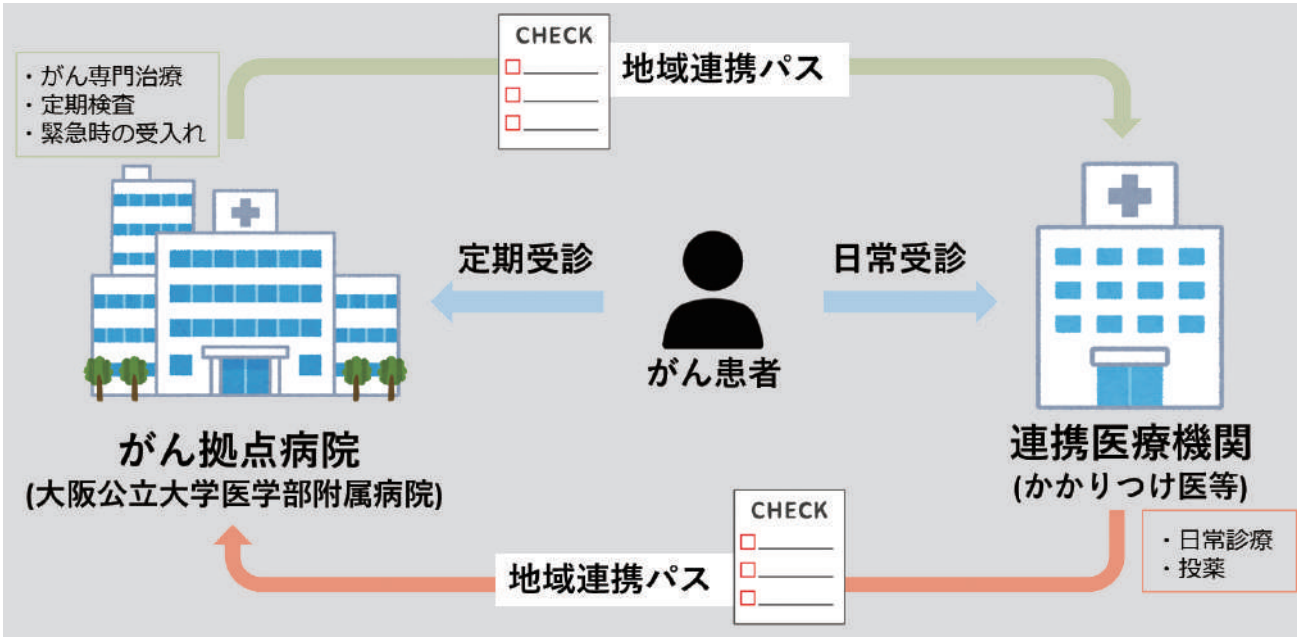
当システムは、SSL-VPN という厚生労働省ガイドラインが推奨する暗号化通信の方式で行っており、厳格に情報の保護を行っています。

5．利用手続き

1 利用お申し込み → 2 患者さんの同意 → 3 同意書の送付 → 4 診療記録閲覧開始

がん診療地域連携パス

がん診療地域連携パスとは、がん患者さんを、がん診療の拠点病院医師と地域の「かかりつけ医」の先生とで、診断・治療を機能分担し、連携しながら共同で診療するシステムを築き、相互が共有する「診療計画表」のことをいいます。患者さんは、共有する診療計画表に基づいて、専門的診療は大阪公立大学医学部附属病院で、日常診療や薬の継続処方は地域の「かかりつけ医」に診てもらうため、「二人の主治医」を持つことになります。そうすることで、長い待ち時間の解消や通院時間が短縮されるとともに、患者さん自身によるがん診療の計画や経過の把握も容易となります。



「がん診療地域連携パス」を用いたがん診療のながれ

■対象疾患

当院では現在、下記の疾患を中心に連携パスを作成し運用しています。

乳がん　大腸がん　胃がん　血液疾患　婦人科腫瘍　肝がん

※血液疾患と婦人科腫瘍につきましては、連携内容に専門的な治療を含みますので、ご対応頂けるか確認のご連絡をさせていただきます。

■がん治療計画連携医療機関の登録について

ご専門に応じてがん地域連携パスを選択していただき、事前に当院に「連携登録申請書」の提出をお願いいたします。患者さんが当院での治療後に地域連携パスの治療適用となった場合に、定期的なフォローをお願いすることになります。

がん診療地域連携パス詳細・連携登録申込書はコチラ▷
https://omu.info/eziwaisc

詳細はこちら

患者さんへのご案内　患者さん受診時の案内資料としてご活用ください

がんの情報室のご案内

患者さん向けのがんに関するさまざまな情報を掲載しております。
対象の方がいらっしゃいましたらぜひご案内ください。





【病院 Web サイト URL】
https://www.hosp.omu.ac.jp/

詳細はこちら

■がんの種類と治療法

各種がんに対する、当院の基本的な対応状況をまとめています。
患者さんご紹介時にぜひご活用ください。

■患者会

当院では患者さんが主体となり患者会を開催しております。
不安な気持ちや、支えが必要となった時、お気軽にご相談ください。
開催日時：不定期開催
参加対象：患者または患者家族（当院の通院歴は問いません）





■市民公開講座

一般市民の方を対象にがんに関する市民公開講座を開催しております。

■アピアランスケア相談会

毎月第２木曜日と第４火曜日にアピアランスケア相談会を実施しております。
▶ウィッグのご紹介とご試着やアドバイス　▶脱毛時のご相談　▶ウィッグ装着のポイント　等

■両立支援・就労支援

当院では大阪産業保健総合支援センターやハローワーク阿倍野と連携し、両立支援・就労支援についてのご相談を受け付けております。
▶治療内容から働き続けられるかわからない　▶自分の病状、体力にあった仕事を見つけたい　等

初診患者さんの受診の流れについて

初診の患者さんは紹介状（診療情報提供書）が必要です。

当院では、厚生労働省が定める「特定機能病院」として、急性期治療を中心に高度専門医療を必要とされる患者さんの診療を行っております。また、その役割を果たすため、地域の医療機関と相互に協力・連携を推進しております。紹介状（診療情報提供書）をお持ちでない方は、ご希望の診療科を受診できない可能性があります。

地域医療連絡室経由
FAX 予約

登録医のみ
Web 予約

入口すぐの整理番号発券機で予約のある方を選択し、整理番号をお取りください。

窓口のモニターに整理番号が表示されたら、初診受付③④番窓口にお越しください。

紹介状を持参
ご予約なしでの来院

受付時間：午前 8 時 45 分～午前 10 時 30 分

入口すぐの整理番号発券機で予約のない方を選択し、整理番号をお取りください。

診察申込書をご記入ください。

窓口のモニターに整理番号が表示されたら、初診受付⑤番窓口へお越しください。

【窓口でご提出いただくもの】

○整理番号 ○診察申込書（ご予約なしでの来院の方のみ）○紹介状（診療情報提供書）・（お持ちの方は）CD-R
○マイナ保険証（カード・スマホ）／資格確認書・（お持ちの方は）医療受給者証・医療券等

診察券のご用意ができましたら、⑥番窓口よりお呼びします。

【窓口からお渡しするもの】

○診察券　○外来案内図
○資格確認書・（お持ちの方は）医療受給者証・医療券等
※CD-R はデータ取込みに時間がかかるため、診察終了後に総合案内よりお返しします。引換券をお持ちください。

受診される診療科へお越しください。
診察券と紹介状（診療情報提供書）、全科共通問診票（お持ちの方）を診療科受付へお渡しください。

診察・検査
外待合の案内ディスプレイに受付票の番号が表示されたら、中待合へお入りください。
診察終了後、担当者より黄色の会計ファイルをお渡ししますので中待合でお待ちください。

会　計
1 階計算受付（7～12 番窓口）に黄色の会計ファイルをお渡しください。
計算ができましたら会計モニターに受付票の番号を表示します。番号が表示されましたら、自動支払機にてお支払いください。一部自動支払機でお支払いいただけない場合がございます。その場合は支払窓口でお支払いください。領収書の再発行は出来ませんので、大切に保管してください。

患者さんへの支援体制について

当院では、患者さんやそのご家族が治療を行う上での不安や悩みにお応えできるようにさまざまな相談窓口を設けております。看護師や医療ソーシャルワーカーをはじめ、豊富な知識を持った相談員が常駐し対応できる体制を整えています。対象の患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご案内ください。

受診科相談	医療・疾病相談	制度・費用相談
がん相談支援センター	肝疾患相談支援センター	認知症疾患医療センター

ご相談がある方は総合案内または 1 階①②番窓口にお声がけください。

■受診科相談　窓口対応時間：午前 8 時 45 分～午後 4 時 45 分

初診の患者さんが適切な診療科に受診できるようご案内を行っております。

■医療・疾病相談　窓口対応時間：午前 9 時 00 分～午後 4 時 45 分

疾病に関する相談、日常生活および入院の不安等に関するご相談をお伺いします。

■制度・費用相談　窓口対応時間：午前 9 時 00 分～午後 4 時 45 分

医療費や保険制度、福祉・介護サービスに関するご相談をお伺いします。

■がん相談支援センター　窓口対応時間：午前 9 時 00 分～午後 4 時 45 分

地域がん診療連携拠点病院として、がん相談員が療養上の不安や問題について一緒に考え、解決のお手伝いをさせていただきます。がん診療に関する一般的な医療の情報提供はもちろん、就労支援、患者会情報の提供等も行っています。

■肝疾患相談支援センター　窓口対応時間：午前 9 時 00 分～午後 4 時 45 分

大阪府肝疾患診療連携拠点病院として、肝炎コーディネーターの事務職員が、肝疾患に関するご質問や助成制度についてご説明します。治療やお薬など専門的な内容は、肝臓専門医や薬剤師と連携を取る体制を整えています。

■認知症疾患医療センター　窓口対応時間：午前 9 時 00 分～午後 4 時 45 分

ご本人、ご家族から認知症に関してお困りになっていることについてご相談をお伺いします。

MedCity21 のご紹介

人間ドックコース

標準コース　半日（食事券付）
・初めて人間ドックを受ける方　・生活習慣を改善したい方　・４０歳を過ぎたら
人間ドックの標準的な項目をご受診いただき病気の早期発見をめざします。検査項目には腫瘍マーカーやピロリ菌検査も含まれています。女性の方はマンモグラフィ又は乳腺超音波と子宮細胞診の検査も実施します。

ライフスタイルコース　半日（食事券付）
・生活習慣病やメタボリックシンドロームが気になる方　・血圧、血糖値、脂肪、肥満が気になる方　・運動不足の方
生活習慣から生じる様々な病気を早期に見つけるためのコースです。標準コース（上部消化管検査は除く）に、MRI、CT による画像検査・超音波検査・骨密度測定・糖負荷試験などの血液検査を追加した健診内容になります。

がんコース　半日 (食事券付）
・がんが気になる方（がん家系と思われる方など）　・家族のために
全身のがんを早期に発見するためのコースです。標準コースに CT による画像検査・超音波検査・腫瘍マーカー・ペプシノゲン検査などの検査項目を追加した健診内容になります。

スマートエグゼクティブコース　日帰り（食事券付）
・日帰りで効率的に全身の検査を行いたい方　・生活習慣病やメタボリックシンドロームが気になる方
スケジュールへの負担を最小限に抑えつつ、限られた時間で効率的に全身の健康管理を行いたい方におすすめです。

エグゼクティブコース　１泊２日（夕食・昼食付）
・時間をかけてくまなく全身を検査したい方　・生活習慣病やメタボリックシンドロームが気になる方
健診施設にある検査機器をフルに活用します。様々な角度から全身を調べることで病気の早期発見をめざします。健診は１日目の午後から開始し、２日目の午前中までの１泊２日で実施します。【宿泊：大阪マリオット都ホテル】

PET/CT エグゼクティブコース　１泊２日（夕食・昼食付）
・がんが気になる方（ がん家系と思われる方など）　・病変の早期発見を希望する方
・がん治療後の再発が気になる方　・時間をかけてくまなく全身を検査したい方
MedCity21 で受診いただけるエグゼクティブコースの内容をほぼ網羅し、さらに 5mm 程度の病変（がん組織も含む）を画像化できる高性能な PET/CT 装置による検査を追加したプレミアムなコースです。特にがんが気になる方におすすめです。１日目に MedCity21 にて各検査をご受診いただき、２日目に大阪公立大学医学部附属病院にて PET/CT 検査をご受診いただきます。【宿泊：大阪マリオット都ホテル】

専門ドックコース

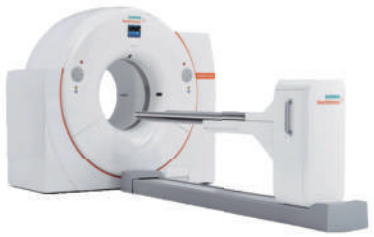
エイジングチェックコース（食事券付）
・最近物忘れが気になる方　・老化が気になる方　・疲れがたまっていると感じる方
現在の老化度、ストレス状態の測定に焦点をあてた健診コースです。各種の検査項目（一般検査・画像検査・血液検査等）に、筋肉年齢・認知機能・神経調和など、身体の老化度をチェックする検査項目を加え、老化予防にご活用いただけます。

脳ドックコース
・高血圧　・糖尿病　・肥満　・喫煙
MRI･MRA、超音波検査などの検査と血液検査で脳の血管状態を重点的に検査します。無症候性脳梗塞、未破裂動脈瘤、脳腫瘍、脳動脈奇形などの早期発見をめざします。

レディースコース
婦人科・乳腺疾患に特化したコースです。検査は専門医・女性技師が女性専用フロアで行います。検査にあまり長時間は取りたくないけれど、女性特有の病気はしっかり検査したいという方におすすめです。
スタイリッシュ … 血液・乳房・婦人科の検査を行うベーシックコース
ラグジュアリー … 骨盤 MRI・甲状腺・感染症検査等を追加した充実コース（食事券付）

PET 検診コース
FDG-PET 検査と CT 検査を同時に実施できる専用装置を使って行う PET/CT 検査と基本的な検査コースです。PET 検査を受けてみたい方、がん治療後の転移や再発が心配な方にもおすすめです。標準･ライフスタイル･がんコースとの同時受診も可能です。

▌施設と医療機器のご紹介



PET/ CT 装置

5mm 程度の病変（がん組織も含む）も描出（画像化）できます。



MRI 装置（1.5 テスラ）

高精度なＭＲＩ画像を得ることできます。楕円形の開口部が圧迫感を軽減します。



16 列マルチスライス X 線 CT 装置

開口部が広く圧迫感を軽減します。被ばく量を抑えながら高画質を実現します。



デジタルマンモグラフィ

3D マンモグラフィ（トモシンセシス撮影）ができます。圧迫時の痛みや不快感を軽減する機能も搭載されています。



内視鏡

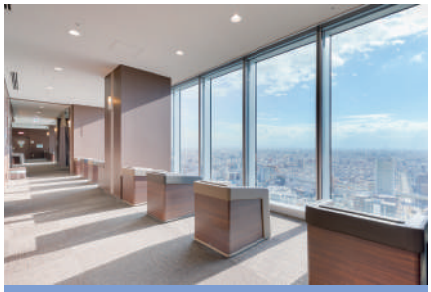
苦痛の少ない経鼻内視鏡を採用しています。



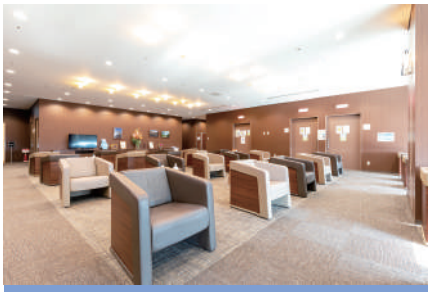
肝硬度測定装置

身体の外側から超音波をあてて肝臓の硬さを測定。検査は数分で終了します。

▌室内のご紹介



ハルカス 21 階からの景色もお楽しみください。



高級感溢れる落ち着いた雰囲気の待合



女性特有の検査もリラックスして受けられる女性限定エリアもございます。

撮影協力：マーソ株式会社

大阪公立大学医学部附属病院
先端予防医療部附属クリニック MedCity21

〒 545-6090　大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43　あべのハルカス 21 階

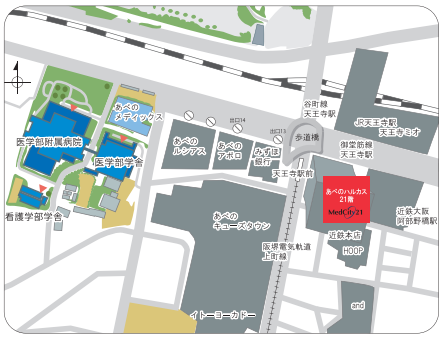
受付時間：月～土曜日　/　9：00 ～ 16：30　休診日除く

休 診 日：日曜日 / 祝祭日 / その他（年末年始等）

ご予約は 06-6624-4011

https://www.hosp.omu.ac.jp/medcity21/

詳細はこちら



Topics

当院の取り組み

■ AI 電話

詳細はこちら

当院では 2025 年 8 月 1 日より、再診予約変更用の AI 電話を導入しています。その後、診断書窓口、MedCity の予約受付にも順次導入しています。これにより電話が繋がりにくい問題の解消を図っています。



- 2025 年 8 月
  AI 電話稼働
- 2025 年 11 月
  MedCity の検診受付用の AI 電話稼働
- 2025 年 12 月
  診断書受付窓口用の AI 電話稼働
- 2026 年 1 月
  対応時間を 24 時間に拡大
- 2026 年 7 月
  地域連携窓口用に AI 電話稼働予定

■公大病院アプリ

詳細はこちら

患者さんの通院をより快適するためのツールとして 2026 年 3 月 26 日より公大病院アプリの運用を開始しています。



今後の当院の取り組み

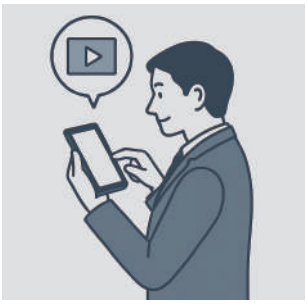
■生成 AI

これまで時間を要していた退院サマリの要約などに利用し、記録時間を短縮して、医療職の負担軽減を図ります。



■動画説明ツール

診察時や手術・処置などの説明を動画にすることで、時間や場所を問わず内容を確認できます。



■音声入力

音声入力を利用して、タイピングと記録の手間を省略し、確保できた時間で患者サービスを向上します。



さらなる患者満足度向上と、デジタル技術を「道具」として使いこなし、職員一人ひとりが「いつも通り」をアップデートし、自分らしい働き方を創ることで選ばれる公大病院を目指します。

診療科部門紹介

副…診療科副部長

総合診療科
General Medicine

外来受付
1階01番　TEL.（06）6645-3301
午前8時45分～午後4時45分［平日］
［初診：月～金 / 午前9時～午前10時30分］

詳細はこちら

診療科部長、教授
しゅとう　たいち
首藤　太一



専門
総合外科、総合診療

スタッフ

副
とちの　よしひろ
准教授　**栃野　吉弘**
【専門】総合内科、呼吸器内科、総合診療

とよだ　ひろみつ
准教授　**豊田　宏光**
【専門】総合診療、整形外科

なみかわ　ひろき
講師　**並川　浩己**
【専門】総合内科、総合診療

ふくもと　かずお
講師　**福本　一夫**
【専門】総合内科、総合診療

まくうち　あやこ
講師　**幕内　安弥子**
【専門】総合内科、総合診療、漢方

おくやま　なおき
病院講師　**奥山　直木**
【専門】総合内科、総合診療

診療科の特徴

「大学病院を受診させたいが、担当診療科がわからない」、「現在診療中であるが、大学病院の医師の意見も聞いてみたい」等の患者さんがおられましたらご紹介ください。紹介状を持たない初診患者さんや診断のついていない患者さんの診療を行っています。当科は、総合内科専従スタッフ、専門領域をもつ医師（肝胆膵、呼吸器、整形外科）ならびにシニアレジデントで診療に当たっています。病状が軽症の場合は、当科で診療を完結させ、専門的な臓器別診療が必要と判断した場合には、大学病院をはじめとした適切な診療科へ紹介させていただきます。また当科は、医学教育部門も兼ねているため、「十分な問診と身体診察から、診断にせまる」、「病変臓器のみにとらわれず、常に心理・社会的背景を含めた全身に気を配って診療を行う」、すなわち、「病でなく人を診る」という基本的診察能力の向上を、研修医をはじめとする若手医師に徹底しております。患者さんからは、「こんなに話を聞いてもらえるとは思わなかった」、「じっくり身体診察してもらって安心した」等のご意見もいただいております。原因のはっきりしない症状、検査結果や健康診断で異常を指摘されてお困りの際にご紹介いただければと思います。

対象疾患

［主力疾患］
・不明熱　・原因不明の症状や検査結果全般　・体重減少
・全身倦怠感　・浮腫　・意識消失　・関節痛
・頭痛　・胸痛　・腹痛　・腰背部痛
・慢性咳嗽　・慢性下痢　・筋力低下　・めまい　・しびれ
・呼吸困難　・動悸　・リンパ節腫脹

［対応できる疾患］
・肺炎　・尿路感染症　・伝染性単核球症
・リウマチ性多発筋痛症　・偽痛風　・RS3PE 症候群

主な診療実績

初診患者　622 名
再診患者　1105 名

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

循環器内科
Cardiovascular Medicine

外来受付
2階13番　　TEL.（06）6645-2306
［初診：月～金 / 午前9時～午前10時30分］

詳細はこちら

診療科部長、教授
ふくだ　だいじゅ
福田　大受



専門
循環器疾患全般、動脈硬化性疾患、冠動脈疾患、メタボリック症候群

スタッフ

ひがしくに　やすとみ
准教授　**東邦　康智**
【専門】心不全、腫瘍循環器、循環器一般

おおつか　けんいちろう　副
准教授　**大塚　憲一郎**
【専門】冠動脈疾患、血管病、循環器画像診断

いとう　あさひろ
講師　**伊藤　朝広**
【専門】弁膜症、構造的心疾患、成人先天性心疾患、心不全、循環器画像診断

しばた　あつし
講師　**柴田　敦**
【専門】心不全、心筋症、心臓リハビリテーション

はやし　ゆうすけ
講師　**林　雄介**
【専門】カテーテルアブレーション（心室頻拍）、心臓デバイス植込み

おがわ　まな
病院講師　**小川　真奈**
【専門】弁膜症、構造的心疾患、心不全、循環器画像診断

かがわ　しゅんすけ
病院講師　**加川　俊介**
【専門】低侵襲カテーテル治療、構造的心疾患、冠動脈疾患、弁膜症

やまぐち　ともひろ
病院講師　**山口　智大**
【専門】冠動脈疾患、低侵襲カテーテル治療、肺高血圧症

やなぎした　ともや
病院講師　**柳下　知哉**
【専門】不整脈疾患全般、カテーテルアブレーション、心臓デバイス植込み

よしだ　としたけ
病院講師　**吉田　俊丈**
【専門】心不全、心筋症、心臓リハビリテーション

おかもと　あきひろ
病院講師　**岡本　彬裕**
【専門】冠動脈疾患、低侵襲カテーテル治療

しまだ　たけのぶ
特任助教　**島田　健晋**
【専門】冠動脈疾患、末梢動脈疾患

診療科の特徴

当科では、あらゆる循環器疾患に対して診療を行っています。特に、心筋梗塞、狭心症などの冠動脈疾患は緊急性を伴うため、24時間体制で緊急カテーテル治療に対応しております。高齢化社会の到来により増加している弁膜症に対しては、心臓血管外科と協力のもと、外科手術が迅速におこなえる体制を構築しております。

また、経皮的大動脈弁留置術（TAVI）、経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）、経皮的左心耳閉鎖術など、より低侵襲で施行できる各種カテーテル治療も積極的に行っております。

難治性不整脈に対しては、薬物治療のみならず、ペースメーカー、植込み型除細動器、カテーテル心筋焼灼術などを施行しています。また、心疾患の終末像である心不全も増加していますが、従来の薬物治療に加えて、ペースメーカー治療や心臓リハビリテーションなどにも積極的に取り組んでいます。心臓移植が必要な治療抵抗性の重症心不全例に対しては、国立循環器病研究センターとも連携して治療にあたっております。

対象疾患

［主力疾患］
・冠動脈疾患全般　・狭心症　・心筋梗塞　・急性心不全
・慢性心不全　・心筋症（拡張型、肥大型）　・不整脈全般
・心房細動　・頻脈性不整脈　・徐脈性不整脈
・弁膜症全般　・大動脈弁狭窄症　・僧帽弁閉鎖不全症
・心房中隔欠損症　・動脈管開在症　・閉塞性動脈硬化症
・動脈硬化全般

［対応できる疾患］
・先天性心血管疾患全般　・心室中隔欠損症　・肺性心疾患
・肺高血圧　・大動脈疾患全般　・大動脈瘤　・大動脈解離
・心サルコイドーシス　・心アミロイドーシス　・ブルガダ症候群
・ＱＴ延長症候群　・心ファブリー病　・高安病
・深部静脈血栓症　・肺血栓塞栓症　・高血圧　・感染性心内膜炎

主な診療実績

冠動脈インターベンション（PCI 総数）	220 件
末梢動脈インターベンション（EVT 総数）	38 件
カテーテルアブレーション	254 件
心臓デバイス植込み (PM)	68 件
心臓デバイス植込み (ICD)	13 件
心臓デバイス植込み (CRT)	11 件
経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）	102 件
経皮的僧帽弁修復術（M-TEER）	12 件
経皮的左心耳閉鎖術（LAAO）	14 件
バルーン肺動脈形成術（BPA）	29 件
心臓リハビリテーション	5425 件
心肺運動負荷試験（CPX ）	157 件
心筋生検	59 件
経胸壁心エコー検査	8547 件
経食道心エコー検査	547 件
冠動脈（心臓）CT 検査	1203 件
心臓 MRI 検査	166 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

呼吸器内科
Respiratory Medicine

外来受付
2 階 13 番　　TEL.（06）6645-2306
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
かわぐち　ともや
川口　知哉



専門
肺腫瘍

スタッフ

副
あさい　かずひさ
准教授　**浅井　一久**
【専門】 COPD 、気管支喘息

やまだ　かずひろ
講師　**山田　一宏**
【専門】 呼吸器内科全般

なかい　としゆき
講師　**中井　俊之**
【専門】 呼吸器内科全般

まつもと　よしや
病院講師　**松本　吉矢**
【専門】 呼吸器内科全般

きむら　たつお
准教授　**木村　達郎**（先端予防医学）
【専門】 肺腫瘍

とちの　よしひろ
准教授　**栃野　吉弘**（総合医学教育学）
【専門】 COPD、気管支喘息、睡眠時無呼吸症候群

わたなべ　てつや
准教授　**渡辺　徹也**（医療の質・安全管理学）
【専門】 呼吸器内科全般

かねだ　ひろやす
准教授　**金田　裕靖**（臨床腫瘍学）
【専門】 肺腫瘍

たに　ようこ
講師　**谷　陽子**（臨床腫瘍学）
【専門】 肺腫瘍

診療科の特徴

気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺がんの増加など、呼吸器疾患はますます我々の日常生活を脅かすものとなりつつあります。当科外来では、幅広い呼吸器疾患に対応できるように月曜日から金曜日まで呼吸器専門医２～３名の体制で初診、再診患者さんに対応しています。加えて、COPD 外来、睡眠時無呼吸症候群外来、化学療法センター外来などの各種の専門外来を設けており、専門的診療も提供しています。

また、重症喘息への生物学的製剤の導入、COPD に対する在宅酸素、在宅ハイフローセラピー、在宅非侵襲的陽圧人工呼吸、呼吸リハビリテーション、肺がんに対しては超音波内視鏡、クライオバイオプシー、局所麻酔科胸腔鏡、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤など高度な専門的診断・治療を行っています。病診連携・病病連携により、地域の先生方と協力しながら呼吸器疾患の診療に取り組んでいます。

多岐にわたるの呼吸器疾患患者さんのご紹介をお待ちしております。

対象疾患

[主力疾患]
・気管支喘息　・COPD　・間質性肺炎　・原発性肺癌
・呼吸器感染症（肺結核を除く）　・胸膜炎　・慢性咳嗽
・睡眠時無呼吸症候群

[対応できる疾患]
・気胸　・縦隔腫瘍　・気管支拡張症　・副鼻腔気管支症候群
・びまん性汎細気管支炎　・肺サルコイドーシス
・肺血栓塞栓症（診断のみ）

主な診療実績

（1）年間の通院患者数
気管支喘息 約 350 人、COPD 約 250 人、肺がん 約 350 人、
間質性肺疾患 約 100 人

（2）2025 年度の実績

気管支鏡検査	510 件
クライオバイオプシー	154 件
超音波気管支鏡ガイド下針生検	153 件
エコーガイド下針生検	2 件
局所麻酔胸腔鏡検査	14 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

膠原病・リウマチ内科
Clinical Immunology and Rheumatology

外来受付
1 階 01 番　TEL (06)6645-3301
午前 9 時～午後 3 時 30 分
[初診 月～金 午前 9 時～午前 10 時]

詳細はこちら

診療科部長、教授
はしもと　もとむ
橋本　求



専門
膠原病・リウマチ性疾患

スタッフ

准教授　やまだ　しんすけ　**山田　真介**
【専門】膠原病・リウマチ性疾患

講師　わたなべ　りゅう　**渡部　龍**
【専門】膠原病・リウマチ性疾患

講師　ふくもと　かずお　**福本　一夫**
【専門】膠原病・リウマチ性疾患

病院講師　かつしま　まさお　**勝島　將夫**
【専門】膠原病・リウマチ性疾患

病院講師　ふじた　ゆうや　**藤田　雄也**
【専門】膠原病・リウマチ性疾患

診療科の特徴

膠原病・リウマチ性疾患の症状は全身多岐に渡るため、様々な診療科が集う大学病院の特性を生かし、他の専門科と相談しながら、多角的な診察の上での診断・治療を行うよう心掛けています。一方で、これら疾患では人生を通じたフォローを必要とすることが多いため、地域医療を担う先生方との連携が不可欠であると考えています。可能な限りすべての患者さんにかかりつけ医をお持ちいただき、先生方との病病・病診連携を十分に図ることで、それぞれの長所を生かした安心感のある医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

近年の膠原病･リウマチ性疾患における治療技術の進歩は目覚ましく、様々な分子標的薬や免疫抑制薬・免疫調整薬に開発より、かつては難治性であった多くのケースでも寛解を目指せる時代になってきました。一方で、薬剤を選択する際の診断的根拠については依然未解明な部分が多く、また最新治療に対しても抵抗性を示す症例も少なからず存在しています。そこで、当科では患者さんの診療結果をデータベース化することで、その解析結果から得られるエビデンスをもとに、それぞれの症例に最も適した治療法を選択するよう、十分に検討しながら治療をすすめるようにしています。

対象疾患

[主力疾患]
・関節リウマチ　・全身性エリテマトーデス　・多発性筋炎
・皮膚筋炎　・全身性強皮症　・シェーグレン症候群
・混合性結合組織病　・血管炎症候群　・IgG4 関連疾患
・成人発症スティル病　・ベーチェット病　・再発性多発軟骨炎、
・リウマチ性多発筋痛症　・RS3PE 症候群　・脊椎関節炎

[対応できる疾患]
・家族性地中海熱　・VEXAS 症候群　・A20 ハプロ不全症
・PFAPA 症候群

主な診療実績

（1）外来患者数
延べ 10090 例 (うち初診 808 例)

（2）入院患者数：309 例

血管炎症候群	60 名
関節リウマチ	50 名
全身性エリテマトーデス	25 名
全身性強皮症	19 名
多発性筋炎・皮膚筋炎	16 名
IgG4 関連疾患	12 名
シェーグレン病	12 名
成人発症スチル病	7 名など

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

生活習慣病・糖尿病センター（糖尿病・代謝内科）
Diabetes Center

外来受付
2 階 14 番　　TEL.（06）6645-2311
[初診：月～金　午前 9 時～午前 10 時 30 分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
えもと　まさのり
繪本　正憲



専門
糖尿病、糖尿病性腎症、肥満症、内分泌疾患

スタッフ

副
もりおか　ともあき
准教授　**森岡　与明**
【専門】 糖尿病、肥満症、先進糖尿病治療

かくたに　よしのり
講師　**角谷　佳則**
【専門】 糖尿病、肥満症、先進糖尿病治療

みき　ゆうや
講師　**三木　祐哉**
【専門】 糖尿病、内分泌疾患

診療科の特徴

生活習慣病・糖尿病センターでは、糖尿病、脂質異常症、肥満症など代謝性疾患の早期から合併症進行例に至るまで幅広く担当しております。慢性疾患を抱えた患者さんトータルの問題点解決をめざし、各診療科・地域の医療機関に安心して連携・診療していただけるよう尽力しております。とくに腎臓内科、骨・内分泌内科をはじめ多数の診療科と連携し、以下のような活動に力を入れております。

①多職種（薬剤師、栄養士、看護師）による生活習慣改善の支援、②持続血糖モニタリング (CGM) などによる病態解析および個別の治療選択、③最新の機器を用いた血管合併症の評価と積極的な治療介入、④『iPumpCGM 外来』における CGM 付きインスリンポンプ (SAP) 療法やカーボカウントなど 1 型糖尿病の最新治療、⑤ Diabetes Control/Care Team (DCT) による周術期血糖管理、妊娠・周産期の血糖管理、院内『フットケアチーム』による足病変に対する集学的治療、⑥低血糖症の精密検査・診断、⑦肥満症の専門診療、薬物療法。

対象疾患

[主力疾患]

- ２型糖尿病
- １型糖尿病
- 糖尿病性腎症
- 脂質異常症
- 家族性高コレステロール血症
- 動脈硬化症
- 肥満症
- 高度肥満症
- 高尿酸血症
- 慢性腎不全
- 高血圧症
- メタボリックシンドローム
- 妊娠糖尿病
- 糖尿病合併妊娠

[対応できる疾患]

- 各種の低血糖症
- 糖尿病ケトアシドーシス
- 高血糖高浸透圧昏睡
- 閉塞性動脈硬化症
- 足潰瘍・足壊疽
- 糖代謝に関わる内分泌疾患

主な診療実績

2 型糖尿病（入院）	246 例
1 型糖尿病（入院）	41 例
高血糖緊急症（入院）	10 例
低血糖症（入院）	14 例
糖尿病患者フットケア外来	48 件
DCT による他科入院患者の血糖管理	807 例
うち産科周産期血糖管理	42 例
インスリンポンプ療法	35 例
うち AID 療法	16 例
透析予防外来（腎症進行予防外来）	139 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

腎臓内科
Nephrology

外来受付
2 階 14 番　TEL（06）6645-2311
午前 8 時 45 分～午後 4 時 45 分 [平日]
[初診：月～金 / 午前 9 時～午前 10 時 30 分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
えもと　まさのり
繪本　正憲



専門
糖尿病性腎症 / 糖尿病関連腎臓病、慢性腎臓病（CKD）、透析療法

スタッフ

副
講師　なかたに　しんや　**仲谷　慎也**
【専門】糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病（CKD）、透析療法、多発性嚢胞腎

講師　つだ　あきひろ　**津田　昌宏**
【専門】糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症 / 糖尿病関連腎臓病、慢性腎臓病（CKD）、透析療法

講師　うえどの　ひでき　**上殿　英記**
【専門】糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症 / 糖尿病関連腎臓病、慢性腎臓病（CKD）、透析療法

病院講師　もりおか　ふみゆき　**森岡　史行**
【専門】糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症 / 糖尿病関連腎臓病、慢性腎臓病（CKD）、透析療法

診療科の特徴

当科は、腎炎・ネフローゼ症候群の診断・治療を中心に、糖尿病性腎症／糖尿病関連腎臓病や腎硬化症による慢性腎臓病（CKD）の管理から透析導入にいたるまで、腎疾患全般を対象とし、専門的かつ包括的な診療を行っております。それぞれの腎疾患の病態に合わせた治療とともに、多彩な合併症に対しても多面的な診断と治療を行います。当科の外来は生活習慣病・糖尿病センター、骨・内分泌内科と同じフロアーで協力しながら行われており、また、病棟も腎・泌尿器科センターとして泌尿器科、人工じん部と連携しながら幅広い診療を実践しております。ご紹介いただきました患者さんの腎疾患をトータルに診療させていただくことができる点が最大の特色であります。地域医療機関との連携を密にし、理想的な医療環境の構築に努力いたして参ります。

対象疾患

[主力疾患]
・CKD　・糖尿病性腎症／糖尿病関連腎臓病　・急性腎障害
・IgA 腎症　・IgA 血管炎・微小変化型ネフローゼ症候群
・膜性腎症　・巣状分節性糸球体硬化症　・ループス腎炎
・膜性増殖性糸球体腎炎　・間質性腎炎　・腎アミロイドーシス
・急速進行性糸球体腎炎　・常染色体顕性多発性嚢胞腎

[対応できる疾患]
・電解質異常　・末期腎不全（腎移植ドナー・レシピエントの管理）
・膠原病関連の腎疾患（Sjogren 症候群・強皮症など）
・上記以外の腎炎　・ネフローゼ症候群　・妊娠高血圧腎症

主な診療実績

外来患者数	11989 例
入院患者数	389 例
腎生検	91 例
透析導入	42 例
血漿交換	4 例
口蓋扁桃摘出術＋ステロイドパルス療法（IgA 腎症）	32 例
トルバプタン導入（常染色体顕性多発性嚢胞腎）	6 例

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

骨・内分泌内科（内分泌内科）
Endocrinology

外来受付
2 階 14 番　　TEL.(06) 6645-2311
午前 8 時 30 分～午後 4 時 45 分 [平日]
[初診は完全予約制です]

詳細はこちら

診療科部長、教授
えもと　まさのり
繪本　正憲



専門
内分泌疾患、糖尿病

スタッフ

いまにし　やすお
准教授　**今西　康雄**
【専門】 代謝性骨疾患、骨粗鬆症、くる病、骨軟化症、副甲状腺疾患

副
もりおか　ともあき
准教授　**森岡　与明**
【専門】 内分泌疾患、肥満症、糖尿病

くらじょう　まさふみ
講師　**藏城　雅文**
【専門】 内分泌疾患、高尿酸血症・痛風

ながた　ゆうき
講師　**永田　友貴**
【専門】 内分泌疾患、甲状腺疾患

みき　ゆうや
講師　**三木　祐哉**
【専門】 内分泌疾患、糖尿病

診療科の特徴
骨・内分泌内科（内分泌内科）では、さまざまな内分泌疾患、代謝性骨疾患を受け持っており、最新のエビデンスに基づく高度医療を提供いたします。さらに、これらの疾患は多彩な合併症を有していることが多く、ご紹介頂く患者さんにも多くの病態が合併することが考えられます。当診療科では症例カンファレンスを生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科と合同して行うことにより、内分泌診療以外にも内科全般の病状管理を行い全人的な医療を提供することを心がけています。また、高血圧や高脂血症・肥満等には副腎疾患や甲状腺疾患が隠れていたり、電解質異常にも内分泌疾患が合併していることもあり、注意が必要です。さらに尿酸代謝異常についても対応いたしております。そのような病状でご来院頂いた際には、内分泌疾患の有無についてスクリーニングを行い、必要に応じて入院による精密検査や適切な治療の導入を行っております。また、糖尿病や腎疾患を合併されている場合には、生活習慣病・糖尿病センターや腎臓内科と協調し、最適化された医療をご提供いたします。病状が安定した状態では、地域医療機関との連携により治療を継続することを心がけ、病診連携の確立など地域医療への貢献にも努力しています。

対象疾患
[主力疾患]
・バセドウ病　・橋本病　・甲状腺腫瘍　・副腎腫瘍
・クッシング症候群　・原発性アルドステロン症　・褐色細胞腫
・クッシング病　・先端巨大症　・プラクチノーマ
・下垂体機能低下症　・尿崩症　・骨粗鬆症（原発性・続発性）
・原発性副甲状腺機能亢進症　・二次性副甲状腺機能亢進症
・副甲状腺機能低下症　・低リン血症性くる病・骨軟化症
・骨形成不全　・大理石骨病　・高尿酸血症・痛風

[対応できる疾患]
・MEN1　・MEN2　・インスリノーマ　・下垂体炎
・免疫チェックポイント阻害薬による内分泌障害　・低尿酸血症
・高尿酸血症　・アジソン病
・その他の内分泌疾患（甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、性腺など）
・骨パジェット病　・低ホスファターゼ症　・その他の代謝性骨疾患

主な入院診療実績

代謝性骨疾患、カルシウム・リン代謝異常症	95 件
副腎疾患	125 件
視床下部・下垂体疾患	116 件
電解質異常	9 件
糖・核酸代謝関連	5 件
その他	26 件

ご紹介時のお願い
初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

消化器内科
Gastroenterology

外来受付
2 階 16 番　　TEL.（06）6645-2316
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

副院長、診療科部長、教授
ふじわら　やすひろ
藤原　靖弘



専門
上部消化管

スタッフ

副
ほそみ　しゅうへい
准教授　**細見　周平**
【専門】 下部消化管

おおたに　こうじ
講師　**大谷　恒史**
【専門】 上部消化管、小腸

ふくなが　しゅうせい
講師　**福永　周生**
【専門】 消化管腫瘍（内視鏡治療）

なだたに　ゆうじ
講師　**灘谷　祐二**
【専門】 上部消化管

おおみなみ　まさき
講師　**大南　雅揮**
【専門】 消化管腫瘍（内視鏡治療）、食道運動機能異常、胃食道逆流症（内視鏡治療）

まるやま　ひろつぐ
講師　**丸山　紘嗣**
【専門】 胆道・膵臓

にしだ　ゆう
講師　**西田　裕**
【専門】 下部消化管

さわだ　あきなり
講師　**沢田　明也**
【専門】 上部消化管

たのうえ　こうじろう
病院講師　**田上　光治郎**
【専門】 胆道・膵臓

かきや　ゆき
病院講師　**垣谷　有紀**
【専門】 胆道・膵臓

診療科の特徴

当科の診療は食道から胃、十二指腸、小腸、大腸、胆膵領域を含む全ての消化器疾患を網羅しています。特に消化管腫瘍、胃食道逆流症、食道運動障害（食道アカラシア等）、好酸球性消化管疾患、機能性消化管疾患、小腸疾患、炎症性腸疾患、胆膵疾患に関しては、一般市中病院では対応困難な先進的な検査や治療を取り入れています。消化管腫瘍に対しては早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や化学療法を重点的に行っています。最近注目されている好酸球性消化管疾患、炎症性腸疾患については、高い診療実績があります。小腸疾患についてはカプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡検査に取り組み、胆膵疾患については内視鏡治療や、超音波内視鏡による精査、穿刺吸引細胞組織診（EUS-FNAB）を行うなど、積極的に取り組んでいます。2024 年 9 月に内視鏡センターが改装フルオープンし、内視鏡診療のさらなる拡充を図っております。食道良性疾患の内視鏡治療である食道アカラシアに対する内視鏡下筋層切開術（POEM）や胃食道逆流症に対する内視鏡的逆流防止粘膜切除術（ARMS など）も導入しています。

対象疾患

[主力疾患]
・胃・十二指腸潰瘍　・H. pylori 感染症　・胃癌　・食道癌
・大腸癌　・胆道癌・膵癌　・胃食道逆流症
・食道運動障害（食道アカラシア等）　・好酸球性消化管疾患
・機能性消化管疾患　・小腸疾患
・炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、腸管ベーチェット病等）
・胆膵疾患（内視鏡検査・治療）　・大腸ポリープ

[対応できる疾患]
・消化管腫瘍全般（内視鏡治療、化学療法）　・咽頭腫瘍（内視鏡治療）
・胃ポリープ　・消化管ポリポーシス　・消化管悪性リンパ腫
・消化管神経内分泌腫瘍　・消化管粘膜下腫瘍　・自己免疫性胃炎
・胃・食道静脈瘤　・消化管出血　・消化管感染症　・虚血性腸炎

主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	5980 件
ESD・上部 EMR	359 件
胃食道静脈瘤治療	97 件
イレウス管・消化管ステント留置術	73 件
ERCP・EST	550 件
下部消化管内視鏡検査	2240 件
小腸バルーン内視鏡検査	230 件
小腸・大腸カプセル内視鏡検査	47 件
EUS・FNA	850 件
上部・下部バルーン拡張術	230 件
大腸ポリペクトミー・EMR	535 件
POEM	69 件
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	5 件
内視鏡的止血術	132 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

肝胆膵内科（肝臓・胆道・膵臓内科）

Internal Medicine;Hepato-Biliary-Pancreatic Diseases

外来受付

2 階 16 番　TEL（06）6645-2316
午前 8 時 45 分～午後 4 時 45 分［平日］
［初診：月～金 / 午前 9 時～午前 10 時 30 分］

詳細はこちら

診療科部長、教授
うちだ　さわこ
打田　佐和子



専門
肝疾患全般、肝癌局所治療

スタッフ

副
はぎはら　あつし
准教授　**萩原　淳司**
【専門】肝癌、胆道癌、膵癌

かわむら　えつし
講師　**川村　悦史**
【専門】胆管癌、胆道癌

こづか　りつぞう
講師　**小塚　立蔵**
【専門】ウイルス性肝炎の診断と治療

こたに　こうへい
講師　**小谷　晃平**
【専門】肝硬変、門脈圧亢進症

よしだ　かなこ
病院講師　**吉田　香奈子**
【専門】肝胆膵疾患全般

おだぎり　なおし
病院講師　**小田桐　直志**
【専門】肝細胞癌の診断と治療

いけなが　ひろこ
病院講師　**池永　寛子**
【専門】肝胆膵疾患全般

診療科の特徴

当科は、肝・胆・膵領域の幅広い疾患に対し、各分野の専門医が連携して質の高い診療を提供しています。

肝疾患では、B 型・C 型肝炎に対する抗ウイルス治療を多数実施し、特に C 型慢性肝疾患に対するインターフェロンフリー治療において豊富な実績を有しています。肝細胞癌に対しては、外科・放射線科と緊密に連携し、ラジオ波・マイクロ波焼灼療法を中心とした内科的局所治療を展開し、困難症例にも先進的手技を駆使して高い根治性を追求しています。さらに、MASLD や肝硬変・門脈圧亢進症に対する診療や新規治療の導入にも積極的に取り組んでいます。

胆・膵疾患についても、診断から化学療法まで一貫した診療体制を整え、多職種連携のもと最適な医療を提供しています。

対象疾患

[主力疾患]

・ウイルス性肝炎　・自己免疫性肝炎　・原発性胆汁性胆管炎
・脂肪性肝疾患　・特発性門脈圧亢進症　・肝硬変　・肝がん
・肝腫瘍　・胆道がん　・胆道腫瘍　・自己免疫性膵炎
・膵がん　・膵腫瘍　・神経内分泌腫瘍

[対応できる疾患]

・アルコール性肝炎（アルコール依存症は対象外）　・体質性黄疸
・胆石　・胆嚢ポリープ　・急性膵炎　・慢性膵炎

主な診療実績

肝細胞がんに対する局所治療［ラジオ波］	1 件
肝細胞がんに対する局所治療［マイクロ波］	53 件
肝細胞がんに対する局所治療［エタノール注入］	1 件
肝生検	118 件
肝細胞がんに対する肝動脈化学塞栓療法・肝動注療法	186 件
肝細胞がんに対する全身化学療法	23 件
肝内胆管がんに対する全身化学療法	7 件
C 型慢性肝炎・肝硬変への抗ウイルス治療	43 件
B 型慢性肝炎・肝硬変への抗ウイルス治療	20 件
胆道がんに対する全身化学療法	9 件
膵臓がんに対する全身化学療法	31 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

小児科（新生児）
Pediatrics（Neonatology）

外来受付
3階18番　06-6645-2326
午前8時45分～午後4時45分［平日］
［初診：月～金 / 午後9時～午前10時30分］

詳細はこちら

診療科部長、教授
濱﨑（はまざき）　考史（たかし）



専門
先天代謝異常症

スタッフ

副
准教授　時政（ときまさ）　定雄（さだお）
【専門】血液、悪性腫瘍

准教授　瀬戸（せと）　俊之（としゆき）
【専門】小児神経代謝疾患、遺伝疾患

准教授　大西（おおにし）　聡（さとし）
【専門】新生児

講師　佐久間（さくま）　悟（さとる）
【専門】小児神経疾患、てんかん

講師　服部（はっとり）　妙香（たえか）
【専門】小児神経疾患

講師　冬木（ふゆき）　真規子（まきこ）
【専門】新生児、在宅医療

講師　田中（たなか）　えみ
【専門】新生児

講師　柚山（ゆやま）　賀彦（よしひこ）
【専門】小児糖尿病

病院講師　匹田（ひきた）　典克（のりかつ）
【専門】小児神経、感染症

診療科の特徴

新生児から思春期までこどもの健康をまもるために診療しております。新生児部門は在胎24週の早産児や400gに満たない超低出生体重児を治療できる新生児集中治療室（NICU）を9床を設置し、産科と合同でカンファレンスを開き、地域周産期医療センターとして府下全域から母子を受け入れております。小児内科では、フェニルケトン尿症をはじめとするアミノ酸代謝異常症、ムコ多糖症・ファブリー病などのライソゾーム病、有機酸代謝異常症・脂肪酸代謝異常症などの先天代謝異常症を全般的に診療しており、また急性髄膜炎などの小児神経疾患、1型糖尿病やその他内分泌疾患にも幅広く対応しております。さらに白血病や悪性腫瘍、難治（薬剤抵抗性）てんかんなど長期入院の患者さんのために療養環境の改善にもつとめています。医療的ケア児の付き添いなしでの入院も受け入れ可能です。小児センターとして小児内科だけでなく小児外科や耳鼻科、眼科、脳外科、整形外科などとも連携して小児の外科疾患にも幅広く対応しております。

対象疾患

［主力疾患］
・フェニルケトン尿症　・ムコ多糖症　・ゴーシェ病　・ポンペ病
・ファブリー病・てんかん　・新生児疾患　・新生児外科疾患
・小児肥満症　・糖尿病全般　・急性リンパ性白血病
・急性骨髄性白血病　・悪性リンパ腫　・神経芽腫
・特発性血小板減少症　・再生不良性貧血　・内分泌疾患
・脊髄性筋萎縮症

［対応できる疾患］
・末梢神経障害　・筋疾患　・発達障害　・注意欠陥多動性障害
・神経免疫疾患　・脳変性疾患　・Wilms腫瘍　・肝芽腫
・横紋筋肉腫　・ユーイング肉腫　・好中球減少症　・脳腫瘍
・ガングリオシドーシス　・ロイコジストロフィー
・その他の先天代謝異常症　・循環器疾患　・ニーマンピック病
・神経伝達物質病　・急性髄膜炎　・けいれん群発・重積
・若年性特発性関節炎　・その他の膠原病　・先天性免疫不全症

主な診療実績

代謝・内分泌疾患	160名
糖尿病疾患	130名
血液腫瘍疾患・免疫異常	40名
アレルギー疾患	150名
循環器疾患	50名
神経疾患	450名
先天異常・臨床遺伝	10名
感染症	500名
新生児	280名

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

神経精神科
Neuropsychiatry

外来受付
3 階 22 番　　TEL.（06）6645-2331
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
いのうえ　こうき
井上　幸紀



専門
精神科全般、産業精神医学、うつ病

スタッフ

副
准教授　いわさき　しんいち　**岩﨑　進一**
【専門】 精神科全般、産業精神医学、神経症

准教授　でぐち　やすひこ　**出口　裕彦**
【専門】 精神科全般、産業精神医学、双極症、うつ病

講師　はらだ　ともこ　**原田　朋子**
【専門】 精神科全般、摂食症

講師　かげやま　ゆうき　**影山　祐紀**
【専門】 精神科全般、双極症、うつ病

講師　まるた　じゅんぺい　**丸田　純平**
【専門】 精神科全般、老年精神医学、認知症

講師　くろずみ　ひでお　**黒住　日出夫**
【専門】 精神科全般、老年精神医学、認知症

講師　まつづか　たくみ　**松塚　巧**
【専門】 精神科全般、摂食症

講師　かどの　しん　**角野　信**
【専門】 精神科全般、児童精神医学

講師　にしうら　さやか　**西浦　沙耶花**
【専門】 精神科全般、児童精神医学、大学生のメンタルヘルス

病院講師　ひらい　かおる　**平井　香**
【専門】 精神科全般、児童精神医学

診療科の特徴

外来では、専門医療を中心に、統合失調症、双極症 (躁うつ病)、うつ病、不安障害、摂食症（摂食障害）、児童の精神障害、老年期の精神障害や認知症、身体疾患に伴う精神障害、職場不適応や職場に関係して生じる精神障害全般にわたり広い範囲での診療を行い、最良の治療を提供することを目指しています。入院治療では、大学病院にある神経精神科として先進医療の提供に取り組み、また、精神科病院や精神科診療所と連携し役割分担を行い、身体合併症の治療等を優先的に行っています。病棟は閉鎖病棟ですが、できる限り開放的処遇を図り、短期入院治療を中心に行っています。

また、総合病院の特性を活かし、他診療科とのリエゾン･コンサルテーション精神医療、緩和ケアチームへの参画も行っています。児童の専門外来では、外来中心の治療を行っています。摂食症については 1980 年頃より数多くの治療経験と実績を持っており、種々の精神療法、行動療法、薬物療法などを併用して治療を行っています。外来治療が中心ですが、短期間の入院治療も行っています。もの忘れ外来では、心理・行動症状を呈する認知症の診断、治療を中心に行っています。

対象疾患

[主力疾患]
・統合失調症　・双極症（躁うつ病）　・うつ病
・不安障害　・職場の精神障害　・老年期精神障害と認知症
・児童の精神障害　・摂食症

[対応できる疾患]
・その他一般精神疾患

主な診療実績

1．外来
年間のべ外来患者数 17841 名
新規患者数 791 名
年間のべ専門外来
認知症 810 名、児童 178 名、摂食症 1241 名

2．入院
年間のべ入院患者数 222 名
うつ病 74 名、双極症 24 名、摂食症 56 名、統合失調症 34 名

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

皮膚科
Dermatology

外来受付
2 階 09 番　　TEL.（06）6645-2336
午前 8 時 45 分～午後 4 時 45 分 [平日]
[初診：月～金 / 午前 9 時～午前 10 時 30 分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
つるた　だいすけ
鶴田　大輔



専門
水疱症、乾癬、炎症性皮膚疾患

スタッフ

副
いまにし　ひさよし
准教授　**今西　久幹**
【専門】毛髪疾患、アトピー性皮膚炎

たていし　ちはる
准教授　**立石　千晴**
【専門】水疱症、乾癬、アトピー性皮膚炎、炎症性皮膚疾患

ひろやす　しょう
准教授　**廣保　翔**
【専門】皮膚科全般、自己免疫性水疱症、白斑

ひらた　ちか
講師　**平田　央**
【専門】皮膚科全般、皮膚腫瘍

ごとう　ひろゆき
講師　**後藤　寛之**
【専門】皮膚腫瘍、皮膚外科、皮膚病理学

たかいち　みか
病院講師　**髙市　美佳**
【専門】皮膚科全般、皮膚アレルギー

おざわ　としゆき
特任教授　**小澤　俊幸**
【専門】皮膚整容外科、皮膚腫瘍、レーザー、創傷治癒

診療科の特徴

地域住民の皆様が安心して受診でき、地域の医師が安心して紹介できる施設を目指しております。理念としては、①現代医学的に見て適切と思われる医療を提供する、②わかりやすい納得できる説明を行う、③他の医療機関から安心して紹介できる病院となる、の３つがあります。疾患としては薬疹・接触皮膚炎に対して、アレルギー検査を正確に行います。アトピー性皮膚炎では病状に応じて生物学的製剤や JAK 阻害剤による治療を行います。乾癬では外用療法、光線治療から最先端の生物学的製剤治療までをカバーします。また、乾癬の関節症状については当院膠原病・リウマチ内科および整形外科と連携して治療にあたっています。水疱症では、種々の分子生物学的・組織学的手法を用いて診断し、ステロイド・免疫抑制療法に加え、免疫グロブリン大量療法、血漿交換療法を行います。脱毛症では、円形脱毛症に対する JAK 阻害剤やステロイドパルスによる治療も行います。白斑についても外用・光線療法を行っています。一方、皮膚腫瘍ではメラノーマ、有棘細胞癌、基底細胞癌を始め各種皮膚腫瘍を扱っています。特に手術療法、化学療法、免疫チェックポイント阻害剤、低分子化合物による治療、放射線療法を行います。

対象疾患

[主力疾患]
・アトピー性皮膚炎　・接触皮膚炎　・薬疹　・乾癬
・水疱症（天疱瘡・類天疱瘡）　・蕁麻疹　・掌蹠膿疱症
・脱毛症　・白斑　・メラノーマ　・有棘細胞癌
・基底細胞癌　・膠原病　・血管炎　・遺伝性皮膚疾患

[対応できる疾患]
・リンパ腫　・結節性紅斑　・スイート病
・ベーチェット病　・光線過敏症　・サルコイド　・皮膚感染症

主な診療実績

皮膚良性腫瘍	191 件
皮膚悪性腫瘍（総数）	116 件
有棘細胞癌	21 件
基底細胞癌	32 件
乳房外 Paget 病	14 件
悪性黒色腫	22 件
Bowen 病	16 件
その他の皮膚悪性腫瘍	11 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

放射線科
Diagnostic and Interventional Radiology

外来受付
地下１階 35 番　　TEL.（06）6645-2252
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：水金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
やまもと　あきら
山本　晃



専門
IVR：画像下低侵襲治療

スタッフ

副
准教授　しもの　たろう　**下野　太郎**
【専門】画像診断

准教授　ひがしやま　しげあき　**東山　滋明**
【専門】臨床核医学

講師　かげやま　けん　**影山　健**
【専門】IVR：画像下低侵襲治療

講師　なかの　まりこ　**中野　真理子**
【専門】IVR：画像下低侵襲治療

講師　よしだ　あつし　**吉田　敦史**
【専門】臨床核医学

講師　たてかわ　ひろゆき　**立川　裕之**
【専門】画像診断

講師　たきた　ひろたか　**田北　大昂**
【専門】画像診断

講師　ほりうち　だいすけ　**堀内　大右**
【講師】画像診断

診療科の特徴

当科は、診断部門（CT・MRI・核医学）、治療部門（IVR［画像を用いた低侵襲治療］・核医学内用療法）の２部門を有します。特に治療部門では放射線科独自に専門外来と病床を有し、積極的に治療を行っています。IVR では、腫瘍性病変に対する動脈塞栓術や動注化学療法やラジオ波焼灼術などの穿刺治療、静脈瘤や難治性腹水などの門脈圧亢進症に対して、静脈瘤塞栓術（BRTO 等）や TIPS（経頸静脈肝内門脈大循環短絡術 ※ 2026 年保険診療収載）など専門性の高い治療を行っているのが特色です。また、閉塞性血管病変や大動脈瘤に対するステントグラフト留置術など幅広く対応しています。核医学内用療法では、甲状腺癌転移に対する I-131 による放射性ヨード大量投与による治療、神経内分泌腫瘍に対する Lu-177 によるペプチド受容体放射性核種療法、Ra-223 による去勢抵抗性前立腺癌骨転移治療を行っています。

対象疾患

[主力疾患]
・肝細胞癌　・転移性肝癌　・肝硬変　・門脈圧亢進症　・難治性腹水　・胃静脈瘤
・肝性脳症　・肺癌　・転移性肺癌　・閉塞性動脈硬化症　・胸腹部大動脈瘤
・出血　・外傷　・動静脈奇形　・静脈奇形　・リンパ管奇形　・内臓動脈瘤
・腎癌　・類骨骨腫　・子宮筋腫・内分泌腫瘍（選択的静脈サンプリング）
・甲状腺癌転移治療・ I-131 による残存甲状腺症破壊治療　・甲状腺機能亢進症（外来）
・Lu-177 による神経内分泌腫瘍治療・Ra-223 による去勢抵抗性前立腺癌骨転移治療
・FDG-PET/CT 検査

[対応できる疾患]
・難治性腹水や難治性静脈瘤に対する経静脈的門脈静脈短絡作成術（TIPS）やデンバーシャント作成術
・門脈圧亢進症由来の消化管静脈瘤や肝性脳症に対する短絡路閉鎖術や静脈塞栓術
・バット・キアリ症候群に対する静脈閉塞解除術　・脾腫に対する脾動脈塞栓術
・経頸静脈的肝生検（診断のみ）　・肝臓癌に対する塞栓術やラジオ波焼灼術
・肺や腎臓や骨の腫瘍に対するラジオ波焼灼術　・静脈奇形に対する硬化療法（2026 年保険診療収載）
・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術
・胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術
・動脈瘤や動静脈奇形に対する塞栓術　・腎血管性高血圧症に対する腎血管拡張術
・多発性嚢胞腎に対する腎動脈塞栓術　・血管内異物除去　・乳び胸腹水の塞栓術
・動脈性消化管出血に対する塞栓術　・子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術
・骨盤鬱滞症候群の塞栓術　・圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術
・膿瘍に対する CT ガイド下ドレナージ術
・核医学治療（入院での内用療法）　・甲状腺癌／機能異常　・神経内分泌腫瘍

主な診療実績

肝臓癌に対する動注塞栓術（TACE）	229 件
肝臓癌に対する動脈塞栓術（TAE）	3 件
肝臓癌に対する動注療法（TAI）	46 件
動脈動注リザーバー	4 件
頸静脈的肝生検・肝静脈圧測定	54 件
経皮経肝的門脈塞栓術（PTPE）	8 件
胃静脈瘤・肝性脳症に対する門脈圧亢進症治療	46 件
難治性腹水・静脈瘤に対する TIPS・デンバーシャント	5 件
脾動脈部分塞栓術（PSE）	12 件
胸部大動脈瘤に対するステントグラフト（TEVAR）	9 件
腹部大動脈瘤に対するステントグラフト（EVAR）	39 件
Type 2 エンドリーク塞栓	5 件
動脈硬化性下肢動脈狭窄に対する治療（EVT・PTA）	25 件
内臓動脈瘤に対する塞栓術	6 件
動静脈奇形に対する塞栓術（TAE）	7 件
外傷や術後出血に対する TAE	87 件
消化管出血に対する TAE	21 件
血流改変	6 件
子宮動脈塞栓術（UAE）	32 件
気管支動脈塞栓術（BAE）	9 件
副腎静脈サンプリング	10 件
PICC/CV ポート	186 件
PICC/CV カテーテル	296 件
IVC フィルター	1 件
造影診断	43 件
肝癌・肺癌・腎癌・骨腫瘍に対するラジオ波（RFA）	83 件
下肢静脈瘤に対する RFA	1 件
リンパ管造影・リンパ管塞栓	14 件
CT ガイド下ドレナージ	64 件
CT ガイド生検	36 件
腹腔洗浄細胞診	61 件
IVR その他	64 件
甲状腺癌転移に対する I-131 放射性ヨード内用療法	114 件
神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法	44 件
去勢抵抗線前立腺癌の骨転移に対する Ra-223 内用療法（外来）	7 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

放射線治療科
Radiation Oncology

外来受付
地下１階 35 番　　TEL.（06）6645-2252
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月火水木金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

部長
しぶや　けいこ
澁谷　景子



専門
放射線治療全般

スタッフ

副
いのくち　はるお
准教授　**井口　治男**
【専門】 放射線治療全般

おぎの　りょう
講師　**荻野　亮**
【専門】 放射線治療全般

はやし　けんじ
病院講師　**林　謙治**
【専門】 放射線治療全般

むくもと　のぶたか
助教　**椋本　宜学**
【専門】 医学物理学、放射線治療計画

診療科の特徴

放射線治療は、手術療法、化学療法とともにがん治療の 3 本柱の一つです。ほぼすべてのがん（悪性腫瘍）が放射線治療の対象となります。機能や形態の温存が可能で、低侵襲かつ先進的な治療法として、がん医療の中で多くの役割を担っています。当院では通常の放射線治療だけでなく、強度変調放射線治療 (IMRT) ／強度変調回転放射線治療 (VMAT)、定位放射線治療、画像誘導放射線治療といった高精度放射線治療と呼ばれる先進的な治療に早くから取り組んできました。2022 年度からは MR リニアック（Unity、エレクタ社製）が稼働を開始しています。MR リニアックは体内にある腫瘍を MRI にてリアルタイムに視認しながら、そのときの状態に合わせて放射線を狙い撃ちすることのできる画期的な装置です。現時点では当院が西日本で唯一、使用可能な施設となっていますが、これまで以上に体にやさしい、新たな治療法を提供できる装置として、多くの可能性が期待されています。これらの治療を患者さんに安心して受けて頂けるよう、放射線治療専門医、がん放射線療法看護認定看護師、放射線治療専門技師、医学物理士などの多職種による充実したスタッフで体制を整えています。

対象疾患

[主力疾患]
・脳腫瘍　・頭頸部腫瘍　・肺がん　・乳がん
・食道がん　・膵臓がん　・肝がん　・直腸がん
・前立腺がん　・子宮がん　・皮膚悪性腫瘍　・転移性腫瘍

[対応できる疾患]
・甲状腺がん　・肝・胆道系腫瘍　・膀胱がん　・肛門がん
・骨・軟部悪性腫瘍　・血液 悪性腫瘍　・小児がん
・甲状腺眼症　・ケロイド

主な手術や処置の件数

脳・脊髄	53 件
頭頚部	64 件
食道	37 件
肺・気管・縦隔腫瘍	142 件
内、肺	135 件
乳腺	234 件
肝・胆・膵	68 件
胃・小腸・結腸・直腸	31 件
婦人科	32 件
泌尿器	147 件
内、前立腺	118 件
造血器リンパ系	27 件
皮膚・骨・軟部	21 件
その他の悪性腫瘍	5 件
良性腫瘍、良性疾患	5 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

消化器外科
Gastroenterological Surgery

外来受付
2 階 08 番　TEL.（06）6645-2346
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
まえだ　きよし
前田　清



専門
下部消化管、炎症性腸疾患

スタッフ

副
とよかわ　たかひろ
准教授　**豊川　貴弘**
【専門】 上部消化管

しぶたに　まさつね
講師　**澁谷　雅常**
【専門】 下部消化管、炎症性腸疾患

たむら　たつろう
講師　**田村　達郎**
【専門】 上部消化管

よしい　まみ
講師　**吉井　真美**
【専門】 上部消化管、肥満手術

みき　ゆういちろう
講師　**三木　友一朗**
【専門】 上部消化管

かさしま　ひろあき
講師　**笠島　裕明**
【専門】 下部消化管、炎症性腸疾患

くろだ　けんじ
病院講師　**黒田　顕慈**
【専門】 上部消化管

でぐち　そうた
病院講師　**出口　惣大**
【専門】 上部消化管

せき　ゆき
病院講師　**関　由季**
【専門】 下部消化管、炎症性腸疾患

やしろ　まさかず
研究教授　**八代　正和**
【専門】 上部消化管、遺伝性疾患

診療科の特徴

我々消化器外科では食道癌、胃癌、大腸癌をはじめとする消化管悪性腫瘍や潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患などを中心に外科治療を行っています。がん治療の専門科として、それぞれの疾患ごとに経験豊富な専門医が担当することにより根治性の追求はもちろん、安全性も配慮した質の高い医療を提供できる体制を整えています。また低侵襲手術にも積極的に取り組んでおり、鏡視下手術、ロボット手術の専門医も多数在籍しています（内視鏡外科学会技術認定医：食道、胃、大腸、計８名）。2024 年度には全国的にもまれな３台目の手術支援ロボットを導入し、ロボット支援下手術の拡充をしました。そして手術だけでなく抗がん剤や放射線療法、免疫療法、遺伝子パネル検査などを組み合わせた集学的治療にて治療成績を向上させる努力をおこなっており、他科との連携を密にして患者さんに最適な治療法を提供させて頂きます。また患者さんがご自身の病気や治療の事を十分に理解したうえで安心して治療を受けて頂くために、患者さんとの対話を大切にしております。侵襲の大きながん手術も安全に受けていただくため、早くから歯科、栄養外来、リハビリ部門、入退院支援センターなどと連携を取り、治療を進めています。2024 年度からは早期に治療を開始しなければならない患者さんに対して迅速に対応できるシステムの整備にも着手いたしました。

対象疾患

[主力疾患]
・食道癌　・胃癌　・大腸癌　・直腸癌　・小腸腫瘍
・転移性消化器腫瘍　・消化管粘膜下腫瘍　・GIST
・炎症性腸疾患　・後腹膜腫瘍

[対応できる疾患]
・食道裂孔ヘルニア　・食道アカラシア　・胃食道逆流症
・食道憩室　・肥満減量手術

主な診療実績

【食道疾患】	食道癌	53 件（鏡視下 51、ロボット支援下 46）
	その他	32 件（鏡視下 5）
【胃疾患】	胃癌	76 件（鏡視下 56、ロボット支援下 30）
	胃粘膜下腫瘍	18 件（鏡視下 18）
	その他	37 件（鏡視下 0）
【大腸疾患】	結腸癌	110 件（鏡視下 101、ロボット支援下 35）
	直腸癌	59 件（鏡視下 54、ロボット支援下 46）
	クローン病	8 件（鏡視下 5）
	潰瘍性大腸炎	6 件（鏡視下 3）
	その他	92 件（鏡視下 44）

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

乳腺外科
Breast Surgery

外来受付
2 階 12 番　TEL.(06) 6645-2351
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
かしわぎ　しんいちろう
柏木　伸一郎



専門
乳腺

スタッフ

講師　もりさき　たまみ　**森崎　珠実**
【専門】乳腺

講師　きのした　はるひと　**木下　春人**
【専門】乳腺

病院講師　おぎさわ　かな　**荻澤　佳奈**
【専門】乳腺

病院講師　たうち　ゆきえ　**田内　幸枝**
【専門】乳腺、MedCity21

病院講師　わたなべ　ちか　**渡部　智加**
【専門】乳腺

後期臨床研究医　へんみ　さえこ　**逸見　冴子**
【専門】乳腺

後期臨床研究医　まつだ　はなえ　**松田　英恵**
【専門】乳腺

診療科の特徴

乳腺外科は、多くの乳がんの診療実績があり、「新たな診療技術の開発」「豊富な症例数」「病診連携の強化」などの特徴があります。

経験豊富で親しみやすい乳腺外科医として、最新知見と技術を融合し、患者さん一人ひとりに最適な乳がん治療を提供しています。

他施設では治療が困難とされる「難治性乳がん」にも積極的に取り組み、「トリプルネガティブ乳がん」や「進行・再発乳がん」の診療拠点となっています。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC) や AYA 世代乳がんなどにも高い専門性をもって対応可能です。

【革新的診療技術の開発】

「切らずに治す乳がん治療」であるラジオ波焼灼療法 (RFA) で多くの治療実績を有しているだけでなく、拡張現実手法や人工知能を用いた診療技術を開発しており、乳がん患者さんの新たな希望となる革新的診療技術の提供が可能です。

【豊富な症例数】

関西地区の大学病院では最も多い手術実績を誇り、経験豊かなエキスパートドクターが乳がん診療・手術を担当しています。

【病診連携の強化】

地域かかりつけ医の先生方と乳がん診療に取り組むをモットーにきめ細やかな病診連携を行っており、その実績は約 2,000 件を超えています。

対象疾患

[主力疾患]

・乳腺疾患　　・乳がん、乳腺腫瘍
・難治性乳がん (トリプルネガティブ乳がん、進行・再発乳がんなど)

[対応できる疾患]

・遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC)・AYA 世代乳がん・Paget 病

主な診療実績

2025 年の乳がん手術実績は 465 件になります。

関西の大学病院では最も多い手術件数となり、乳がん診療の拠点病院として最新知見と技術を提供しております。

乳腺外科手術総計	602 件
乳がん手術	465 件
乳房温存手術	165 件
乳房切除術	241 件
ラジオ波焼灼療法 (RFA)	55 件
一期的乳房再建手術	29 件
その他 (腋窩リンパ節郭清、良性腫瘍切除)	137 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

心臓血管外科
Cardiovascular Surgery

外来受付
2 階 12 番　　TEL.（06）6645-2351
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

診療科部長、教授

たかはし　ようすけ
高橋　洋介

専門
弁膜症、大血管、冠動脈疾患、ロボット手術、低侵襲手術

スタッフ

講師　かわせ　たくみ　**河瀬　匠**
【専門】 ロボット手術、低侵襲手術

講師　いんの　ごうき　**因野　剛紀**
【専門】 心臓血管外科全般

講師　にしや　けんた　**西矢　健太**
【専門】 心臓血管外科全般

診療科の特徴

心臓外科疾患の大きな分野である弁膜症を中心に据え「弁膜症治療の拠点」を目指しています。弁形成術、小切開低侵襲手術、カテーテル的治療など様々なオプションを提供しています。従来本院の得意としてきた、僧帽弁形成術においては 2018 年から開始したロボット支援心臓手術を第一選択としており、これまで通算 300 例の実績があります。これは全国の大学病院でトップの累積手術件数です。大動脈弁疾患では閉鎖不全症に対して形成術（基部形成）を積極的に考慮し、弁置換する場合では胸骨を温存した右小切開手術も行っています。大血管手術では人工血管置換とカテーテル治療（ステントグラフト）の両方を検討し、安全性を担保しながら「Quality と低侵襲性との両立」を掲げています。昨年度には ICU・HCU も拡充し、循環器内科と共に緊急治療体制も充実してきました。循環器内科と協力体制を充実させ、大学病院の総合力を武器に様々な治療方法をもって対応します。

対象疾患

[主力疾患]
・狭心症　・心筋梗塞　・心臓弁膜症　・大動脈弁狭窄症
・大動脈弁閉鎖不全症　・僧帽弁狭窄症　・僧帽弁閉鎖不全症
・肺動脈弁狭窄症　・肺動脈弁閉鎖不全症　・三尖弁閉鎖不全症
・心臓腫瘍　・大動脈解離　・胸部　・大動脈瘤
・胸腹部大動脈瘤　・腹部大動脈瘤　・大動脈解離
・閉塞性動脈硬化症

[対応できる疾患]
・成人先天性心疾患　・肺塞栓症・肺梗塞　・下肢静脈瘤

主な診療実績

心血管手術合計	354 件
心臓大血管手術	
虚血性疾患手術	29 件
弁膜症手術	201 件
うち経カテーテル的大動脈弁置換術	103 件
大動脈手術	29 件
うちステントグラフト治療	9 件
先天性心疾患	9 件
その他	0 件
血管手術	
腹部大動脈瘤	41 件
うちステントグラフト治療	33 件
末梢血管手術	37 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

肝胆膵外科(肝臓・胆道・膵臓外科)

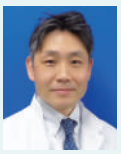
Department of Hepatobiliary-Pancreatic Surgery

外来受付

2 階 08 番　　TEL.（06）6645-2346
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時 30 分]

詳細はこちら

診療科部長、教授



いしざわ　たけあき
石沢　武彰

専門
肝胆膵外科、ロボット支援下手術、
内視鏡下手術、蛍光ガイド下手術

スタッフ

副

しんかわ　ひろじ
准教授　**新川　寛二**
【専門】肝胆膵外科、ロボット支援下手術、
内視鏡下手術、外科感染症学

にしお　こうへい
講師　**西尾　康平**
【専門】肝胆膵外科、ロボット支援下手術、
内視鏡下手術、外科栄養学

わたなべ　げんき
講師　**渡邉　元己**
【専門】肝胆膵外科、ロボット支援下手術、
内視鏡下手術

きのした　まさひこ
講師　**木下　正彦**
【専門】肝胆膵外科、ロボット支援下手術、
内視鏡下手術、蛍光ガイド下手術

たうち　じゅん
病院講師　**田内　潤**
【専門】肝胆膵外科、ロボット支援下手術、
内視鏡下手術

にしむら　さだあき
病院講師　**西村　貞徳**
【専門】肝胆膵外科、内視鏡下手術

たなか　りょうた
病院講師　**田中　涼太**
【専門】肝胆膵外科、内視鏡下手術

すぎもと　あつし
病院講師　**杉本　敦史**
【専門】肝胆膵外科、内視鏡下手術

診療科の特徴

肝胆膵外科においては、肝胆膵領域の悪性疾患 (肝細胞癌、肝内胆管癌、転移性肝癌、膵癌、肝外胆管癌、胆嚢癌、神経内分泌腫瘍) や良性疾患 (胆石症、胆嚢ポリープ、胆道拡張症、膵・胆管合流異常) などに対する外科治療を行っています。これらの領域において適切な治療法を導入あるいは開発し、内科や放射線科など他科との協力により、個々の病態に応じた総合的治療体系の確立と実践を目指しています。2025 年には 147 例の肝切除と 91 例の膵切除を行っています。なかでも腹腔鏡下肝切除や腹腔鏡下膵切除さらには、ロボット支援肝切除、ロボット支援膵切除も積極的に行っています。肝細胞癌にはラジオ波焼灼術、肝動脈塞栓術、全身化学療法、抗ウイルス療法など、膵癌や胆道癌などに対しても化学療法や放射線治療などの併用による集学的治療を行っています。

対象疾患

[主力疾患]

・肝細胞癌　・転移性肝癌　・胆管癌　・胆嚢癌
・乳頭部癌　・膵癌　・肝硬変（移植）・胆石症　・胆嚢ポリープ
・肝内結石症　・先天性胆道拡張症　・十二指腸癌
・膵・胆道合流異常　・胆嚢炎・胆管炎
・膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）
・神経内分泌腫瘍　・膵嚢胞性腫瘍

[対応できる疾患]

・後腹膜腫瘍　・脾腫（摘脾）

主な診療実績

肝切除手術	147 件
膵切除手術	91 件
腹腔鏡下肝切除手術	98 件
（内、ロボット支援下肝切除手術）	43 件
膵頭十二指腸切除手術	50 件
腹腔鏡下膵頭十二指腸切除手術	2 件
（内、ロボット支援下膵頭十二指腸切除手術）	2 件
膵体尾部切除手術	35 件
腹腔鏡下膵体尾部切除手術	26 件
（内、ロボット支援下膵体尾部切除手術）	18 件
その他膵切除手術	6 件
肝葉切除手術	31 件
膵全摘術	5 件
肝門部胆管癌手術	3 件
腹腔鏡下胆嚢摘出手術	52 件
脾臓摘出手術	5 件

ご紹介時のお願い

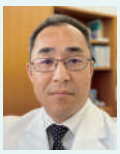
初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

呼吸器外科
Thoracic Surgery

外来受付
2 階 12 番　　TEL.（06）6645-2351
午前８時４５分～午後４時４５分 [平日]
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
そう　じゅんいち
宗　淳一



専門
呼吸器外科、ロボット支援下手術

スタッフ

副
みずぐち　しんじろう
准教授　**水口　真二郎**
【専門】呼吸器外科、ロボット支援下手術

いのうえ　ひでとし
講師　**井上　英俊**
【専門】呼吸器外科、ロボット支援下手術

はら　かんたろう
病院講師　**原　幹太朗**
【専門】呼吸器外科、ロボット支援下手術

診療科の特徴

肺がん手術をはじめとする呼吸器外科手術は、全国的に年々増加しており、患者さんの負担が少なく安全性の高い手術へのニーズが高まっています。

当科では、多彩な呼吸器疾患を対象とし、一般的な呼吸器外科診療に加えて、大学病院の特性を生かした手術療法を提供しています。特に近年注目されているロボット支援下手術は、昨年比 1.7 倍となる 142 例を安全に実施しております。また、全呼吸器外科手術の約 90%をロボット支援下手術を含む胸腔鏡手術が占めており、低侵襲で術後の早期回復に配慮した治療を行っています。

一方で、大学病院として一般病院では対応が困難な高度医療を担うことも重要な役割と考えています。進行がんに対しては、治療成績の向上を目的として、多診療科の連携のもと、術前・術後の全身治療を組み合わせた集学的治療を提供しています。さらに、難易度の高い拡大手術についても、多職種と連携し、安全性に十分配慮しながら積極的に実施しています。

昨年は過去最多となる 370 名以上の患者さんに手術を行いました。患者さんが早期に健康を回復できるよう、術前から退院後まで一貫したサポート体制を整えています。

これらの取り組みを通じて、個々の患者さんに最適な呼吸器外科診療の提供に努めています。

対象疾患

[主力疾患]
原発性肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍（特に胸腺腫瘍）に対する外科治療を主としています。呼吸器内科や放射線科と連携し、定期的な合同カンファレンス（Cancer Board）を通じて、個々の患者さんに最適な治療方針を決定しています。進行がんに対しては、根治性の追求と機能温存の両立を目指し、気管支形成術、血管形成術、他臓器合併切除などの高度手術を、必要に応じて他診療科と連携しながら安全に実施しています。

[対応可能な疾患]
主力疾患に加え、幅広い胸部疾患に対する手術療法を行っています。具体的には、気胸、膿胸、胸部発生の原発不明がん、サルコイドーシス、気管・気管支腫瘍、胸膜・胸壁腫瘍、横隔膜疾患、炎症性肺疾患などに対応しています。また、診断目的として外科的生検（組織採取）も適宜実施しています。悪性胸膜中皮腫に対する根治手術についても、症例を選択した上で行っています。

主な診療実績

【疾患別】

全呼吸器外科手術	374 件
原発性肺がん手術	211 件
肺葉切除（2 肺葉切除含む）	104 件
区域切除	70 件
肺全摘術	1 件
部分切除	36 件
転移性肺腫瘍	46 件
縦隔腫瘍	31 件
気胸	16 件
その他	70 件

【術式別】

ロボット支援下手術	142 件
気管支形成術	3 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

小児外科
Pediatric Surgery

外来受付

2 階 12 番　　TEL（06）6645-2351
午前８時４５分～午後４時４５分［平日］
［初診：月・火・木 / 午前９時～午前１０時３０分］
［漏斗胸外来：水 / 午後１３時～午後１４時３０分（紹介状不要）］

詳細はこちら

診療科部長、准教授



なかおか　たつお
中岡　達雄

専門
新生児外科、漏斗胸、悪性固形腫瘍、重症心身障害児の外科治療など

スタッフ

はしもと　たくろう
後期研究医 **橋本　拓朗**

【専門】 小児外科一般新生児外科

診療科の特徴

小児外科疾患では、当初は非特異的な症状、所見のため、診断が難しいことが多くあります。当科では確定診断がついていない患児でも、適切な検査（腹部超音波検査やＸ造影検査、内視鏡など）を時には自ら行い、診断と手術適応の判断、手術、術後の follow up を行っています。また、近年は重症心身障害児に対する外科治療を行う機会が多くなっていますが、我々は手術だけをするのではなく、患児とご家族の QOL（生活の質）を考慮した適切な治療法を計画、実行してゆくお手伝いをさせていただいております。

外科疾患かも？と疑われた際はお気軽にご相談ください。

対象疾患

［主力疾患］

・胸郭変形（漏斗胸、鳩胸など）　・鼠径ヘルニア（脱腸）　・陰嚢水腫
・停留精巣　・臍ヘルニア（でべそ）　・急性虫垂炎　・腸重積
・先天性胆道拡張症　・胆道閉鎖症
・新生児外科疾患（先天性食道閉鎖症、先天性腸閉鎖症、臍帯ヘルニア、仙尾部奇形腫など、出生前診断例を含む）
・水腎症　・膀胱尿管逆流症
・重症心身障害児に対する外科治療（胃食道逆流症に対する腹腔鏡手術など）

［対応できる疾患］

小児外科疾患全般

呼吸器疾患（嚢胞性肺疾患、気胸、膿胸など）、消化器疾患（食道閉鎖症、食道狭窄症、胃食道逆流症、十二指腸狭窄症、腸重積症、急性虫垂炎など）、肝胆道疾患（胆道閉鎖症、胆道拡張症、脾機能亢進症など）、泌尿生殖器系疾患（水腎症、膀胱尿管逆流症、停留精巣、卵巣腫瘍など）、悪性固形腫瘍（神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、肺細胞腫瘍など）、外科的処置（中心静脈ルート留置、胃瘻造設など）

主な診療実績

腹腔鏡下ソケイヘルニア手術	22 件
臍ヘルニア根治術	7 件
精巣固定術	6 件
腸閉鎖症手術	2 件

など

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

脳神経外科
Neurosurgery

外来受付
1階03番　TEL.（06）6645-2356
午前8時45分～午後4時45分［平日］
［初診：月～金 / 午前9時～午前10時30分］

詳細はこちら

診療科部長、教授
ごとう　たけお
後藤　剛夫



専門
脳腫瘍、頭蓋底外科、内視鏡手術、機能脳神経外科（顔面けいれん、三叉神経痛、微小血管減圧術）

スタッフ

副
いちのせ　つとむ
准教授　**一ノ瀬　努**
【専門】脳血管障害、脳腫瘍、機能脳神経外科（顔面けいれん、三叉神経痛、微小血管減圧術）

うだ　たけひろ
講師　**宇田　武弘**
【専門】てんかん外科、パーキンソン病・不随意運動、脳腫瘍、小児脳神経外科

ないとう　けんたろう
講師　**内藤　堅太郎**
【専門】脊髄・脊椎疾患

なかじょう　こうすけ
講師　**中条　公輔**
【専門】覚醒下手術、脳腫瘍、内視鏡手術

かわしま　としゆき
講師　**川嶋　俊幸**
【専門】てんかん外科、パーキンソン病・不随意運動、脳腫瘍、小児脳神経外科

ながはま　あつふみ
講師　**長濱　篤文**
【専門】脳腫瘍、脳血管障害、脳血管内治療

こじま　ゆういちろう
病院講師　**児嶌　悠一郎**
【専門】脊髄・脊椎疾患

診療科の特徴

私達の施設は、頭蓋底に発生する腫瘍の手術において、世界13ヶ国以上から医師の留学生や短期手術見学者が多く訪れる拠点施設です。近年では、高難度の手術を効率的で低侵襲的に行うために内視鏡手術を導入しております。神経膠腫の治療においては、脳機能を温存しながら摘出を行うため「覚醒下手術」を積極的に行っております。また、患者さんに合わせて、化学療法、放射線治療、光線力学療法、腫瘍治療電場療法を提供しています。血管障害に関しては、動脈瘤クリッピング手術や頸動脈内膜剥離術などの顕微鏡下手術、動脈瘤コイル塞栓術、ステント留置術、急性期血行再建術などのカテーテル治療を行っています。脊椎脊髄疾患に関しては、脊髄腫瘍、変性疾患、外傷、血管奇形などに対応し、術中画像ガイド下での椎体スクリュー固定などの手術にも多く取り組んでいます。てんかんの外科治療においては、長時間ビデオ脳波、PET、脳磁図などで診断を行うとともに、ロボットガイド下の定位的頭蓋内電極留置を導入しております。パーキンソン病や不随意運動に対する定位脳手術においては、画像、神経生理機能ガイド下での位置誘導技術を駆使した安全で確実な手術を行っています。

対象疾患

[主力疾患]
・頭蓋底腫瘍　・髄膜腫　・頭蓋咽頭腫　・神経鞘腫
・下垂体腺腫・神経膠腫（グリオーマ）　・転移性脳腫瘍
・脳動脈瘤　・内頚動脈狭窄症　・脳動静脈奇形
・モヤモヤ病　・脊髄腫瘍　・変形性脊椎症　・脊柱管狭窄症
・後縦靭帯骨化症　・脊髄空洞症　・キアリ奇形
・難治性てんかん　・パーキンソン病　・不随意運動
・機能脳神経外科（三叉神経痛、顔面痙攣）

[対応できる疾患]
・慢性硬膜下血腫　・脳内出血　・水頭症　・頭部外傷

主な診療実績

脳神経外科的手術の総数　（【1】＋【2】＋【3】）		**614件**	
【1】直達手術の総数		**485件**	
【1】直達手術の総数		**485件**	
1	**脳腫瘍**	**238件**	
	（1）摘出術	148件	
	（2）生検術（開頭術）	0件	
	（2）生検術（定位手術）	15件	
	（3）経蝶形骨洞手術	61件	
	（4）広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	14件	
2	**脳血管障害**	**40件**	
	（1）脳動脈瘤開頭術	14件	（破裂4、未破裂10）
	（2）脳動静脈奇形	1件	
	（3）頸動脈内膜剥離術および頸動脈関連手術	7件	
	（4）バイパス手術	12件	
	（5）高血圧性脳内出血（開頭血種除去術）	6件	
	（5）高血圧性脳内出血（定位手術）	0件	
3	**脊椎・脊髄**	**108件**	
	（1）腫瘍	29件	
	（2）動静脈奇形	0件	
	（3）変性疾患（変形性脊椎症）	38件	
	（3）変性疾患　（椎間板ヘルニア）	9件	
	（3）変性疾患　（後縦靭帯骨化症）	6件	
	（4）脊髄空洞症	4件	
	（5）その他	22件	
4	**機能的手術**	**47件**	
	（1）てんかん	41件	
	（2）不随意運動（刺激術）	1件	
	（2）不随意運動（破壊術）	0件	
	（3）脳神経減圧術	5件	
5	**外傷**	**12件**	
	（1）急性硬膜外血種	4件	
	（2）急性硬膜下血腫	4件	
	（3）減圧開頭術	0件	
	（4）慢性硬膜下血腫	4件	
6	**水頭症**	**40件**	
	（1）脳室シャント術	21件	
	（2）内視鏡手術	4件	
	（3）その他（ドレナージ術など）	15件	
【2】血管内手術の総数		**104件**	
	（1）脳動脈瘤塞栓術	23件	（破裂2、未破裂21）
	（2）脳動脈瘤フローダイバーター留置	9件	
	（3）脳動静脈奇形	2件	
	（4）脊髄動静脈奇形	2件	
	（5）閉塞性脳血管障害	20件	（ステント使用8）
	（6）その他（主に腫瘍塞栓術）	48件	
【3】その他（上記の分類すべてに当てはまらない）		**25件**	

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

整形外科
Orthopaedic Surgery

外来受付
1 階 05 番　TEL（06）6645-2361
午前 8 時 45 分～午後 4 時 45 分 [平日]
完全予約制となっております。

詳細はこちら

診療科部長、教授
てらい　ひでとみ
寺井　秀富



専門
脊椎脊髄外科、脊柱変形、側弯症

スタッフ

副
すずき　あきのぶ
准教授　**鈴木　亨暢**
【専門】 脊椎脊髄腫瘍、低侵襲脊椎手術

とよだ　ひろみつ
准教授　**豊田　宏光**
【専門】 脊椎、骨粗鬆症、側弯症

たかはし　しんじ
准教授　**高橋　真治**
【専門】 脊椎外科、側弯症、骨粗鬆症

はしもと　ゆうすけ
特任教授　**橋本　祐介**
【専門】 スポーツ医学、関節鏡、膝

おかの　ただし
特任教授　**岡野　匡志**
【専門】 リウマチ外科、足の外科、骨粗鬆症

すがま　りょう
講師　**洲鎌　亮**
【専門】 膝、股関節外科

まなか　ともや
講師　**間中　智哉**
【専門】 肩関節外科、肩関節鏡

まもと　けんじ
講師　**真本　建司**
【専門】 リウマチ外科、膝・股関節・足の外科

たまい　こうじ
講師　**玉井　孝司**
【専門】 脊椎外科、頚椎

しんたに　こうすけ
講師　**新谷　康介**
【専門】 小児整形外科、手外科

うえやま　ひでき
講師　**上山　秀樹**
【専門】 膝、股関節外科

診療科の特徴

当院整形外科は 1948 年に水野教授が開講されて以降、70 年以上の歴史を持つ整形外科学教室です。整形外科が扱う領域は脊椎外科、関節外科（肩・肘・股・膝・足）、関節リウマチ、手外科、スポーツ、骨軟部腫瘍外科、小児整形外科等と多岐にわたりますが、当院ではすべての分野を網羅しています。各分野とも日本整形外科学会に所属する各分野の専門医、認定医、指導医等の資格のある経験豊富な医師が担当します。2022-2025 年度版 Newsweek 社の World's Best Hospitals に整形外科部門で選出されています。特に、低侵襲脊椎手術、脊柱変形・側弯症手術、コンピューター支援手術、顕微鏡下の組織再建術、最新の人工関節、関節鏡下低侵襲手術などの手術療法に加え、生物製剤など最新の薬物療法も全国に先駆けて積極的に導入しています。関連病院の先生方、病院と緊密に連携をとり新専門医制度にも対応した ” 大阪公立大学整形外科クリニカルフェローシップ ” という独自の教育システムを採用しています。整形外科手術手技の修得、整形外科疾患の診断と治療、及び高度先端医療に至るまで整形外科の後期研修を実現し、毎年 15 人を越える新人医師を迎え活気にあふれる医局となっています。

対象疾患

[主力疾患]
・腰部脊柱管狭窄症　・椎間板ヘルニア　・頸椎症性脊髄症・神経根症
・側弯症　・骨粗鬆症性椎体骨折　・脊椎すべり症　・脊椎外傷
・脊椎脊髄腫瘍　・変形性股・膝関節症　・寛骨臼形成不全
・大腿骨頭壊死症　・変形性足関節症　・膝前十字靭帯損傷
・膝半月板損傷　・膝円板状半月　・外反母趾　・膝離断性骨軟骨炎
・膝蓋骨脱臼　・股関節唇損傷　・距骨離断性骨軟骨炎　・骨軟部腫瘍
・転移性骨腫瘍　・腱板断裂　・変形性肩関節症　・反復性肩関節脱臼
・インピンジメント症候群　・小児整形外科疾患　・四肢先天異常
・母指 CM 関節症　・デュプイトラン拘縮　・手根管症候群
・肘部管症候群

[対応できる疾患]
・Femoro-Acetabular Impingement　・胸郭出口症候群
・上肢の偽関節　・下肢骨折変形治癒　・キーンベック病
・関節リウマチ　・良性悪性骨軟部腫瘍　・舟状骨骨折・偽関節
・三角線維軟骨複合体損傷　・尺骨突き上げ症候群　・手根不安定症
・遠位橈尺骨関節障害　・末梢神経障害　・腱損傷　・石灰性腱炎
・動揺肩　・投球障害肩　・肩鎖関節脱臼
・上腕骨近位端骨折・変形治癒　・凍結肩　・脊椎関節炎
・脊髄係留症候群　・脊髄終糸症候群

主な診療実績

脊椎外科 406 件、関節外科 172 件、骨軟部腫瘍外科 127 件、手外科・小児整形外科 106 件、肩関節外科 150 件、スポーツ 95 件、リウマチ外科 120 件、外傷 38 件

脊椎外科では顕微鏡、内視鏡下手術から変形矯正手術まで、関節外科では小皮切手術、最新のコンピュータ支援技術を用いた人工膝関節・人工股関節、骨切り術を、肩関節外科では関節鏡手術からリバース型人工関節まで、スポーツ整形外科では関節鏡視下手術など低侵襲手術を得意としています。リウマチ外科では積極的に最新の生物製剤を導入し、成人の足部疾患の手術にも対応します。手外科では、微小血管吻合技術や腱移行術を用いた高度な再建手術を行っています。骨軟部腫瘍外科では手術に加え、抗癌剤治療を併用して、悪性腫瘍であっても患肢温存を目指しています。小児整形外科では新生児から思春期までのあらゆる病態に対応しております。適応症例については地域医療連絡室を通じて御紹介ください。

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

泌尿器科（腎臓移植）
Urology（Kidney Transplantation）

外来受付
3 階 1 9 番　　TEL.(06) 6645-2366
午前 8 時 4 5 分～午後 4 時 4 5 分 [平日]
[初診：月～金 / 午前 9 時～１０時３０ 分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
うちだ　じゅんじ
内田　潤次



専門
腎移植、泌尿器腫瘍、一般泌尿器

スタッフ

副
くらつくり　かつゆき
准教授　**鞍作　克之**
【専門】 性機能障害、泌尿器腫瘍、一般泌尿器

ながぬま　としひで
准教授　**長沼　俊秀**
【専門】 慢性腎不全、腎移植

いわい　ともあき
講師　**岩井　友明**
【専門】 腎移植、泌尿器腫瘍、一般泌尿器

やまさき　たけし
講師　**山﨑　健史**
【専門】 泌尿器腫瘍、一般泌尿器

かとう　みのる
講師　**加藤　実**
【専門】 泌尿器腫瘍、一般泌尿器

おおとし　たいよう
講師　**大年　太陽**
【専門】 泌尿器腫瘍、一般泌尿器

にしで　しゅんじ
講師　**西出　峻治**
【専門】 腎移植、泌尿器腫瘍、一般泌尿器

たけやま　ゆうじ
講師　**武山　祐士**
【専門】 泌尿器腫瘍、一般泌尿器

まつえ　たいすけ
病院講師　**松江　泰佑**
【専門】 泌尿器腫瘍、一般泌尿器

やまもと　しょうま
病院講師　**山本　匠真**
【専門】 泌尿器腫瘍、一般泌尿器

診療科の特徴

当教室では泌尿器疾患、腎不全に対して適切な設備で治療を行っております。低侵襲手術として前立腺癌、腎細胞癌、腎盂尿管癌、膀胱癌に対してロボット支援下腹腔鏡手術、腹腔鏡手術を積極的に行っています。また、前立腺癌に対する永久挿入密封小線源治療、前立腺肥大症に対するレーザー治療、難治性疾患とされている間質性膀胱炎に対する高気圧酸素療法なども実施しています。高齢患者さんが増加傾向である現在、生命予後改善を目指した治療だけでなく、QOL（生活の質）の向上、更に健康寿命の延伸に向けた治療を実践しています。末期腎不全の根治的治療ともいえる腎移植に関しては献腎移植、生体腎移植ともに施行し、現在までに腎移植件数 400 例以上の豊富な経験を有しています。生体腎移植 15 年生着率 89.0%を達成しており、生着率の高い腎移植施設となっています。腎不全治療のもう一つの柱である透析療法に関して 1965 年頃から現在まで積極的に取り組み、バスキュラーアクセスの作製や維持管理、腹膜透析チューブ留置術を数多くの患者さんに施行してまいりました。さらには長期透析合併症である二次性副甲状腺機能亢進症手術治療なども泌尿器科スタッフで行っています。当院は腎不全治療を包括的に実施できる泌尿器科です。

対象疾患

[主力疾患]
・前立腺がん　・腎臓がん　・膀胱がん・腎盂尿管がん（尿路上皮がん）
・精巣がん　・副腎腫瘍　・慢性腎不全（生体腎移植、献腎移植）
・慢性腎不全（血液透析・腹膜透析・バスキュラーアクセストラブル・二次性副甲状腺機能亢進症手術）
・前立腺肥大症　・過活動膀胱　・神経因性膀胱　・尿路感染症
・性機能障害　・男性不妊
・尿路結石症（腎結石・尿管結石・膀胱結石）　・女性泌尿器科

[対応できる疾患]
・後腹膜腫瘍　・その他の泌尿器がん　・間質性膀胱炎

主な診療実績

ロボット支援腎部分切除術（RAPN）	76 件
ロボット支援前立腺全摘術（RARP）	100 件
ロボット支援膀胱全摘術（RARC）	28 件
ロボット支援腎摘除術（RARN）	8 件
ロボット支援腎尿管全摘除術（RANU）	24 件
ロボット支援副腎摘出術	10 件
ロボット支援腎盂形成術	5 件
腹腔鏡下腎摘除術	10 件
腹腔鏡下腎尿管全摘術	6 件
生体腎移植	26 件
腹腔鏡下ドナー腎採取術	26 件
献腎移植	3 件
腹腔鏡下副腎摘出術	20 件
経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-Bt）	169 件
透析関連外科手術	173 件
前立腺癌小線源療法	3 件
F-TUL（レーザー）	16 件
経皮的経尿道的尿路結石砕石術（ECIRS）	5 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学）

Obstetrics & Gynecology, Women's Lifecare Medicine

外来受付

2 階 07 番　　TEL.06-6645-2371
午前８時４５分～午後４時４５分（平日）
初診：平日　月～金 / 午前９時～１０時３０分

詳細はこちら

部長
たちばな　だいすけ
橘　大介



専門
周産期全般・胎児免疫・内分泌疾患・骨盤底医学

スタッフ

副
みすぎ　たくや
准教授　**三枚　卓也**
【専門】周産期全般、生殖内分泌

はむろ　あきひろ
講師　**羽室　明洋**
【専門】生殖内分泌、腹腔鏡手術、骨盤底医学

たはら　みえ
講師　**田原　三枝**
【専門】周産期全般、胎児超音波、遺伝学

くりはら　やすし
講師　**栗原　康**
【専門】周産期全般、胎児超音波、遺伝医学

きただ　こうへい
講師　**北田　紘平**
【専門】周産期全般、遺伝医学、腹腔鏡手術、骨盤底医学

診療科の特徴

女性診療科では、妊娠・出産をはじめ、不妊症や女性特有の骨盤底疾患に対する専門的な診療を提供しています。産科領域では、母胎集中治療室（MFICU）３床、新生児集中治療室（NICU）９床を備えた地域周産期センターとして、大阪府内でも数少ない最重症妊産婦の受け入れ施設に指定されており、多胎妊娠、前置胎盤、胎児発育不全、妊娠高血圧症候群などのハイリスク妊娠に豊富な対応実績があります。脳･心疾患、交通外傷、産後大量出血といった重篤な合併症にも、救命救急センターや他診療科との連携により、迅速で高度な医療を提供できる体制を整えています。加えて、合併症のない妊婦さんの妊娠・分娩にも幅広く対応しており、安全・安心な出産をサポートしています。女性骨盤底医学では、加齢や出産に伴う骨盤臓器脱、排尿障害などに対し、保存療法から手術療法まで個別性を重視した診療を行っています。とくに出産直後からの排尿機能障害に対しては、きめ細やかな評価と対応を行っています。生殖・内分泌領域では、人工授精までの不妊治療を提供しており、卵管性不妊に対する腹腔鏡手術や、粘膜下筋腫による着床障害に対する子宮鏡手術など、妊娠率向上に向けた治療を積極的に行っています。

対象疾患

［主力疾患］

【産科】　多胎妊娠、前置胎盤、胎児発育不全、妊娠高血圧症候群などのハイリスク妊娠や、重篤な合併症を伴う妊産婦に対応しています。合併症のない妊婦さんの分娩も受け入れています。

【生殖医療】　卵管性不妊や着床障害に対して、人工授精までの一般不妊治療に加え、腹腔鏡・子宮鏡を用いた手術を行っています。

【骨盤底医学】　子宮脱や膀胱瘤、尿失禁、排尿障害など女性の骨盤底疾患に対し、保存療法から手術まで幅広く対応。個別性に配慮した治療で生活の質の改善を図ります。

主な手術や処置の件数（2025 年度）

分娩	782 件
帝王切開	350 件
多胎妊娠	38 件
前置胎盤 / 前置血管	38 件 /18 件
母体搬送受け入れ	263 件
腹腔鏡下異所性妊娠手術	18 件
腹腔鏡下卵巣のう腫手術	18 件
筋腫核出術（腹腔鏡）	10 件
卵管水腫に対する卵管切除術・卵管開口術	7 件
子宮鏡下手術（子宮内膜ポリープ、粘膜下筋腫）	13 件
子宮鏡下手術（アッシャーマン症候群に対する癒着剥離）	8 件
骨盤臓器脱手術（腟式 / 腹腔鏡）	49 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

女性診療科（婦人科腫瘍）

Obstetrics & Gynecology, Gynecological Oncology

外来受付

2 階 07 番　　TEL.（06）6645-2371
初診受付：平日　月～金 / 午前９時～１０時３０分
電話対応：平日　月～金午前８時４５分～午後４時４５分

詳細はこちら

副院長、診療科部長、教授



すみ　としゆき
角　俊幸

専門
婦人科悪性腫瘍・良性腫瘍、がんゲノム医療、婦人科一般

スタッフ

副

やすい　ともよ
准教授　**安井　智代**
【専門】婦人科悪性腫瘍・良性腫瘍、婦人科一般

ふくだ　たけし
准教授　**福田　武史**
【専門】婦人科悪性腫瘍・良性腫瘍、ロボット支援下手術、婦人科一般

やまうち　まこと
講師　**山内　真**
【専門】婦人科悪性腫瘍・良性腫瘍、ロボット支援下手術、婦人科一般

たさか　れいこ
講師　**田坂　玲子**
【専門】婦人科悪性腫瘍・良性腫瘍、子宮頸部異形成、婦人科一般

わだ　たくま
講師　**和田　卓磨**
【専門】婦人科悪性腫瘍・良性腫瘍、婦人科一般

おおうえ　けんた
講師　**大上　健太**
【専門】婦人科悪性腫瘍・良性腫瘍、婦人科一般

診療科の特徴

女性診療科（婦人科腫瘍）では主に女性生殖臓器（子宮、卵巣、卵管、腟、外陰部）に発生する腫瘍の診断と治療を行っております。特に悪性腫瘍の診断治療に注力しており、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、卵管がん、腹膜がんに対して手術や化学療法、放射線治療を含めた集学的治療を積極的に行っています。また、大学病院という特性上、合併症などで地域の病院では対応困難な患者さんに対しても、他科と連携し治療を行い、必要に応じて ICU や HCU で管理を行うことで安全に治療を行うことが可能です。早期子宮体がん、早期子宮頸がんに対しては適応を満たせば腹腔鏡下手術も行っており、早期子宮体がんに対してはロボット支援下手術も行っております。また、残念ながら癌の進行により標準的治療の選択肢がなくなった癌患者さんに対しては、がん遺伝子パネル検査を行い、遺伝子の病的バリアントの有無を調べ、個別化した医療の可能性を探索することも可能です。良性の卵巣腫瘍や子宮筋腫、子宮内膜層などの診断や治療も行っており、一部の症例を除き腹腔鏡下手術を行い、早期に社会復帰ができるよう治療を行っています。また、過多月経の治療として子宮内膜アブレーション（子宮内膜の焼灼）治療も行っております。

対象疾患

[主力疾患]

・子宮頸がん　・子宮体がん　・卵巣がん　・腹膜がん
・卵管がん　・腟がん　・外陰がん　・子宮頸部異形成
・子宮筋腫　・子宮内膜症　・子宮腺筋症

[対応できる疾患]

・子宮内膜増殖症　・子宮内膜ポリープ　・子宮頸管ポリープ
・骨盤腹膜炎　・性感染症

主な診療実績

子宮頸がん手術	24 件
卵巣がん手術	53 件
子宮体がん手術	71 件
子宮肉腫手術	4 件
外陰癌手術	2 件
悪性腫瘍に対する腹腔鏡下・ロボット支援下手術	16 件
良性疾患に対する腹腔鏡下手術	109 件
子宮頸部円錐切除術	59 件
子宮鏡下手術	51 件
子宮頸がんに対する放射線治療	12 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

初診は紹介状が必要です。

眼科
Ophthalmology

外来受付

1 階 04 番　　TEL.(06) 6645-2366
午前８時４５分～午後４時４５分［平日］
［初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分］
※専門外来については、ご紹介時のお願いをご確認ください。

詳細はこちら

診療科部長、教授
ほんだ　しげる
本田　茂



専門
網膜硝子体疾患、黄斑疾患、小児眼科

スタッフ

副
准教授　やまもと　まなぶ　**山本　学**
【専門】 黄斑疾患、網膜硝子体疾患

講師　たがみ　みずき　**田上　瑞記**
【専門】 眼腫瘍、眼炎症、網膜硝子体疾患

講師　ひらやま　くみこ　**平山　公美子**
【専門】 網膜硝子体疾患、黄斑疾患

病院講師　うえの　ようすけ　**上野　洋祐**
【専門】 緑内障、白内障

病院講師　そん　かなん　**孫　嘉楠**
【専門】 網膜硝子体疾患、緑内障

診療科の特徴

網膜疾患の診療については長年の伝統があり、中でも加齢黄斑変性の臨床、研究に積極的に取り組んでおります。当院では無侵襲で網膜のみならず脈絡膜の微細な構造が観察できる高深達光干渉断層計（SSOCT）や光干渉断層血管撮影装置（OCTA）、広角眼底撮影装置などの検査機器、および光線力学療法や閾値下レーザー凝固装置などの治療機器を含めた設備を揃え、あらゆる角度から得た情報をもとに豊富な経験と技量を持った臨床医による診療を行っています。一方、先進的な活動として多くの世界的な多施設研究や治験に参加してエビデンスの構築に携わると共に、患者さんの様々な背景因子を基にした個別化医療を推進して行きます。また手術に関しては網膜剥離、増殖糖尿病網膜症、黄斑円孔など殆どの網膜疾患に対して超低侵襲の 27 ゲージ硝子体手術システムに加えて 2020 年 2 月から 4KCCD カメラと 3D 画像モニターを使用した最新の head-up surgery を開始しています。その他にもぶどう膜炎、緑内障、神経眼科、眼腫瘍･眼炎症、小児眼科の診療にも適応しています。

対象疾患

[主力疾患]
・加齢黄斑変性　・網膜剥離　・糖尿病網膜症　・網膜前膜
・黄斑円孔　・中心性漿液性脈絡網膜症　・糖尿病黄斑症
・網膜静脈閉塞症　・眼外傷　・白内障　・眼腫瘍　・眼窩疾患
・緑内障　・ぶどう膜炎

[対応できる疾患]
・神経眼科　・斜視　・弱視　・角膜疾患

主な診療実績

水晶体再建術	921 件
硝子体手術	395 件
網膜復位術	9 件
緑内障手術	124 件
眼窩内腫瘍摘出術	30 件
斜視手術	28 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

※専門外来について
火曜日午後：眼底（黄斑）外来
水曜日午後：網膜外来
木曜日午後：眼炎症・腫瘍外来／斜視・弱視外来
金曜日午後（隔週）：緑内障外来

耳鼻いんこう科
Otolaryngology, Head and Neck Surgery

外来受付
２階１１番　TEL（06）6645-2381
[初診：月～金 / 午前９時～午前１０時３０分]（予約制）
地域連携室を通して予約を取って頂くことも可能です。
他院からの紹介状が必要です。再診は完全予約制です。

詳細はこちら

副院長、診療科部長、教授
すなみ　きしこ
角南　貴司子



専門
神経耳科、めまい、側頭骨外科

スタッフ

副
講師　おおいし　まさひろ　**大石　賢弥**
【専門】頭頸部腫瘍、甲状腺腫瘍

講師　こうだ　ゆうき　**神田　裕樹**
【専門】神経耳科、めまい、側頭骨外科

講師　かじもと　やすゆき　**梶本　康幸**
【専門】甲状腺腫瘍

講師　やまもと　ゆうき　**山本　祐輝**
【専門】頭頸部腫瘍

講師　よこた　ちえこ　**横田　知衣子**
【専門】頭頸部腫瘍

特任教授　さかもと　ひろかず　**阪本　浩一**
【専門】聴覚言語情報機能、小児難聴、遺伝性難聴、アレルギー

特任講師　みやもと　まこと　**宮本　真**
【専門】音声障害

病院講師　なかはま　**中濱　千晶**
【専門】音声、鼻副鼻腔

病院講師　かめい　ゆかり　**亀井　優嘉里**
【専門】甲状腺

助教　はしもと　こうすけ　**橋本　孝佑**
【専門】難聴　側頭骨外科

診療科の特徴

当科では、耳・鼻・のどに加え、頭頸部領域の幅広い疾患に対して、専門的かつ包括的な医療を提供しています。

特に頭頸部腫瘍に対しては、再建手術を含む手術療法をはじめ、放射線療法、化学療法、さらには免疫療法を組み合わせた集学的治療を行っております。早期咽頭癌に対しては、低侵襲な鏡視下手術やロボット支援手術を導入し、機能温存と根治性の両立を目指しています。

めまい疾患に関しては、的確な診断と原因に応じた治療をモットーとしており、外来通院による検査に加え、必要に応じて入院下での精密検査を実施しています。特に難治性メニエール病には、中耳加圧治療や内リンパ嚢開放術などを用いて、めまいのコントロールに努めています。

難聴に対しては、補聴器の適切なフィッティング支援を行うとともに、高度難聴の患者さんには人工内耳手術も提供しています。中耳疾患では内視鏡下手術を取り入れ、低侵襲かつ精度の高い治療を心がけています。

また、顔面神経麻痺の難治症例に対しては、顔面神経減荷術による神経機能回復を目指した治療も行っています。

副鼻腔疾患においては、内視鏡手術を活用し、慢性副鼻腔炎から鼻副鼻腔腫瘍摘出、さらには頭蓋底に及ぶ手術まで幅広く対応しております。

当科は、外科・形成外科・脳神経外科・放射線科・小児科など、他科との連携も良好であり、各診療科と協力しながら、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供しています。

対象疾患

[主力疾患]
・感音難聴・耳鳴　・突発性難聴　・伝音難聴　・慢性化膿性中耳炎
・真珠腫性中耳炎　・滲出性中耳炎　・喉頭がん　・咽頭がん
・舌がん　・口腔がん　・副鼻腔悪性腫瘍　・メニエール病
・良性発作性頭位めまい症　・唾液線腫瘍　・慢性副鼻腔炎
・アレルギー性鼻炎　・慢性扁桃炎　・急性喉頭蓋炎　・深頸部膿瘍
・睡眠時無呼吸症候群
・APD

[対応できる疾患]
・悪性リンパ腫　・シェーグレン症候群　・ベーチェット病
・多発性軟骨炎

主な診療実績

耳科手術　276 件	
鼓室形成術	62 件
人工内耳手術	18 件
アブミ骨手術	2 件
顔面神経減荷術	7 件
鼓膜形成術	23 件
乳突削開術	31 件
試験的鼓室解放術	1 件
外側側頭骨切除術	1 件
鼻科手術　264 件	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	264 件
涙嚢・鼻涙管手術	0 件
視神経管開放術	0 件
口腔咽頭手術　192 件	
舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術	76 件
頭頸部手術　358 件	
頸部郭清術	61 件
頭頸部腫瘍摘出術	221 件
甲状腺良性・悪性腫瘍摘出術	48 件
バセドウ病手術	7 件
副甲状腺摘出術	21 件
気管切開術	108 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

麻酔科・ペインクリニック科
Anesthesiology & Pain Clinic

外来受付
1階02番　TEL（06）6645-2385
午前8時45分～午後4時45分［平日］
［初診：月～金 / 午前9時～午前10時30分］

詳細はこちら

診療科部長、教授
もり　たかし
森　隆



専門
手術麻酔、ペインクリニック

スタッフ

副
まつうら　ただし
准教授　**松浦　正**
【専門】手術麻酔

すえひろ　こういち
准教授　**末廣　浩一**
【専門】手術麻酔、心臓麻酔、集中治療

やべ　みつひで
講師　**矢部　充英**
【専門】手術麻酔、ペインクリニック、緩和医療

ふない　ゆうすけ
講師　**舟井　優介**
【専門】手術麻酔、小児麻酔、心臓麻酔

ほり　こうたろう
講師　**堀　耕太郎**
【専門】手術麻酔、心臓麻酔

ふじもと　ようへい
講師　**藤本　陽平**
【専門】手術麻酔

つじかわ　しょうご
講師　**辻川　翔吾**
【専門】手術麻酔、心臓麻酔、ペインクリニック

ひの　ひでき
講師　**日野　秀樹**
【専門】手術麻酔、小児麻酔、心臓麻酔

じゅうり　たかし
講師　**重里　尚**
【専門】手術麻酔、心臓麻酔、集中治療

きむら　あや
講師　**木村　文**
【専門】手術麻酔

診療科の特徴

麻酔科術前診察外来では、手術予定の患者さんを診察し、最適な麻酔方法を検討して、麻酔について詳しく説明いたします。

ペインクリニック科とは痛みを総合的に診断し治療する診療科です。痛み治療を第一に行うのが特徴です。慢性化した疼痛は生体の危険信号ではなく患者さんを悩ませるだけです。そのような患者さんに対して神経ブロックに加えて、疼痛疾患に有効な各種の治療法、すなわち薬物療法、刺激鎮痛法、理学療法、心理療法、手術的処置などを総合的に適用し治療を行います。

日本のペインクリニックは麻酔科医を中心に運営され、神経ブロックによる治療が多いのですが、疼痛の治療には整形外科医、脳神経外科医、精神科医、神経内科医、臨床心理士、看護師、理学療法士などの協力を得た集学的治療が重要です。そのために他科・他部門との連携を密に行っています。

対象疾患

［主力疾患］
・帯状疱疹関連痛　・腰痛症　・膝股関節症　・脊椎症
・脊柱管狭窄症　・複合性局所疼痛症候群 (CRPS)
・三叉神経痛　・癌性疼痛　・頭痛　・非定型顔面痛
・肋間神経痛　・Failed Back Surgery Syndrome
・求心路遮断性疼痛　・肩関節周囲炎　・頚肩腕症候群
・遷延性創部痛　・閉塞性動脈硬化症　・閉塞性血栓血管炎

［対応できる疾患］
あらゆる痛みに対応いたします。お気軽にご相談ください。

主な診療実績

麻酔科管理症例	6734件
全身麻酔	5769件
全身麻酔＋硬膜外麻酔	194件
全身麻酔＋伝達麻酔	160件
脊髄くも膜下麻酔	530件
ロボット支援下手術（全身麻酔）	749件
ハイブリッド手術（全身麻酔）	258件
神経ブロック（ペインクリニック）	1162件
内臓神経ブロック	10件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

形成外科
Plastic & Reconstructive Surgery

外来受付
2階10番　TEL.（06）6645-3381
午前8時45分～午後4時45分［平日］
［初診：月火水木金 / 午前9時～午前10時30分］

詳細はこちら

病院長補佐、診療科部長、教授
もとむら　ひさし
元村　尚嗣



専門
再建外科、皮膚悪性腫瘍

スタッフ

副
もろとみ　ただあき
准教授　**諸富　公昭**
【専門】頭蓋顎顔面外科

ふじい　なほ
講師　**藤井　奈穂**
【専門】レーザー、血管腫

ふじかわ　へいしろう
病院講師　**藤川　平四朗**
【専門】小児形成外科

まえだ　しゅうさく
病院講師　**前田　周作**
【専門】再建外科、マイクロサージャリー

でぐち　あやか
病院講師　**出口　綾香**
【専門】片頭痛外科、乳房再建

こじま　つばさ
病院講師　**小島　空翔**
【専門】乳房再建

診療科の特徴

形成外科とは体表面を中心とする先天性・後天性の醜形・機能障害を、おもに外科的手段によって正常に近づけ、肉体的・精神的苦痛を取り除くことを目的とする科です。

診療項目として以下が挙げられます。

- ケガ（きれいに治すことも目標にします）
- 顔面骨折（新鮮、陳旧性）
- やけど（新鮮熱傷、熱傷後後遺症）
- あざ
- 皮膚腫瘍（良性、悪性）
- 先天異常（唇顎口蓋裂、小耳症、多合趾（指）症など）
- 皮膚潰瘍（褥瘡、虚血性潰瘍、糖尿病性足病変など）
- がんの切除後の再建（頭頚部、体幹、四肢）
- 乳房再建
- リンパ浮腫
- 片頭痛外科

専門的な知識と診療技術を持ち、これらの領域に関して適切に対応する診療を行い、必要に応じて他領域の専門医と共同して治療を行います。特に、当科は他科との連携を得意とし、多くのチーム医療を行っています。形成外科関係の疾患や外傷でお悩みの方は、当病院または関連病院にご相談ください。適切なサービス提供を目指します。

対象疾患

［主力疾患］
・新鮮外傷・熱傷　・顔面外傷・骨折　・種々の先天異常
・母斑・血管腫・良性腫瘍　・悪性腫瘍切除後再建外科
・瘢痕・瘢痕拘縮　・褥瘡・難治性潰瘍　・皮膚悪性腫瘍
・顎顔面外科

［対応できる疾患］
・熱傷・軟部組織損傷　・鼻骨・頬骨・上下顎骨折
・手足の先天異常　・母斑性疾患　・血管腫　・良性腫瘍
・マイクロサージャリーを含めた再建外科　・瘢痕・瘢痕拘縮
・褥瘡　・慢性潰瘍　・皮膚悪性腫瘍　・リンパ浮腫
・顎変形症　・片頭痛外科

主な手術や処置の件数

I.	外傷	88件
II.	先天異常	103件
III.	腫瘍	372件
IV.	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	88件
V.	難治性潰瘍	86件
VI.	炎症・変性疾患	37件
VII.	美容（手術）	0件
VIII.	その他	83件
IX.	Extra　レーザー治療	480件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

血液内科・造血細胞移植科

Department of Hematology and hematopoietic cell transplantation

外来受付

当科は予約による外来受診以外に直接来院も可能です。受診される際には紹介状が必要です。セカンドオピニオン（TEL 06-6645-3399）、造血幹細胞移植前相談外来（TEL 06-6645-2877）を希望の方は事前に予約を取って下さい。

詳細はこちら

診療科部長、准教授

なかまえ　ひろひさ

中前　博久



専門

血液内科全般、造血幹細胞移植

スタッフ

講師　なかしま　やすひろ　**中嶋　康博**

【専門】 血液内科全般、造血幹細胞移植、CAR-T 療法

講師　にしもと　みつたか　**西本　光孝**

【専門】 血液内科全般、造血幹細胞移植

准教授　おかむら　ひろし　**岡村　浩史**

【専門】 医療情報医学、血液内科全般、造血幹細胞移植

病院講師　ながさき　じょうじ　**長崎　譲慈**

【専門】 血液内科全般、造血幹細胞移植、CAR-T 療法

病院講師　くの　まさとも　**久野　雅智**

【専門】 血液内科全般、造血幹細胞移植

病院講師　いど　けんたろう　**井戸　健太郎**

【専門】 血液内科全般、造血幹細胞移植

病院講師　ほりうち　みれい　**堀内　美令**

【専門】 血液内科全般、造血幹細胞移植

病院講師　なかや　ようすけ　**中舎　洋輔**

【専門】 血液内科全般、造血幹細胞移植

病院講師　おかやま　ゆうすけ　**岡山　裕介**

【専門】 血液内科全般、造血幹細胞移植

診療科の特徴

1. 造血幹細胞移植推進拠点病院として血縁および非血縁（骨髄バンク、臍帯血）ドナーからの同種造血幹細胞移植を積極的に実施しております。また、CAR-T 治療や二重特異性抗体などの新規の免疫療法も導入しております。
2. 移植サポートチーム（医師・歯科医師・看護師・造血幹細胞移植コーディネーター・薬剤師・歯科衛生士・理学療法士・管理栄養士・臨床工学技士・放射線技師・臨床検査技師・ＭＳＷ・患者会など）が、患者さんの病状にあわせて最も適した治療・ケアを提供しています。
3. 毎週火曜日に移植後の長期フォローアップのための専門外来を設置しており、移植後の合併症の管理、予防を長期間に行っております。
4. 様々なニーズに答えるために、患者さんへ十分なインフォームド・コンセントをさせていただき、治療方法を一緒に考えています。
5. エビデンスに基づいた安全で質の高い医療を提供するとともに、高度先進医療の開発の目的で国際共同治験、厚生労働科学研究、国内外の研究機関との共同研究や独自の研究的治療も行っております。

対象疾患

[主力疾患]

・急性骨髄性白血病　・急性リンパ性白血病　・慢性骨髄性白血病
・非ホジキンリンパ腫　・ホジキンリンパ腫
・成人 T 細胞白血病・リンパ腫　・骨髄異形成症候群
・慢性リンパ性白血病　・再生不良性貧血　・真性多血症
・骨髄線維症　・本態性血小板血症　・特発性血小板減少性紫斑病
・多発性骨髄腫　・マクログロブリン血症
・慢性活動性 EB ウイルス感染症

[対応できる疾患]

・白血球減少症　・無顆粒球症　・発作性夜間ヘモグロビン尿症
・溶血性貧血　・腎性貧血およびその他の二次性貧血
・ビタミン B12 欠乏および葉酸欠乏性貧血
・血友病などの先天性凝固異常症　・フォン・ヴィルブランド病
・播種性血管内凝固症候群（DIC）

主な診療実績

1. 治療実績：1992 年から 2026 年 3 月までに同種造血幹細胞移植 942 件、骨髄バンクドナーの採取 657 件（全国 1 位）実施しています。実績はホームページで公開しています。（https://www.omu.ac.jp/med/hematology/）
2. 先端医療：2009 年から 2026 年 3 月までに移植後シクロホスファミド大量療法を用いた血縁 HLA 半合致移植（ハプロ移植）210 例実施しています。難治性の造血器悪性腫瘍に対する CAR-T 療法を実施しています。
3. 毎週木曜日の午前中に完全予約制で移植相談外来およびセカンドオピニオン外来を開設しております。お手数ですが、紹介状をお願いします。別途費用が必要です。
4. 治験：新薬の治験を数多く実施しています。
5. コンソーシアム：大阪市立総合医療センター、大阪府済生会中津病院、泉大津急性期メディカルセンター、大阪鉄道病院、大阪みなと中央病院、四天王寺病院、寺元記念病院、若草第一病院、石切生喜病院、LIGARE 血液内科太田クリニック・心斎橋と連携し、血液疾患全般に対応しております。

同種末梢血幹細胞移植術	24 件
同種骨髄移植術	2 件
臍帯血移植術	8 件
末梢血幹細胞採取術	23 件
骨髄採取術	12 件
CAR-T 療法	10 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

脳神経内科
Neurology

外来受付
２階１５番
[初診：月～金 / 受付午前９時～午前１０時３０分]
専門外来の受診を希望される場合は、まずは担当医もしくは他の初診を受診してください。

詳細はこちら

診療科部長、教授
いとう　よしあき
伊藤　義彰



専門
脳神経内科、脳血管障害、認知症、頭痛

スタッフ

副
つじ　ひろし
准教授　**辻　浩史**
【専門】脳神経内科、パーキンソン病、変性疾患

たけだ　あきとし
講師　**武田　景敏**
【専門】脳神経内科、高次機能障害、認知症

はせがわ　いつき
講師　**長谷川　樹**
【専門】脳神経内科、パーキンソン病、認知症

おかもと　こうすけ
病院講師　**岡本　光佑**
【専門】脳神経内科、脳卒中

あおはら　けんた
病院講師　**青原　健太**
【専門】脳神経内科、神経免疫

診療科の特徴
脳神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋を障害する疾患を扱う部門で、脳神経外科とは対称的に内科的な治療（薬剤による治療）を専門に行います。脳を障害する疾患には、認知症、てんかん、頭痛など、最近になり原因となる疾患の病理、病態、分子機序が明確となったものが多く含まれ、これらは脳神経内科で診療します。

当科は、小児神経疾患からの移行症例など若年性疾患を診療している一方、認知症、パーキンソン病などの高齢者も多く診療しており、対象年齢は幅広く対応しています。また脳卒中やギランバレー症候群のような急性発症で緊急を要する疾患から、生涯にわたって加療を要する慢性難治性疾患まで対応しています。

特に重点となる診療として、

1. 認知症疾患医療センター：大阪市からの委託業務で市の南部医療圏における認知症の診断、治療、地域医師会との連携会、市民公開講座などを担当しています。
2. 難病連携拠点病院:大阪府からの委託事業で、神経難病を中心として、希少疾患、難病の診療、地域連携を担っています。
3. 脳卒中 PSC（一次脳卒中センター）：脳梗塞急性期における血栓溶解療法、血管内血栓回収療法や、脳出血、くも膜下出血など急性期治療を引き受けています。

対象疾患
[主力疾患]

1. 脳卒中
2. 認知症（アルツハイマー病、脳血管性、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症）
3. 変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症）
4. 機能性疾患（片頭痛、緊張性頭痛、群発性頭痛、てんかん、書痙、斜頸）
5. 神経免疫疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー、重症筋無力症、筋炎）
6. 感染症（脳炎、髄膜炎）

[対応できる疾患]

1. 遺伝性神経難病（ハンチントン病、周期性四肢麻痺、痙性対麻痺、各種の筋ジストロフィー、ファブリー病、ウィルソン病、瀬川病、神経線維腫症Ⅰ型・Ⅱ型、もやもや病、ミトコンドリア病、家族性アミロイドポリニューロパチー、シャルコー・マリー・トゥース病、皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症）
2. その他の神経難病（好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、クロウ・深瀬症候群、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、クロイツフェルトヤコブ病、進行性多巣性白質脳症）

主な診療実績
筋生検　7 件

ご紹介時のお願い
初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

歯科口腔外科
Oral and Maxillofasial Surgery

外来受付

５階 51 番　TEL （06）6645-2781・2782
FAX （06）6646-6063
午前９時～午後４時 45 分
［初診：月～金 / 午前９時から午前１０時３０分］

詳細はこちら

部長
よしもと　ひとし
吉本　仁

専門
歯科口腔外科



診療科の特徴

当院歯科口腔外科では、主に院内各診療科と連携し、入院患者さんや周術期患者さんを対象とした口腔機能管理を中心に診療を行っています。全身状態に配慮しながら、口腔内環境を整えることで、手術や化学療法、放射線治療に伴う合併症のリスク軽減を図っています。特に高齢化社会の進行とともに、薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）の症例も増加しており、早期発見・早期対応に努めています。また、地域の歯科医院からのご紹介による患者さんの診療にも積極的に取り組んでいます。具体的には、難易度の高い埋伏歯（親知らず）の抜歯をはじめ、透析療法中、糖尿病、抗血栓療法中といった、全身疾患を抱える患者さんに対する外科的治療を安全に行っています。これらの症例に対しては、主治医や関連診療科と連携を取りながら、患者さん一人ひとりの全身状態に応じた適切な治療計画を立案し、慎重に対応しています。なお、当科では一般的な虫歯治療や義歯作製といった一般歯科診療は行っておりません。地域の歯科医院やかかりつけ医との連携を大切にしながら、専門性の高い医療を提供し、地域医療への貢献を目指しています。

対象疾患

［主力疾患］

・埋伏歯を含む抜歯症例
・歯性感染症（頬部膿瘍、顎下膿瘍、蜂窩織炎）
・顎骨嚢胞、顎骨腫瘍　・顎関節症　・口腔粘膜疾患
・薬剤性顎骨壊死　・顎関節脱臼　・歯性上顎洞炎

［対応できる疾患］

・外傷　・唾液腺疾患　・口腔癌（診断のみ）　・舌痛症

主な診療実績

埋伏歯抜歯	265 件
薬剤性顎骨壊死	20 件
顎骨嚢胞・顎骨腫瘍	32 件
歯性感染症	3 件
顎関節疾患	20 件
唾液腺疾患	5 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

感染症内科
Department of Infectious Diseases

外来受付
1 階 01 番　総合診療センター・感染症内科外来
ＴＥＬ．(06) 6645-3301
午前 8 時 45 分～午後 12 時 [平日]
[初診：火・木・金　午前 9 時～午前 10 時 30 分]

詳細はこちら

診療科部長、教授
かけや　ひろし
掛屋　弘



専門
感染症

スタッフ

副
講師　しばた　わたる　**柴多　渉**
【専門】 感染症

講師　いもと　わき　**井本　和紀**
【専門】 感染症

診療科の特徴
本院の感染症内科は 2015 年の 10 月に創設され、12 月から外来・病棟業務を開始しています。感染症一般を幅広く診療していますが、特に呼吸器感染症に関しては診療経験が豊富で、細菌・ウイルス・真菌・抗酸菌感染症等の診断・治療を行っています。その他、本院入院中の全科より感染症の相談を受けており、専門的な立場から一緒に患者さんを診療させていただいています。また、感染制御の立場からも院内全体の適切な感染症診療を支援しています。

近隣施設や院内からご紹介いただいた感染症症例の専門的な検査・診断や治療を行っています。必要に応じて入院加療も可能です。受診するには、依頼書（診療情報提供書（紹介状）、検査結果、画像検査等）が必要です。

対象疾患
[主力疾患]
・呼吸器感染症　・敗血症　・感染性心内膜炎　・髄膜炎
・皮膚軟部組織感染症　・尿路感染症　・腸管感染症
・耐性菌感染症　・真菌感染症　・抗酸菌感染症

[対応できる疾患]
・輸入感染症（一類感染症は除く）　・性感染症　・不明熱
・寄生虫感染症

主な診療実績
現在、火・木・金の午前中に外来を行っています（受付時間午前 9 時～午前 10 時 30 分）。

呼吸器感染症や性感染症を中心に、一般感染症を診療します（上記：対象疾患）。必要に応じて入院診療も可能です。

アカデミックな環境で、感染症の原因究明を目指し、治療にあたります。外来や入院、そして院内の感染症診療に関するコンサルト業務を担当しています。

感染症内科として 2015 年 12 月に外来診療を開始以来、院内外から毎週新患をご紹介いただいています。

基本的には感染症が改善するまで担当医と一緒に診療を行います。

ご紹介時のお願い
初診予約は診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

ゲノム診療科
Department of Clinical Genomics

外来受付
1 階 01 番　　完全事前予約制
診療内容により保険診療の場合と自費診療の場合があります。
自費診療の場合、同日に他科 (保険診療) 受診はできません。

詳細はこちら

副院長、診療科部長、教授
すみ　としゆき
角　俊幸



専門
婦人科腫瘍

スタッフ

副
病院教授　せと　としゆき　**瀬戸　俊之**
【専門】 希少疾患・難病、遺伝性疾患全般

副
研究教授　やしろ　まさかず　**八代　正和**
【専門】 遺伝性腫瘍

特任教授　さかもと　ひろかず　**阪本　浩一**
【専門】 遺伝性難聴

講師　たはら　みえ　**田原　三枝**
【専門】 周産期関連、出生前診断

講師　きただ　こうへい　**北田　紘平**
【専門】 周産期関連、出生前診断

診療科の特徴

ゲノム診療科は遺伝子というキーワードで対応いたします。どのような疾患でも紹介や相談を受付させていただきますが、下記が当科の特色・特徴です。

1. 希少・難病疾患の診断：当院は国立研究開発法人日本医療研究開発機構のプロジェクトである「未診断疾患イニシアチブ (IRUD)」の拠点病院です。通常の医療の中で病気の原因が判明しない患者さんに、最新の遺伝医学を用いて診断を試みます。
2. がんゲノム医療：当院は厚生労働省よりエキスパートパネル実施可能がんゲノム医療連携病院に指定されています。「がん遺伝子パネル検査」では、得られた結果を基に治療法を模索します。また、検査結果や家族歴から「遺伝性腫瘍」の診断につながる場合があり、その後の定期検査のサポートを行います。
3. 他にも、NIPT(非侵襲性出生前遺伝学的検査) や遺伝性難聴の診療も行っています。

ゲノム診療科では、診断のための診察や遺伝カウンセリングを行います。一定の結果が得られた段階で、原疾患のフォローアップのために紹介いただいたクリニックや病院の主治医の先生へフィードバックさせていただきます。

対象疾患

[主力疾患]
・ファブリー病　　・ゴーシェ病
・ムコ多糖症等のライソゾーム病全般　　・結合織疾患、骨系統疾患
・難治てんかん　　・重度の知的・発達障がいなど小児神経内科疾患
・染色体異常症　　・先天異常症候群　　・先天代謝異常症
・脊髄小脳変性症などの遺伝性神経疾患
・多発性内分泌腺腫症 I 型もしくは II 型
・遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC)
・家族性大腸ポリポーシス
・リンチ症候群やリ・フラウメニ症候群などの遺伝性腫瘍

[対応できる疾患]
・小児科から成人までの様々な希少疾患・難病に関する診断と遺伝カウンセリング
・様々な出生前診断に関する遺伝カウンセリング
・遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリング
・遺伝性難聴に関する遺伝カウンセリング

主な診療実績

希少疾患・難病（小児・成人）	254 件
遺伝性難聴	123 件
周産期	239 件
遺伝性腫瘍	216 件
遺伝性皮膚疾患	8 件

ご紹介時のお願い

初診予約は診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

リハビリテーション科
Department of Rehabilitation Medicine

外来受付
当院入院患者さんのみを対象としております。当院紹介に際しましてリハビリテーション介入・継続が必要とご判断された場合には、紹介科へその旨お伝えください。

詳細はこちら

診療科部長、教授
てらい　ひでとみ
寺井　秀富



専門
整形外科・リハビリテーション科

スタッフ

副
いけぶち　みつひこ
講師　**池渕　充彦**
【専門】 リハビリテーション科・整形外科

おおた　よういち
講師　**大田　陽一**
【専門】 リハビリテーション科・整形外科

診療科の特徴
当科は大学病院の機能上、入院患者さんのみを対象とし、大学病院ならではの先進治療（ロボット手術や TAVI など）に対応したリハビリテーションを提供しています。急性期リハビリテーションに特化しており、超急性期より介入を開始、患者さんの活動性の向上・維持に務めています。診療対象の多くは外科手術後の患者さんであり、整形外科を筆頭に心臓血管外科・肝胆膵外科・消化器外科など、高度手術の患者さんの術後リハビリテーションを請け負っております。また、心不全や弁膜症など、心疾患の患者さんに対するリハビリテーションを積極的に行っている点も当科の特徴となります。その他、大学病院ならではの神経難病や血液疾患、脳血管疾患や呼吸器疾患、がん治療の患者さんなど、小児周産期から終末期まで幅広い症例に対する急性期リハビリテーションに対応しております。当院紹介患者さんには、主科よりご紹介いただければ早期より診察･介入させていただきますので､紹介状などにリハビリテーションの早期介入希望とご記載ください。

対象疾患
[主力疾患]
【入院患者さんが対象となります。】
・整形外科疾患全般（脊椎・関節 etc.）のリハビリテーション
・心大血管疾患（心不全・心大血管手術）のリハビリテーション
・脳血管障害全般のリハビリテーション　・がんのリハビリテーション
・神経筋疾患のリハビリテーション　・脊髄損傷のリハビリテーション
・小児疾患のリハビリテーション　・切断・義肢のリハビリテーション
・摂食嚥下リハビリテーション

[対応できる疾患]
・脳性麻痺のリハビリテーション
・単麻痺患者さんのリハビリテーション
・二分脊椎のリハビリテーション　・小児周産期リハビリテーション

基本的に、当院へ入院されている患者さんは対応可能ですが、慢性期・維持期の症例に対するリハビリテーションには対応できない場合もございます。（例：発症後半年以上の脳血管疾患、手術が不要なレベルの慢性腰痛症、術後５ヶ月以上経過した人工関節置換術後など）

主な診療実績
リハビリテーション診察：約 3500 件 / 年

整形外科症例（運動器リハビリテーション）	約1000 件
心不全・弁膜症（TAVI 含む）症例（心大血管リハビリテーション）	約 460 件
心臓血管外科症例（大動脈瘤・ASO 含む）（心大血管リハビリテーション）	約 220 件
脳血管外科症例（高次脳機能評価含む）（脳血管リハビリテーション）	約 250 件
神経内科症例（脳梗塞含む）(脳血管リハビリテーション）	約 160 件
呼吸器疾患症例（手術症例含む）（呼吸器リハビリテーション）	約 100 件
肝胆膵外科症例（がんのリハビリテーション）	約 180 件
消化器外科症例（がんのリハビリテーション）	約 50 件
乳癌症例（がんのリハビリテーション）	約 250 件
泌尿器科（前立腺癌 DaVinci 手術症例）(がんのリハビリテーション)	約 100 件
婦人科がん症例 (がんのリハビリテーション)	約 50 件
血液疾患症例（がんのリハビリテーション）	約 80 件
救命救急部	約 160 件
廃用症候群（廃用症候群リハビリテーション）	約 80 件
その他疾患	約 440 件

病理診断科
Dept. of Pathology

詳細はこちら

診療科部長、教授
こうはし　けんいち
孝橋　賢一



専門
骨軟部腫瘍

スタッフ

副
講師　おくの　たかひろ　**奥野　高裕**
【専門】小児腫瘍

講師　しおはら　まさのり　**塩原　正規**
【専門】腎泌尿器腫瘍

診療方針

当科は、患者さんの治療選択のため、可能な限り迅速かつ正確な病理診断業務を行うことを心がけています。
大学病院内のみならず、あべのハルカス内にある MedCity21 健診科からの検体も診断しており、市民の皆様の病気の早期発見にも努めております。

診療科の特徴

【病理診断とは】
病理診断科では患者さんから採取された組織や細胞を顕微鏡で観察し、疾患の診断や病勢・状態の評価を行っております。病理診断は患者さんの治療方針決定に大きな影響を与えるため、可能な限り迅速かつ正確な病理診断を提供することを基本方針としております。附属病院内のみならず、あべのハルカス内にある MedCity21 からの検体も診断しており、市民の皆様の病気の早期発見にも努めております。

【具体的な業務内容】
腫瘍性・非腫瘍性を問わず全身の疾患を診断しており、免疫組織化学検査・分子遺伝学的検査や中央病理診断を活用し、若手医師を含むチーム体制で精度の高い報告を行っております。特に腫瘍性疾患においては骨軟部腫瘍を主とする希少がんにも対応しており、院外からも多数のコンサルテーションを受けております。また特定の分子標的薬の投与可否を決めるコンパニオン診断も当科が主体となって行っており、日々進歩する診断薬についても、常に最新の知見と技術を取り入れております。
当科はまた、がん診療における検体精度管理で中心的な役割を果たしており、治療方針決定に不可欠ながん遺伝子パネル検査（FoundationOne、GeneMineTOP、ヘムサイトなど）に提出する検体については、ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程を遵守して適切に管理しております。さらに、がん遺伝子パネル検査の結果を検討するエキスパートパネルの構成員として参加しており、検体提出から解析結果までの一連のプロセスに適切なフィードバックを行っております。
細胞診もまた、患者さんの正確な病態把握のために重要な情報になり得ると考えております。このため､病理部において細胞検査士（スクリーナー）と議論できる環境を整備しております。MedCity21 から提出される検体では細胞診による早期発見効果が最も期待される領域であり、医師・技師が一丸となり市民の皆様の健康を支えております。

【他科との連携】
特に非腫瘍性疾患においては、時に複数の診療科の関与を要する症例もあり、日頃から臨床診療科との連携を深め合同カンファレンスを行っております。このように腫瘍性・非腫瘍性に偏らず、多くの臨床診療科と連携し、医師・技師・コーディネーターとの結びつきが強いことが特徴です。

【病理解剖について】
病理解剖は院内・院外あわせて毎年 30 例前後を実施しております。剖検診断に加えて、検討会を開催しております。臨床医と討論しながら生前に行われた診断や治療が適切であったかどうかを検証し、その結果を臨床診療科にフィードバックしております。この体制により、当院の医療の質の向上と、視野の広い医師の育成に貢献しております。

主力疾患・対応できる疾患

病理診断科は、院内全診療科および院外医療機関から提出されるすべての検体を対象としています。腫瘍性疾患（悪性腫瘍・良性腫瘍）、非腫瘍性疾患（炎症性疾患･自己免疫疾患など）を問わず、あらゆる臓器･疾患の病理診断に対応します。

主な診療実績

組織診断	15,621 件
迅速診断	817 件
細胞診	17,626 件
病理解剖	院内 21 件、院外 9 件

緩和ケア内科
Palliative care internal medicine

外来受付
1階06番　化学療法センター内第3診察室
TEL(06)6645-3306
ご紹介時のお願いをご確認ください。

詳細はこちら

診療科部長、教授
かわぐち　ともや
川口　知哉



専門
肺腫瘍

スタッフ

副
講師　なかお　よしたか　**中尾　吉孝**

【専門】緩和ケア認定医

診療科の特徴

当院は厚生労働省より2009年4月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。昨今のがん診療の進歩に伴い、一人ひとりにあったがん治療、身体的・精神的・社会的にサポートできる総合的なチーム医療が求められています。そこで当院では、2022年4月に「化学療法センター」「ゲノム医療センター」「高精度放射線治療センター」「緩和ケアセンター」を統合し、がんセンターを設立しました。緩和ケア内科は、緩和ケアセンターの開設に伴い設立された、新しい診療科です。

緩和ケアチームで定期的なカンファレンスを行い、主治医や看護師とともに、患者さんやご家族の要望を確認しながら緩和ケアを提供しています。院内心不全緩和チームとも共同し、心不全に対する緩和ケアも提供しています。

教育面では、日本緩和医療学会の認定研修施設であることから、院内外のがん診療に携わる医師や医療スタッフへ向けて年2回程度緩和ケア研修会を行っています。

対象疾患

[主力疾患]
・悪性腫瘍

[対応できる疾患]
・心不全

主な診療実績

入院　283人
外来　19人

ご紹介時のお願い

・当院にがん治療で通院されている場合と通院されていない場合で予約方法が変わってまいります。
・完全予約制です。
・いかなる場合でも緩和ケア目的での救急・時間外の受診は対応できかねます。
・緩和ケア内科としての病棟はないことから、緩和ケア目的の入院にも対応できかねます。

詳細は、病院ホームページ＞がん情報＞緩和ケアよりご確認ください。

詳細はこちら

集中治療科
Department of Intensive Care Medicine

外来受付
外来は行っておりません。

詳細はこちら

診療科部長、病院教授
ふじい　ひろみち
藤井　弘通



専門
集中治療医学、心臓血管外科

スタッフ

副
えはら　しょういち
准教授　**江原　省一**
【専門】集中治療医学、循環器内科

やまもと　とものり
講師　**山本　朋納**
【専門】集中治療医学、救急医学

すえひろ　やすお
講師　**末廣　泰男**
【専門】集中治療医学、心臓血管外科

もろいし　こうすけ
助教　**諸石　耕介**
【専門】集中治療医学、麻酔科

えさき（きのした）まいこ
助教　**江﨑（木下）麻衣子**
【専門】集中治療医学、救急医学

なかだ　だいすけ
後期研究医　**中田　大介**
【専門】集中治療医学、麻酔科

診療科の特徴

集中治療科は、2022 年 4 月 1 日に誕生しました。集中治療室（ICU）と心血管集中治療室（CCU）が統合され、集中治療センター（ICU/CCU）が開設されました。集中治療科が、集中治療センターおよびハイケアユニット（HCU）を統括して管理することで、円滑な病床の運用を行っています。2025 年度より集中治療科医が 7 名となり、24 時間 365 日、集中治療センターに集中治療科医が滞在できる体制となりました。より良い治療を提供できるものと自負しております。

当科は、地域医療の先生方からの直接のご紹介は受け付けておりません。しかし、先生方から各診療科に紹介していただいた患者さんを一緒に診療させていただくことで、間接的にかかわっています。術後の患者さんが入室することが多いため外科系の診療科と密接に連携をとっています。ICU ／ CCU、HCU のベッドコントロールを円滑に行うことで、ACS（循環器内科）や脳卒中（脳神経内科）などの受入も増えてきました。また、院内患者さんの急変の対処、急変に至るまでに医療を開始する RRS(Rapid Response System) を、救命救急センターの先生と特定看護師と協力しつつ行っています。また、RST（Respiratory Support Team）を、特定看護師、臨床工学技士、リハビリテーション部と協力して構成し、病棟内の人工呼吸器患者さんの回診も開始しました。

対象疾患

[主力疾患]
Semi-closed ICU となりましたが、各診療科と協力しつつ診療を行います。
・術後（心臓血管外科、食道外科、脳神経外科など）
・急性冠症候群（ACS ホットライン）、心不全
・脳卒中（ホットライン）
・急性ショック状態、急性呼吸不全、急性腎不全などの急性に状態が悪化した病態

[対応できる疾患]
・院内患者さんで集中治療が必要な状態（COVID-19 も含む）

主な診療実績

集中治療センター入室数
2022 年（4 月－ 12 月）　634 例
2023 年（1 月－ 12 月）　874 例
2024 年（1 月－ 12 月）　928 例
2025 年（1 月－ 12 月）　960 例

MEMO

中央部門紹介

中央臨床検査部（臨床検査科）
Department of Clinical Laboratory

詳細はこちら

部長
なかまえ　みか
中前　美佳



専門
臨床検査、検査血液学、造血細胞移植、臨床研究、医療情報

スタッフ

いど　けんたろう
副部長　**井戸　健太郎**
【専門】 血液内科、造血幹細胞移植、臨床検査

あぼう　こうじ
保健主幹　**安保　浩二**
【専門】 臨床検査、生理検査

業務内容・特徴

中央臨床検査部は 2017 年 8 月に認定番号 RML01350 として ISO15189 認定を受け国際的な品質マネジメントシステムにより検査を行っております。検体検査は医師のオーダー情報に基づき、自動バーコード貼付装置で検査容器にバーコードラベルを添付し、採血時には 3 点照合を行うことにより検体誤認を防止しています。また臨床検査システムと搬送ラインを組み合わせることで業務の効率化と省力化を推進しています。

質の高い検査を行うために学会発表や研修会参加等を活発に行い、専門分野の認定資格を積極的に取得することに努めています。

迅速かつ正確な検査成績を診療側に提供することを理念とし、以下の検査を行っています。

採血業務、血液検査、生化学、免疫検査、遺伝子検査、一般検査、生理機能検査（心電図、呼吸機能検査、血圧脈波、脳波、筋電図検査、各種超音波検査等）、外部委託検査、麻酔科検査（術中・術後における血球計数・血液ガス分析等）、耳鼻科検査（平衡機能検査等）、治験・臨床研究支援

主な検査機器・設備

・臨床検査システム　・採血業務支援システム
・検体搬送システム　・多項目自動血球分析装置
・血液凝固自動分析装置　・遺伝子分析装置　・血液ガス分析装置
・血小板凝集能測定装置　・フローサイトメトリー
・ディスクリート方式臨床化学自動分析装置　・全自動糖分析装置
・グリコヘモグロビン分析装置　・全自動免疫測定装置
・電気泳動装置　・全自動尿分析装置　・自動尿中有形成分
・心電計、ホルター心電図装置、運動負荷心電図装置、ABI ／ CAVI 装置
・呼吸機能測定装置 、脳波計、筋電図　誘発電位測定装置、睡眠検査記録装置
・超音波診断装置（ 心エコー、腹部・体表エコー、血管エコー等）

中央放射線部
Department of Radiology

詳細はこちら

部長
しぶや　けいこ
澁谷　景子



専門
放射線治療

スタッフ

やまもと　あきら
副部長　**山本　晃**
【専門】 画像診断、IVR

うつのみや　あかね
保健主幹　**宇都宮　あかね**

いちだ　たかお
保健副主幹　**市田　隆雄**

やまだ　えいじ
保健副主幹　**山田　英司**

さはら　ともひろ
保健副主幹　**佐原　朋広**

たかお　よしのり
保健副主幹　**高尾　由範**

業務内容・特徴

中央放射線部は、一般撮影検査、透視検査、CT 検査、MRI 検査、核医学検査・PET/CT 検査等の画像診断に関連する業務、画像下治療（血管撮影・IVR、内視鏡治療）に代表される低侵襲治療の支援に関連する業務、放射線治療に関連する業務、予防医療に関連する業務（検診・健診）を担います。また、大学病院が提供する高度専門医療・がん診療を支え、外来診療だけでなく病棟や手術室、救命救急センター等での放射線診療等にも 24 時間体制で対応します。

各種検査・治療支援は、専門知識を備えたスタッフが担当することに加え、患者さんに安全で安心な放射線診療を提供する取り組みとして診断参考レベル（DRL）を導入し、適切な（最小限の）放射線量での検査・治療を実践しています。

画 像 診 断：最新装置で精細な画像を提供しています。
低侵襲治療：先進的な画像下治療（IVR）を適切に支援しています。
放射線治療：定位放射線治療や強度変調放射線治療に力を入れており、2022 年には「MR リニアック」を導入しました。
予防医療（MedCity21、あべのハルカス 21 階）：大学病院の技術を検診・健診に適用しています。

主な検査機器・設備

・CT 装置（一部は救急・放射線治療専用）　・MRI 装置
・血管撮影装置　・MR リニアック　・リニアック
・腔内照射装置　・PET/CT 装置　・SPECT/CT 装置
・SPECT 装置　・一般撮影装置　・移動型 X 線撮影装置
・マンモグラフィ装置　・骨塩定量装置　・歯科用パノラマ
・断層撮影装置　・X 線透視装置

病理部
Diagnostic Pathology

詳細はこちら

部長
こうはし　けんいち
孝橋　賢一



専門
病理全般

スタッフ

副部長　おくの　たかひろ　**奥野　高裕**
【専門】 病理全般

講師　しおはら　まさのり　**塩原　正規**
【専門】 病理全般

保健副主幹　しおみ　かずひこ　**塩見　和彦**
【専門】 病理全般

主査　あんどう　かなえ　**安藤　加奈江**
【専門】 病理全般

業務内容・特徴

1. 病理診断：手術または内視鏡学的検査等によって採取された材料から顕微鏡標本作製を行い、病理組織診断を行っています。必要に応じて特殊染色・酵素抗体法・蛍光抗体法・電子顕微鏡による詳細な検討も行います。
2. 術中診断：手術中に腫瘍の進行度、悪性度や切除断端への腫瘍浸潤の有無などの判断を行うため、凍結組織標本および迅速細胞診により診断を行っています。
3. 細胞診検査：婦人科細胞診、胸腹水などの体腔液、喀痰、尿およびその他の穿刺材料について形態学的な観点から悪性度の有無を判定します。また、液状化細胞診導入し、精度向上に向けて努力しています。
4. 病理解剖：生前の診断、治療効果の評価や死因を明らかにするために行われます。解剖症例は多数の医師の参加のもとに臨床病理検討会で検討され、生前の診断と治療が検証されます。病理解剖症例数が多い病院ほど医療の質は良くなります。
5. がんゲノム関連検査対応：癌治療のためのコンパニオン診断薬による検査、遺伝子パネル検査等に対応しており、専門病理医による腫瘍含有率の判定を実施しています。

主な検査機器・設備

全自動免疫染色装置、バーコード読み取り式スライドガラス印字装置包埋カセット印字装置、蛍光顕微鏡装置自動染色装置・自動封入機、液状化細胞診検体処理装置、バーチャルスライドシステム等、バーコードによるシステム管理を行い、各工程での照合間違いを起こさない安全性に配慮した検査機器を導入しています。

中央手術部
Department of Central Surgical Room

詳細はこちら

部長
もとむら　ひさし
元村　尚嗣



専門
形成外科

スタッフ

副部長　まつうら　ただし　**松浦　正**
【専門】 麻酔科

保健副主幹　さだ　りょうじ　**定　亮志**
【専門】 手術部管理 専門手術臨床工学技士

主査　こいで　なおき　**小出　直樹**
【専門】 臨床工学技士

業務内容・特徴

手術室は 19 室で運営しております。2025 年度の手術実績は 9,446 件（麻酔科管理症例 6,683 件）でした。近年、急増する手術件数と多様に進化していく手術に対応するため、以下の取り組みを行っております。

1. 多職種連携：手術室清潔環境の維持、手術器械の洗浄滅菌から準備・使用までのトレーサビリティ、薬剤管理、医療機器･診療材料の整備、迅速な術中検査やレントゲン撮影、医療安全管理など、多職種が連携して手術環境を整えています。
2. 人材育成と教育：医師、看護師、臨床工学技士、その他のメディカルスタッフや学生に対する教育とフィードバックを通じて、多様な診療科における高度な手術技術の習得を支援しています。
3. 円滑な手術室運営：術後回復室及び手術室の効率的な運用を実現し、緊急手術を含む全ての手術で患者さんの待ち時間を最小限に抑えるよう努めています。

これらの取り組みにより、患者さんが安心して手術を受けられる環境を整えております。今後とも、高度な医療サービスの提供を目指し、スタッフ一丸となってさらなる努力を続けてまいります。

主な検査機器・設備

・ハイブリッド手術室	1 室	・4K3D 鏡視下手術装置	4 台
・手術支援ロボット	3 台	・4K3D 手術用顕微鏡システム	1 台
・術中 CT 撮影装置	1 台	・術中ナビゲーションシステム	3 台

救命救急センター
Trauma and Critical Care Center

詳細はこちら

センター長
にしむら　てつろう
西村　哲郎



専門
救急医学、重症熱傷など

スタッフ

うちだ　けんいちろう
副センター長　**内田　健一郎**
【専門】 救急医学、重症熱傷など

みやした　まさひろ
講師　**宮下　昌大**
【専門】 救急医学、整形外科学など

業務内容・特徴

大阪公立大学医学部附属病院における救急診療部門は、1993 年病院竣工時に中央診療部門として開設された救急部に端を発します。開設当初から大阪府における三次救急医療施設として重篤な救急患者さんの診療の一翼を担ってきましたが、2010 年 4 月には施設改修を行い、救命救急センターとしての認可を受けました。院内各診療科との協力体制のもと、大阪市内で唯一の大学附属病院救命救急センターとして、地域の救急医療に貢献しています。

救命救急センターのスタッフは、救急医学会指導医や救急科専門医を中心に構成されています。それぞれが、救急医として必要な初期診療、手術、重症患者管理の能力を身につけ、24 時間体制で高度な救命医療を提供しています。また、院内の他診療科･部門とも緊密な連携を図り、大学病院における救急部門として常に高度な医療を行える体制を構築しています。

尚、救命救急センターへの受診は、救急隊からの搬送や他の医療機関からの転院に限定しており、患者さん自身からの受診依頼には対応していませんのでご了承ください。

主な診療実績

救急搬送件数 842 件
（外傷 136 件、疾病 229 件、熱傷 22 件、心停止 219 件、それ以外 38 件、不明 198 件）

集中治療センター（ICU/CCU）
Intensive Care Center（ICU/CCU）

詳細はこちら

センター長
ふじい　ひろみち
藤井　弘通



専門
集中治療、心臓血管外科

スタッフ

えはら　しょういち
副部長　**江原　省一**
【専門】 集中治療、循環器内科

やまもと　とものり
講師　**山本　朋納**
【専門】 集中治療、救急医学

すえひろ　やすお
講師　**末廣　泰男**
【専門】 集中治療、心臓血管外科

業務内容・特徴

集中治療センター（ICU/CCU）は、集中治療室（ICU）と心血管集中治療室（CCU）を統合して、一つのユニットとして 2022 年 4 月 1 日より運用されました。院内で集中治療管理が必要となった患者さんに入室していただくユニットです。更に、2025 年 4 月からは集中治療科の医師が 7 人となりました。同時に、集中治療科の医師が 24 時間滞在することになりました。毎朝、集中治療科、循環器内科と各診療科の医師、看護師、臨床工学技師、栄養士、理学療法士、薬剤師の多職種でカンファレンスを行っています。集中治療センター入室中のみならず、退室後の患者さんの生活を見据えた診療を行います。地域医療を担っている先生方からの直接の紹介は受け付けておりませんが、患者さんの状態によって、紹介いただいた診療科からの依頼で入室していただくことがあります。現在 10 床で運用中ですが、必要に応じて 16 床まで増床する予定です。

主な診療実績

集中治療センター入室数
2022 年（4 月－ 12 月）　634 例
2023 年（1 月－ 12 月）　874 例
2024 年（1 月－ 12 月）　928 例
2025 年（1 月－ 12 月）　960 例

リハビリテーション部
Rehabilitation Department

詳細はこちら

部長
てらい　ひでとみ
寺井　秀富



専門
脊椎脊髄外科、脊柱変形、側弯症

スタッフ

いけぶち　みつひこ
副部長　**池渕　充彦**
【専門】人工関節、リハビリテーション一般

かとう　りょういち
保健副主幹 **加藤　良一**
【専門】理学療法士

きのう　まさし
主査　**喜納　政史**
【専門】理学療法士

ふじもと　よりこ
主査　**藤本　依子**
【専門】言語聴覚士

業務内容・特徴

リハビリテーション科専門医の診察に基づいて個々の患者さんの障害に応じた治療プログラムを作成し理学療法や作業療法、摂食･嚥下療法、言語療法、聴覚検査各種を行っています。

理学療法では座位・立位・移動などの日常生活に必要な基本的動作能力の改善をはかっています。作業療法では日常生活を送るのに必要な応用的動作能力の獲得を目指しています。摂食・嚥下療法では食べるという咀嚼嚥下機能の回復を促しています。また、耳鼻咽喉科外来にて小児言語発達遅滞や構音障害に対して、評価・助言指導、言語訓練を行い言語発達、学習面などをサポートしています。

当科は脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション（Ⅰ）､運動器リハビリテーション（Ⅰ）､呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）、心大血管リハビリテーション（Ⅰ）、がんのリハビリテーションの施設基準承認を受けており、脳および脊髄の中枢神経疾患、神経筋疾患、四肢や脊椎などの骨関節疾患、各種の呼吸器疾患や胸部外科手術に伴う呼吸障害、心疾患に加えて、救急医療や集中治療を要する重症患者さん、血液内科移植患者さんなど大学病院特有の特殊な疾患の急性期リハビリテーションを実施しています。

取り組み

部内勉強会や OJT、各種研修会、学会参加を通じて専門性の向上に努めるとともに、段階的な能力評価を行い、スタッフの成長を促す体制づくりに尽力いたします。

チーム医療へ積極的に参画し、専門性を活かした連携を通じて、質の高い医療の提供に貢献してまいります。

内視鏡センター
Endoscopy Center

詳細はこちら

センター長
ふじわら　やすひろ
藤原　靖弘



専門
上部消化管

スタッフ

ふくなが　しゅうせい
副センター長 **福永　周生**
【専門】上・下部消化管腫瘍（内視鏡治療）

業務内容・特徴

上部・下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、小腸カプセル内視鏡・バルーン内視鏡、気管支鏡を用いた診療を行っています。上部・下部消化管、胆膵領域、小腸領域、呼吸器領域において、腫瘍性病変、炎症性腸疾患をはじめとする多様な疾患に対し、診断から治療まで一貫した内視鏡診療を提供しており、特定機能病院として高度かつ専門的な医療を担っています。とりわけ、食道・胃・大腸の早期がんに対する内視鏡的切除術、消化管狭窄に対する拡張術、超音波内視鏡を用いた穿刺診断、内視鏡的逆行性膵胆管造影やインターベンショナルな胆膵内視鏡治療は年々増加しており、高度内視鏡治療の中核を担っています。また、通院中救急患者さんの積極的な受け入れにより、消化管出血に対する内視鏡的止血術にも迅速に対応しています。診療体制としては、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科より、臓器別・専門領域ごとに複数の医師が、院内外からの紹介患者さんに対して質の高い医療を提供しています。さらに、専属の看護師、臨床工学技士、診療放射線技師と連携したチーム医療により、安全で効率的な内視鏡診療体制を構築しています。2024 年 9 月には 2 度目の全面改装を実施し、最新設備の導入のみならず、鎮静下内視鏡検査や X 線透視併用内視鏡検査の増加に対応するため、リカバリールームおよび透視内視鏡ブースの拡張・増設を行い、患者さんの安全性と快適性のさらなる向上を図っています。

主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	5980 件	ESD・上部 EMR	427 件
胃食道静脈瘤治療	97 件	イレウス管･消化管ステント留置術	73 件
ERCP・EST	550 件	下部消化管内視鏡検査	2240 件
小腸バルーン内視鏡検査	230 件	小腸・大腸カプセル内視鏡検査	47 件
EUS・FNA	850 件	上部・下部バルーン拡張術	264 件
大腸ポリペクトミー・EMR	535 件	POEM（内視鏡的筋層切開術）	69 件
内視鏡的止血術	132 件	内視鏡的逆流防止粘膜切除術	5 件
気管支鏡	605 件		

人工じん部
Department of Artificial Kidney

詳細はこちら

部長
うちだ　じゅんじ
内田　潤次



専門
腎移植、泌尿器腫瘍、一般泌尿器

スタッフ

ながぬま　としひで
副部長　**長沼　俊秀**
【専門】 血液浄化療法、バスキュラーアクセス、アフェレシス療法

業務内容・特徴

腎不全患者に対する血液透析・オンライン血液濾過・血液濾過透析療法を中心に、腹膜透析療法の導入・管理、種々の疾患に対するアフェレシス治療業務を行っています。

膠原病および神経疾患に対する血漿交換療法・選択的血漿交換療法（SePE）・免疫吸着療法・DFPP 療法など高度な体外循環療法を行っており、皮膚科疾患や潰瘍性大腸炎およびクローン病に対する血球除去療法なども積極的に行っています。SePE 療法では IgG を中心にした病因物質を除去することが可能で人血漿の使用量を減少させることのできる低侵襲な治療法であり積極的に行っております。最近は、心臓血管外科手術を受けられる血液透析患者が増加してきており、その術前後の不安定な時期の血液透析治療を如何に安全に行うかということを目標にして、循環動態を安定させるために積極的にオンライン血液濾過透析療法を施行しています。

生体腎移植については夫婦間での移植数の増加に伴い血液型不適合腎移植症例が増加しています。人工腎部では DFPP 療法･血漿交換療法（遠心分離血漿交換も含む）・SePE 療法を用いて治療を行うことで、積極的に血液型不適合腎移植をサポートしています。また、適切な治療を提供することに努めております。

主な診療実績

内シャント作製術	64 件	CAPD チューブ挿入術	4 件
経皮的血管拡張術	144 件	CAPD チューブ抜去	5 件
人工血管植え込み術	4 件	手根管開放術	0 件
人工血管抜去術	1 件	ばね指根治術	0 件
シャント瘤	0 件	動脈表在化	1 件
内シャント閉鎖	3 件	ステントグラフト	4 件
副甲状腺摘出術	0 件	カフ型カテーテル	5 件

輸血部
Department of Transfusion Medicine

詳細はこちら

部長
うちだ　さわこ
打田　佐和子



専門
内科学、肝胆膵疾患、輸血学

スタッフ

なかいえ　きよたか
保健副主幹 **中家　清隆**
【専門】 輸血部管理業務

かわはら　ひろえ
主査　**川原　宏恵**
【専門】 輸血専任技師、輸血部管理業務

業務内容・特徴

輸血療法を必要とされる患者さんに対して安全な血液製剤を迅速に供給するため、輸血関連検査、輸血用血液製剤とアルブミン製剤管理業務および移植医療補助業務を行っています。また、自己血採血補助業務および管理業務を行っています。その他、細胞治療薬管理業務や輸血後のフォローのため、輸血副作用管理および製剤の使用記録保管を行っています。血液型および不規則抗体検査は全自動輸血検査装置を用いて迅速で正確な結果報告を行っています。血液型検査においては、亜型検査の精度を高めるため遺伝子検査を導入しています。また､特殊検査として､HLA 抗体検査、血小板抗体検査を行っています。

大学病院輸血部として、研究・教育の面でも大きな役割を担っています。当院医学部生、研修医教育はもちろん、他施設の臨床検査技師養成学校および大学の学生に対しての教育施設となっています。また、日本輸血・細胞治療学会の輸血認定医、認定輸血検査技師および学会認定輸血看護師についての研修認定施設となっており、毎年、全国の受験希望者の研修を受け入れ、今後の輸血医療を担う医療者の教育に貢献しています。

＜年間製剤件数＞
赤血球製剤：14929 単位、血小板製剤：28745 単位、新鮮凍結血漿：9135 単位、5%アルブミン：49225 グラム、20% アルブミン：58430 グラム

＜年間検査件数＞
血液型検査：17024 件、不規則抗体検査：16591 件、交差適合試験：6755 件、HLA タイピング検査：292 件、HLA 抗体検査：544 件

医療情報部
Department of Medical Information

詳細はこちら

部長
まえだ　きよし
前田　清



専門
消化器外科学

業務内容・特徴

当院では、病院情報システムによる診療科及び中央部門の情報化、ネットワーク化を通じて、患者さんの診療情報を医師・看護師等の医療従事者が共有することにより、高度医療、先進医療を行っています。

医療情報部は、病院情報システムや診療記録の管理に関する中心的な役割を担っています。医療情報部長の下に事務組織である医療情報課を配置し、情報システム担当は病院情報システムの企画、運用管理、保守管理、研究支援を担当しています。

診療情報管理担当は、診療記録の適正な取り扱いという視点から業務を行っており、診療情報管理士によるカルテ・退院時サマリーの点検、がん登録、カルテ開示対応、電子署名・タイムスタンプを導入した紙文書のスキャンニング、データ分析を担当しています。

スタッフ

副部長	おかむら　ひろし **岡村　浩史**
准教授	なかまえ　みか **中前　美佳**
講師	なかこ　そういちろう **仲子　聡一郎**
病院講師	なかや　ようすけ **中舎　洋輔**

取り組み

当院は 2007 年から電子カルテを導入しており、この蓄積データの活用は、大学病院の使命である臨床、研究、医学教育並びに病院運営の意思決定において非常に重要です。近年では地域医療の充実のために関連病院への電子カルテ公開等の情報利活用も推進しています。

一方で医療を取り巻く情勢変化、IoT や AI の実用化、サイバー攻撃の巧妙化が急激に進んでおり、このような環境下でデータ活用を推進するためには、臨床と情報処理技術の理解、社会環境変化への対応、個人情報保護や情報セキュリティ管理の視点、D X の視点が重要となります。

そのため、医療分野と情報分野の橋渡しができる人材を育成し、データ活用や調整力の発揮により、医療の安全性・効率性・患者満足度の向上および地域医療や社会への貢献を実現する取り組みを、医療情報部一丸となって推進してまいります。

DX 推進センター
Digital Transformation Center

センター長
まえだ　きよし
前田　清



専門
消化器外科学

業務内容・特徴

医療を取り巻く環境は、労働人口の減少や高齢化の進行、医療ニーズの多様化など、大きな転換期を迎えています。こうした課題に対応する有効な手段として、医療分野における DX（デジタルトランスフォーメーション）の重要性は、年々高まっています。

2024 年 10 月に DX 推進センターを設置し、新常識を創造し患者満足と病院の魅力を未来につなぐ DX を目指して、各部門との対話を重ねながら、患者さんの声や業務データをもとにニーズや課題を分析し、業務プロセスの見直しや改善を継続的に実施しています。これにより、業務負担の軽減や情報共有の円滑化といった具体的な成果が少しずつ現れ、医療の質と患者満足度の向上に寄与しています。

日々進化するデジタル技術を柔軟に取り入れつつ、現場に根ざした DX を追求することが私たちの姿勢です。今後も患者さんの視点を大切にしながら、安全で質の高い高度医療提供を支える基盤として、より成熟した「デジタルヘルスホスピタル」の実現に取り組んでまいります。

スタッフ

副センター長	おかむら　ひろし **岡村　浩史**

薬剤部
Department of Pharmacy

詳細はこちら

病院長補佐、部長
なかむら　やすたか
中村　安孝



専門
薬剤業務全般

スタッフ

副部長　すだ　やすき　**須田　泰記**
【専門】 薬剤業務全般、教育・医薬品安全管理

副部長　かわぐち　ひろし　**川口　博資**
【専門】 薬剤業務全般、病棟業務・入退院支援業務

副部長　もとばやし　ゆき　**元林　有紀**
【専門】 薬剤業務全般、庶務・連絡調整、中央業務

業務内容・特徴

薬剤部では、医薬品の専門家として診療科・看護部門・中央部門等と連携をとり、医療チームの一員として薬物治療ならびに医療安全に貢献しています。

【病棟業務】全病棟に病棟専任薬剤師を配置し、入院患者さんへの薬剤管理指導業務に加え、持参薬の鑑別、内服・注射処方に対しても、検査データなどを利用し、処方チェックの精度を向上させ、医師へ処方提案や情報提供を行い、医薬品適正使用を推進しています。

【中央手術部サテライト薬局】専任薬剤師が常駐し、手術に使用する医薬品の供給･管理を行い、ハイリスク医薬品の適正管理を行っています。

【がん化学療法】薬剤師は、投与量、投与間隔、投与方法から配合変化や吐き気止め薬の選択等についてチェックを行っています。内服抗がん剤の服用を開始される患者さんへの服薬支援により、安全で適正な抗がん剤治療に貢献しています。

【医薬品安全使用】医療の質・安全管理部の専任安全管理者（薬剤師）と連携し、院内の医薬品関連のインシデント防止への取り組みを行うことで、医療安全に貢献しています。

取り組み

部内において、症例検討会や各種研修会を開催し、自己研鑽ができる機会を設けています。さらに、各々の薬剤師が積極的に研修会、学会等に参加することによりスキルアップを図り、専門薬剤師等の資格取得を目指して、医療チームの一員として専門性を高める努力を行っています。

看護部
Nursing Department

詳細はこちら

副院長、部長
なんじょう　ゆみ
南條　幸美



専門
看護部門統括

スタッフ

副部長　なか　まりこ　**中　麻里子**
副部長　せわき　じゅんこ　**瀬脇　純子**
副部長　えんどう　ひろこ　**遠藤　弘子**
副部長　つじの　みゆき　**辻野　美由紀**
副部長　こうの　けいこ　**河野　桂子**
副部長　よしもと　ちづる　**吉本　千鶴**
副部長　いまざき　ゆきこ　**今﨑　由起子**

業務内容・特徴

看護部では、大阪公立大学医学部附属病院の理念に基づき「患者さんの生命と個別性を尊重し、看護実践能力の向上に努め、質の高い看護を提供します」と看護理念を掲げています。臨床の現場で、患者さんや家族の意思を尊重したチーム医療を推進し、安全で質の高い医療の提供に尽力しています。地域連携を強化し、切れ目のない医療サービスが提供できるよう、患者総合支援センターの更なる充実に取り組んで参ります。

現在、3 領域の専門看護師、14 領域の認定看護師、14 区分 27 行為の特定行為看護師が在籍し、それぞれの領域で実践を行っています。「看護外来」では、患者さんや家族に対して、病状・治療方針について適切な情報提供を行い、心理状態に配慮したケアを行うことで意思決定を支援しています。クリティカルケア領域では、疾病や外傷、侵襲の大きな手術をうける患者さんの回復を促進するためにの看護の提供や家族支援などを実践しています。

また、「看護師の特定行為に係る指定研修機関」として他施設からの研修生も受け入れています。

取り組み

豊富な知識、確かな技術と科学的思考、そして高い倫理性をもち看護が提供できるように、専門・認定看護師などを活用した教育体制を充実させています。また、フィジカルアセスメント能力向上にむけた、シミュレーション学習に力を入れ、さらに、特定行為看護師を養成し、実践能力の強化を図っています。

栄養部
Department of Nutrition

詳細はこちら

部長
えもと　まさのり
繪本　正憲



専門
代謝内分泌・腎臓病態内科学　教授

スタッフ

ふじもと　ひろき
保健副主幹 **藤本　浩毅**
【専門】 管理栄養士

いしぐろ　かよこ
主査 **石黒　佳代子**
【専門】 管理栄養士

業務内容・特徴

【入院患者食事管理業務】安全・安心をモットーとし、適正な衛生管理のもと、入院患者さんの QOL（生活の質）向上に貢献するとともに、治療に寄与できる質の高い食事を提供することを目指し、真心を込めて美味しい食の提供に努めています。
【栄養食事指導業務】糖尿病（1･2 型糖尿病、糖尿病腎症、妊娠糖尿病等）、腎臓病（腎炎、腎不全、透析等）、肥満、肝臓病（肝不全、脂肪肝、肝炎等）、膵臓病、心臓病、高血圧症、消化管術後、炎症性腸疾患、先天性代謝異常、食物アレルギー、低栄養、摂食嚥下障害、がん等、様々な疾患の個人栄養食事指導を実施しています。集団指導としては、糖尿病教室、心臓リハビリ減塩教室、母親教室を開催しています。
【栄養管理業務】入院時および定期的に栄養評価を実施し、必要に応じた食事・栄養管理を提供するよう努めています。また、医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士等と、管理栄養士による栄養サポートチーム（NST）を設置し、週に一度カンファレンスを行い、より適切な栄養管理、食事提供、栄養補給が出来るよう活動しています。

取り組み

NST、緩和ケア、褥瘡、摂食嚥下支援等のチーム医療に参加し、多職種との連携のもと、治療に即応できる体制作りに努めています。また、治験や臨床研究、各種学会に参加し、管理栄養士の資格以外にも様々なライセンスを取得し、栄養学の進歩にたゆまぬ努力を続け、地域住民の信頼を得らえるスペシャリストの育成に努めています。

医療機器部
Department of Medical Device

詳細はこちら

部長
まえだ　きよし
前田　清



専門
消化器外科　教授

スタッフ

いちのせ　つとむ
副部長 **一ノ瀬　努**
【専門】 脳神経外科　准教授

まつお　みつのり
保健主幹 **松尾　光則**
【専門】 臨床工学技士　統括

ひらいし　ゆうこ
主査 **平石　遊子**
【専門】 臨床工学技士

きたむら　こういち
主査 **北村　孝一**
【専門】 臨床工学技士

はなおか　あこ
主査 **花岡　吾子**
【専門】 臨床工学技士

こいで　なおき
主査 **小出　直樹**
【専門】 臨床工学技士

業務内容・特徴

ME センターでは、830 機種、8,400 台以上の医療機器を中央管理しています。ここでは機器の更新計画、並びに購入から廃棄に至るまでのライフサイクルに関わり、円滑かつ効率的な機器運用を図っています。
診療材料室では常に安全で適切な器材・診療材料を各部署に提供できるように管理調整を行っています。
中央手術部で使用される全ての医療機器が臨床工学技士により管理されており、術中の医療機器のトラブルについても迅速に対応しております。また、医療機器導入の過程に臨床工学技士が関わり、医師、看護師の意見を集約し、運用面、安全面を考慮した最適な医療機器整備を図っています。
医療の質・安全管理部と連携して、医療機器や診療材料物品に関連する安全対策に取り組んでおります。
医療従事者の方に医療機器に対する理解と知識を深めて頂くことを目的として、年間 100 回以上の病院スタッフ向け勉強会を開催しています。
緊急手術や医療機器トラブルに対応するため、全日宿直体制を実施しています。
臨床工学技士は、不整脈治療・透析治療・カテーテル手術・末梢血幹細胞採取・集中治療・内視鏡検査治療など、幅広い業務支援を実施しています。

主な検査機器・設備

滅菌関連装置（オートクレーブ 8 台・プラズマ滅菌器 4 台・EOG 滅菌器 2 台・ＲＯ純水製造装置 2 台・システム乾燥器 4 台・減圧沸騰式洗浄器 2 台・カート洗浄消毒装置 1 台・ウォッシャーディスインフェクター 7 台）ＭＥセンター（人工呼吸器・除細動装置・血液浄化装置・輸注ポンプ・フットポンプ・吸引装置など）

臨床研究・イノベーション推進センター
Center for Clinical Research and Innovation：CCRI

詳細はこちら

センター長
ふじわら　やすひろ
藤原　靖弘
専門
消化器内科学　教授



スタッフ

分野長　しんたに　あゆみ　**新谷　歩**
【専門】 医療統計学 教授

分野長　たなか　だいすけ　**田中　大祐**
【専門】 健康・医療イノベーション学 教授

部門長　たていし　ちはる　**立石　千晴**
【専門】 健康・医療イノベーション学 准教授

部門長　よしだ　ひさこ　**吉田　寿子**
【専門】 医療統計学 准教授

保健副主幹　しのだ　よしかつ　**信田　佳克**
【専門】 薬剤師

業務内容・特徴

臨床研究分野は、システム開発部門、データサイエンス部門から構成されます。米国ヴァンダービルド大学と学外提供についてライセンス契約を結び、世界医学アカデミアで標準とされている電子データ集積システム REDCap を、これまでに全国の 50 を超える施設、100 以上のプロジェクトに提供しています。REDCap を用い、統計専門家を含む臨床研究の専門家が研究計画立案から終了まで、学内外の医師主導治験及び特定臨床研究も広く支援しています。

イノベーション創出分野は、治験実施管理部門、イノベーション創出部門から構成されます。

治験実施管理部門は、医薬品・医療機器等の治験を円滑かつ適切に実施するためのサポート体制を提供し、すべての診療科で治験の実施が可能です。イノベーション創出部門は、医療の未来を切り拓くため、臨床研究の適切な実施支援体制の構築を目指すとともに、医療技術の早期実用化を推進します。また、学内の優れた研究シーズを企業の開発力へと繋ぐ「産学連携のハブ」として、企画立案から薬事相談、研究費の獲得まで幅広く並走します。さらに、規制・指針等に準拠した研究計画書や同意説明文書等の作成支援など、臨床研究の実施に必要な実務面でも深く寄り添い、研究成果を速やかに社会へ還元することを目指します。

取り組み

本センターは大阪公立大学医学部附属病院の使命として実施する臨床研究の適正性をより一層確保し、研究の推進を積極的に支援するとともに、産学の連携を推進することにより、わが国の医療の発展に寄与し、地域医療の中核としての役割を果たします。また、次世代の臨床研究・イノベーション創出を支える優秀な人材の育成を通して広く社会に貢献します。

先端予防医療部（附属クリニック MedCity21）
MedCity21, Division of Premier Preventive Medicine

詳細はこちら

部長、教授
わたなべ　としお
渡邉　俊雄
専門
消化器内科



スタッフ

副部長　ふくもと　しんや　**福本　真也**
【専門】 糖尿病・代謝内分泌疾患、腎臓病全般

准教授　きむら　たつお　**木村　達郎**
【専門】 呼吸器内科全般、臨床腫瘍学

講師　なかの　あけみ　**中野　朱美**
【専門】 周産期・婦人科全般

講師　なだたに　ゆうじ　**灘谷　祐二**
【専門】 内視鏡、消化管全般

病院講師　たうち　ゆきえ　**田内　幸枝**
【専門】 乳腺外科全般

病院講師　いけなが　ひろこ　**池永　寛子**
【専門】 肝疾患全般

業務内容・特徴

MedCity21 は、大学病院の高い専門性を活かし、がんや生活習慣病などの早期発見・早期治療を目指して、人間ドックを主体とした健診事業を展開しています。健診部門では、基本の 6 つのコースに加えて、専門ドックやオプション検査を提供し、幅広いニーズに応えています。また、レディースクリニックや各種専門外来も併設し、先進医療を提供しています。

各分野の常勤専門医 7 名と医学部附属病院の医師が在籍し、健診（検診）の診察・検査、総合判定、レディースクリニックや専門外来の診療を行います。附属病院と電子カルテを共有することで、専門的な検査や治療が必要な場合に迅速に対応することができます。

地域での医療を希望される健診受診者や、附属病院での専門的検査・治療を終了した患者さんには、地域医療機関への紹介と連携を図るなど、地域健康ネットワークを活用して健康増進、健康寿命延伸に貢献しています。

さらに、健診受診者の同意のもと、健診データや生体試料を蓄積するバイオリポジトリを構築し解析を行い、疾病の新たな予測因子や予防因子に関する情報を提供しています。

年間受診者数

人間ドック・各種健診受診者数	15151 名
上部消化管内視鏡検査（健診）	7867 名
上部消化管内視鏡検査（外来）	34 名

患者総合支援センター
Patient Advocacy Center

詳細はこちら

センター長
すなみ　きしこ
角南　貴司子



専門
耳鼻咽喉病態学・頭頸部外科学

スタッフ

つじの　みゆき
副センター長 **辻野　美由紀**
【専門】 看護師

やまもと　ちえ
師長 **山本　千恵**
【専門】 看護師

業務内容・特徴

当院では、地域医療連携を推進し、患者さんの療養生活の支援を円滑にすすめるために、2011 年に当センターを設置しました。

地域医療連携では、診療予約サービスや退院支援などの取り組みを充実し、着実に成果を上げています。

当院と地域医療機関等との情報や意見交換の場として、「医療連携 Face-to-Face の会」を年３回開催しています。

当院の医師が先進医療の現状を症例呈示やトピックスとして紹介し、顔の見える形でお伝えしています。

病気や障害を抱えたとき、患者さんやご家族は不安や悩みをお持ちになられると思います。患者さんの療養生活の支援のひとつとして、患者さんやご家族の治療や生活の不安などの心配ごとを伺い、少しでも解消できるよう当センターの相談員が、解決のお手伝いをさせていただいています。

主な政策事業との携わり

地域がん診療連携拠点病院
大阪府難病診療連携拠点病院
大阪府肝疾患診療連携拠点病院
造血幹細胞移植推進拠点病院
大阪市認知症疾患医療センター
大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関
エキスパートパネル実施可能がんゲノム医療連携病院
仕事と治療の両立支援、就労支援

国際診療支援センター
International Medical Support Center

詳細はこちら

センター長
すなみ　きしこ
角南　貴司子



専門
耳鼻咽喉病態学・頭頸部外科学

スタッフ

つじの　みゆき
副センター長 **辻野　美由紀**
【専門】 看護師

やまもと　ちえ
師長 **山本　千恵**
【専門】 看護師

業務内容・特徴

当院では、在住･訪日･医療渡航を問わず、全ての外国人患者さんが安心･安全に日本の医療を受けられる体制を整備するため、2021 年に国際診療支援センターを設置しました。

当センターでは、多様な背景を持つ外国人患者さんに対応するため、院内および院外の受診調整を担うコーディネーター業務、通訳ツールの整備、院内表示や診察時に必要となる医療文書等の多言語対応などを行い、言語や文化の壁を感じることなく円滑に診療を受けられる環境づくりを進めています。

また、センター長は医師（副院長）、副センター長は看護師（副部長）が兼任しており、事務職や医療ソーシャルワーカー（MSW）など多職種が協働し、患者さん一人ひとりに寄り添うことで、国際診療における支援体制のさらなる充実に取り組んでいます。

取り組み

2021 年１月　外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) 認証
2022 年４月　大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関 認可
2024 年１月　外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) 更新認証
※認証期間：2024 年１月 25 日～2027 年１月 24 日



卒後臨床研修センター

Post graduate medical training center

詳細はこちら

センター長

しゅとう　たいち
首藤　太一



専門

総合診療科教授
全体総括　プログラム責任者

スタッフ

教授	すみ　としゆき **角　俊幸**（プログラム副責任者）
教授	かけや　ひろし **掛屋　弘**（プログラム副責任者）
教授	もとむら　ひさし **元村　尚嗣**（プログラム副責任者）
教授	かねこ　ゆきひろ **金子　幸弘**（プログラム副責任者）
教授	にしむら　てつろう **西村　哲郎**（プログラム副責任者）
准教授	とちの　よしひろ **栃野　吉弘**（プログラム副責任者）
准教授	すずき　あきのぶ **鈴木　亨暢**（プログラム副責任者）

業務内容・特徴

卒後臨床研修センターは大学病院としての特徴を活かしながら幅広い初期臨床研修が行えるよう、研修協力病院等と連携したプログラムを組んでいます。

研修プログラムは研修医のキャリア形成に応じて、1 年目研修協力病院、2 年目大学病院のコース、1 年目 2 年目ともに大学病院のコース（全 4 コース。臨床研修と基礎医学が両立できるコース含む。）を設けています。

本プログラムには 4 つの特徴があります。

- 2 年目には全員が大学病院で研修し、最大 10 ヶ月間の選択期間、原則として各診療科で最低 2 ヶ月間の研修期間をじっくり確保
- 地域医療研修（1 ヶ月間）では、青森県での研修も選択可能
- 「緩和ケア研修会」、CPC など多くの講習会が組み込まれたカリキュラム
- スキルスシミュレーションセンター（SSC）で、侵襲的な手技を、勤務時間中に受講必須講習で習得

本学・当院から一人でも多くの「良医」を輩出すべく、今後も活動を続けて参ります。

取り組み

「医師である前に社会人たれ」と人間形成にも力を注いでいます。そのため研修医の育成のみならず、指導医養成にも力を入れ、「研修指導医養成のためのワークショップ」を毎年開催しています。さらに初期臨床研修修了後に、全 19 領域の専門医資格がすみやかに取得できるような連携も十二分に行っています。

がんセンター

Cancer center

詳細はこちら

センター長

かわぐち　ともや
川口　知哉



専門

呼吸器内科部長

スタッフ

化学療法センター長	かねだ　ひろやす **金田　裕靖** 【専門】 臨床腫瘍学 准教授
高精度放射線治療センター長	しぶや　けいこ **澁谷　景子** 【専門】 放射線治療科 部長
ゲノム医療センター長	すみ　としゆき **角　俊幸** 【専門】 女性診療科（婦人科腫瘍）部長

業務内容・特徴

当センターでは、がんの手術療法、薬物療法、放射線療法を中心に、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供できる体制を整えています。

手術では、鏡視下手術やロボット支援手術といった低侵襲手術を積極的に導入しており、技術認定を受けた専門医のもと、安全かつ高度な外科治療を実現しています。薬物療法においては、新薬や分子標的薬、免疫療法の導入を進めるとともに、必要に応じてゲノム情報に基づく個別化治療も選択肢の一つとして提供しています。放射線療法では、3 台の直線加速器を活用し、強度変調放射線治療（IMRT）や定位照射、画像誘導照射など、高精度で多様ながんに対応した治療を行っています。こうした治療体制の連携や、多職種による協働体制の強化を一層推進するため、2022 年には「化学療法センター」「ゲノム医療センター」「高精度放射線治療センター」「緩和ケアセンター」を統合し、「がんセンター」を設立しました。これにより診療の質をさらに高めるとともに、身体的・精神的苦痛の緩和や、治療後の生活を支えるサバイバーシップ支援にも注力しています。診療においては、医師に加え、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種が緊密に連携し、患者さんを中心とした総合的なチーム医療を実践しています。各職種がそれぞれの専門性を発揮することで、治療から療養、生活支援に至るまで、切れ目のない支援の提供を目指しています。また、就労や経済的不安を抱える患者さんへの相談支援や、治療選択を支えるセカンドオピニオンの提供など、がんと向き合う患者さんとご家族を幅広く支える体制も整えています。さらに、こうした診療・支援に加え、特定機能病院として、先進的ながん治療の開発や臨床研究にも積極的に取り組み、より良い治療成果の実現に貢献しています。

地域の医療機関とも密接に連携し、地域全体のがん医療の質の向上にも寄与しています。

化学療法センター

ATC：Ambulatory Treatment Center

詳細はこちら

センター長

かねだ　ひろやす

金田　裕靖



専門

がん薬物療法専門医

業務内容・特徴

化学療法センターは、外来でがん薬物療法を受ける患者さんのための専門部署です。肺がん、乳がん、消化器がん、血液疾患、希少がんなど、幅広いがん種に対応し、月 1,000 件以上の治療を行っています。

当センターでは、がん薬物療法専門医、がん化学療法看護認定看護師、がん専門薬剤師、がん病態栄養専門管理栄養士などが連携し、安全で質の高い治療の提供に努めています。副作用への対応、薬剤指導、栄養面からの支援を通じて、患者さんが安心して治療を受けられる体制を整えています。

近年は分子標的薬、免疫療法、抗体薬物複合体など治療選択肢が広がる一方、副作用も多様化しています。当センターでは、多職種の専門性を生かし、安全性に配慮した外来がん薬物療法を提供しています。

【業務内容】

・外来がん薬物療法の実施と安全管理
・レジメン管理と投与内容の確認
・薬剤師による服薬指導、薬剤説明
・看護師による副作用確認と療養支援
・支持療法の提案と副作用対策
・管理栄養士による栄養評価と栄養支援

スタッフ

講師　たに　ようこ　**谷　陽子**
【専門】 がん薬物療法

病院講師　おか　たかこ　**岡　隆子**
【専門】 がん薬物療法

主査　こはら　ゆうや　**古原　優也**
【専門】 がん薬物療法専門薬剤師

管理栄養士　のい　かおり　**野井　香梨**
【専門】 がん病態栄養専門管理栄養士

なかの　たえこ　**中野　妙子**
【専門】 がん化学療法看護認定看護師

主な検査機器・設備

化学療法センターは、25 床の治療スペースを備えています。通常ベッドとリクライニングベッドを配置し、診察室・処置室、待合スペースを整備しています。

薬剤調製室には安全キャビネットを備え、抗がん薬や生物学的製剤を安全に調製しています。

安全で円滑に外来がん薬物療法を行えるよう、治療環境の整備に努めています。

緩和ケアセンター

Palliative Care Center

詳細はこちら

センター長

かわぐち　ともや

川口　知哉



専門

呼吸器内科学、臨床腫瘍学

業務内容・特徴

当院では 2007 年に緩和ケアチームが発足、院内外に対し緩和ケアを提供してきました。2022 年４月のがんセンター開設に伴い、その下部組織として、より専門的な緩和ケアを提供すべく緩和ケアセンターが開設されました。日本緩和医療学会の認定研修施設として主として以下の業務を行なっています。

・緩和ケアチームによる病棟ラウンド
・緩和ケア外来
・看護外来
・緩和ケア関連の研修会・講演会等の運営
・地域施設との連携

スタッフ

副センター長　なかお　よしたか　**中尾　吉孝**
【専門】 緩和ケア認定医

師長　やまさき　ひとみ　**山崎　仁美**
【専門】 がん放射線療法看護認定看護師

講師　やべ　みつひで　**矢部　充英**
【専門】 緩和ケア認定医、ペインクリニック

講師　まつづか　たくみ　**松塚　巧**
【専門】 精神保健指定医、日本精神神経学会専門医

看護師　いけがみ　さとみ　**池上　里美**
【専門】 緩和ケア認定看護師

取り組み

日本緩和医療学会の認定研修施設です。

重い病を抱える患者やその家族一人ひとりの身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように多職種で支えていくケアを提供しています。

2025 年度入院 283 人、外来 19 人の方を担当しました。

多職種連携

医師・看護師・薬剤師・臨床心理士／公認心理師・管理栄養士・ＭＳＷ

高精度放射線治療センター
High-Precision Radiotherapy Center

詳細はこちら

センター長
しぶや　けいこ
澁谷　景子



専門
放射線治療全般

スタッフ

むくもと　のぶたか
副センター長 **椋本　宜学**
【専門】 医学物理学、放射線治療計画

業務内容・特徴

当院がんセンターの構成部門として、2022 年に設立しました。がん診療に取り組むほぼすべての診療科、部門と連携し、強度変調放射線治療 (IMRT) ／強度変調回転放射線治療 (VMAT)、定位放射線治療、画像誘導放射線治療といった高精度放射線治療の実践とその精度管理、および臨床研究や開発を行っています。2022 年度からは、新規治療装置、MR リニアック（Unity、エレクタ社製）の稼働を開始しました。MR リニアックは体内にある腫瘍を MRI にてリアルタイムに視認しながら放射線を狙い撃ちすることのできる画期的な装置です。欧米を中心に世界有数のがんセンターや大学病院にて使用が開始されていますが、日本ではまだ保有施設が少なく、当院が西日本で唯一、使用可能な施設となっています。これらの装置を用いて、これまで以上に体にやさしい新たながん治療を実践するとともに、国際水準に適合した先進的な施設として、最先端のがん治療を安心、安全に提供できるよう万全の体制づくりに取り組んでいます。

主な検査機器・設備

・MR リニアック装置 1 台（Unity）
・高エネルギー放射線治療装置 2 台（Synergy、VersaHD）
・密封小線源治療装置 1 台（マイクロセレクトロン HDR）
・放射線治療計画用 CT 装置 1 台（SOMATOM Confidence）

ゲノム医療センター
Medical Genomics Center

詳細はこちら

センター長
すみ　としゆき
角　俊幸



専門
女性病態医学

スタッフ

やしろ　まさかず
副センター長 **八代　正和**
【専門】 遺伝性腫瘍外科学

せと　としゆき
副センター長 **瀬戸　俊之**
【専門】 臨床遺伝学

業務内容・特徴

ゲノム医療センターでは、主治医から紹介を受けた患者さんの遺伝子関連疾患に関する疑問や不安に対し、臨床遺伝専門医や遺伝性腫瘍専門医、ならびに日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会認定の遺伝カウンセラーを中心とするチームが遺伝カウンセリングを提供しています。医学的・遺伝学的情報の提供と心理的支援を通じて、患者さんの理解と治療選択をサポートしています。

また、当院は未診断疾患イニシアチブ（IRUD）拠点病院として、希少・難病疾患の診断支援にも取り組んでおり、最新のゲノム解析を活用した診療により、未診断のまま経過している患者さんの診断を行っています。

さらに、当院は厚生労働省からエキスパートパネル実施可能がんゲノム医療連携病院に指定されており、患者さん一人ひとりに最適化された医療を行うがんゲノム医療を推進しています。保険診療としてがん遺伝子パネル検査を実施したのち、院内で多職種の医療専門家によるエキスパートパネル（専門家会議）を開催し、検査解析結果にもとづく精密な治療決定が迅速に行える体制を整えています。

主な検査機器・設備

プライバシーに配慮し、落ち着いた環境でお話が出来るよう、外へ音の漏れにくい個室の遺伝カウンセリングルームを設置しています。

医療安全センター
Medical Safety Management Center

詳細はこちら

センター長
すみ　としゆき
角　俊幸



専門
女性病態医学（婦人科）

業務内容・特徴

2019 年 4 月に医療安全に係る部門を集約した医療安全センターを設立しました。医療安全センターには、「医療の質・安全管理部」「感染制御部」「新規技術・医薬品審査部」を配置し、院内における医療安全の推進、医療の質の向上、院内や地域の感染防止対策の推進、高難度新規医療技術・未承認薬等の安全使用の推進にあたっています。また各部門で委員会や部会の設置、院内ラウンドの実施、職員研修を開催し、情報共有や職員への啓発に務めています。

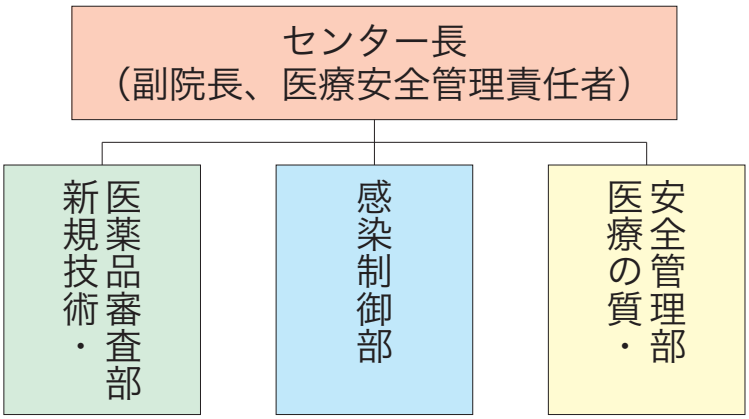
スタッフ

部長　まえだ　きよし　**前田　清**（新規技術・医薬品審査部）
【専門】 消化器外科学

部長　かけや　ひろし　**掛屋　弘**（感染制御部）
【専門】 臨床感染制御学

部長　わたなべ　てつや　**渡辺　徹也**（医療の質・安全管理部）
【専門】 医療の質・安全管理学

医療安全センター



医療の質・安全管理部
Department of Quality and Safety Management

詳細はこちら

部長
わたなべ　てつや
渡辺　徹也



専門
医療の質・安全管理学
GRM(General Risk Manager)

業務内容・特徴

医療の質・安全管理部では、病院の患者安全を推進するため、厚生労働省の指導に基づき、以下の業務を行っています。

1. **安全管理体制の構築**
GRM（医療安全管理者）による院内巡視を定期的に実施しています。死亡事例と重篤な有害事象事例は、全例を報告対象として病院長、医療安全管理責任者等が参加する複数の会議で検討を行っています。
2. **医療安全に関する職員への教育・研修の実施**
法令で求められている年 2 回以上の医療安全研修の受講を全職員が充足できるよう、開催方法等を工夫して受講環境の改善に努めています。特に、医療現場におけるノンテクニカルスキルの向上を重視し、TeamSTEPPS® の考え方を取り入れた実践的な研修プログラムの構築に取り組んでいます。
3. **医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価**
定期的な医療安全管理マニュアルの改訂のため、全インシデントレポートを分析し、結果を活用しています。警鐘事例等は複数の会議で検討して対策を立案し、全職員へフィードバックしています。
4. **医療事故への対応**
医療事故発生時は、被害を最小限に抑え、患者・家族へ適切に説明責任を果たせるよう現場・当事者を支援します。また管理者へ迅速に報告し、医療安全管理責任者の指示の下で関係各部署と連携して現場の支援にあたります。

取り組み

医療の質・安全管理部では、チーム医療を基盤とした患者安全の推進に取り組んでいます。多職種が相互に役割を理解し、効果的に協働できるよう、コミュニケーションやチームワークなどのノンテクニカルスキルを重視した教育を行っています。TeamSTEPPS® の考え方を取り入れ、うまくいっている実践にも着目する Safety-II の視点から、日常診療におけるチームの力を高める活動を推進しています。

スタッフ

副部長　とくわめ　あつし　**徳和目　篤史**
【専門】 薬剤師・GRM(General Risk Manager)

保健副主幹　いまざき　ゆきこ　**今﨑　由起子**
【専門】 看護師・GRM(General Risk Manager)

感染制御部
Department of Infection Control and Prevention

詳細はこちら

部長
かけや　ひろし
掛屋　弘



専門
感染症専門医

スタッフ

副部長　しばた　わたる　**柴多　渉**
【専門】 感染症専門医

講師　いもと　わき　**井本　和紀**
【専門】 感染症専門医

保健副主幹　にき　まこと　**仁木　誠**
【専門】 感染制御認定臨床微生物検査技師

主査　おかだ　やすよ　**岡田　恵代**
【専門】 感染管理特定認定看護師

主査　みょうどう　ゆか　**明堂　由佳**
【専門】 臨床検査技師

業務内容・特徴

感染防止対策や抗菌薬適正使用を推進するために、ICT（感染制御チーム）活動、院内感染症コンサルト、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）活動等を行なっています。

ICT 活動では、①感染情報の解析・管理、②院内感染症のサーベイランス（薬剤耐性菌や各種ターゲットサーベイランス）、③アウトブレイク時の対応、④診療現場の現状把握と感染防止に関する指導（ラウンドの実施）、⑤職員への感染防止対策に関する教育と啓発、⑥感染防止対策マニュアルの改訂および感染対策ガイドラインの作成、⑦職業感染防止対策、⑧ファシリティー・マネージメントを行なっています。また、院内感染症コンサルトでは診療科からの依頼に基づき感染症の治療や感染対策等総合的な感染症コンサルトを実施、AST 活動では患者さんの菌検出状況や抗菌薬使用状況を把握し、支援が必要な事例については病棟ラウンドを行って直接主治医に感染症の診断と治療のアドバイスを行っています。菌血症の死亡率低下、抗菌薬の使用日数の短縮等につなげています。

取り組み

院内での活動以外に地域における感染対策支援活動として、感染対策向上加算 1 届出 10 施設と連携し、カンファレンスや相互チェックを、当院と連携している同加算２、３届出施設とも定期的に感染制御に関するカンファレンスや研修会、ラウンド等を実施しています。また、大阪市感染対策支援ネットワークでは中心的な役割を担い、地域医療機関や社会福祉施設の感染対策を支援するために、大阪市保健所と連携して研修会やラウンド、アウトブレイク発生時の支援等を行なっています。

新規技術・医薬品審査部
Department Evaluation of Highly Difficult New Medical Technologies and New Unapproved Drugs

詳細はこちら

部長・医療機器安全管理責任者
まえだ　きよし
前田　清



専門
消化器外科学教授

スタッフ

薬剤部長　なかむら　やすたか　**中村　安孝**
【専門】 薬剤師・医薬品安全管理責任者

講師　しばた　わたる　**柴多　渉**
【専門】 感染症内科副部長

保健主幹　まつお　みつのり　**松尾　光則**
【専門】 臨床工学技士

保健副主幹　むらた　みか　**村田　美香**
【専門】 薬剤師

業務内容・特徴

「高難度新規医療技術」（今まで当院で実施したことのない医療技術であってその実施により患者の死亡その他の重大な影響が想定されるもの）や、「未承認新規医薬品等」（国内での使用が承認されていない医薬品や高度管理医療機器、保険適応外の医薬品・検査・治療等）を用いた医療の提供について以下の業務を実施しています。

1.「高難度新規医療技術」、「未承認新規医薬品等」を用いた医療の提供可否の決定
2.「高難度新規医療技術評価委員会」、「未承認新規医薬品等評価委員会」の運営
3. 有害事象の把握、実施条件の遵守状況の確認
4. 各診療科等から提出される申請のチェック
5. 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等に関する情報発信
6. 臨床経過のモニタリング　など

当部門の特徴として、特定機能病院の承認要件に求められている「高難度新規医療技術評価委員会」と「未承認新規医薬品等評価委員会」に加え、「高難度新規医療技術審査会」、「未承認新規医薬品等審査会」を開催して慎重に審査をしています。

承認件数

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
高難度新規医療技術	8 件	4 件	7 件	5 件	4 件	4 件
未承認新規医薬品等	21 件	17 件	14 件	17 件	34 件	44 件

チーム部門紹介

緩和ケアチーム
Palliative Care Team

患者さんの悩みや不安について、一緒に考え、納得できる選択をするために支援していきます。

チームの概要

2007 年に緩和ケアチームが発足し、院内外にむけて緩和ケアを提供してきました。
地域がん診療連携拠点病院である当院は、2022 年 4 月にがんセンターを開設し、それに伴い緩和ケアセンターが誕生しました。大学病院として患者さんにより身体的･精神的･社会的サポートが行えるよう、緩和ケアチームは日々活動しています。

チームの役割・活動内容

・緩和ケアチームによる病棟ラウンド
・緩和ケア外来
・看護外来
・緩和ケア関連の研修会・講演会等の運営
・地域施設との連携



多職種連携

緩和ケア認定医、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、臨床心理士／公認心理師・管理栄養士、MSW、退院調整看護師

認知症ケアチーム
Dementia Care Team

認知症やせん妄症状がある患者さんや高齢の患者さんが安心して入院生活や治療が受けられるように支援します。

チームの概要

多職種によるせん妄リスク評価と環境調整、認知症ケアラウンドでの病棟訪問や認知症ケアカンファレンス、職員を対象とした院内研修の実施などにより、高齢の患者さんが安心して入院生活を送れるように支援します。

チームの役割・活動内容

・入院時には高齢者の皆さんに総合機能評価を行いせん妄予防に努めます。
・入院中は、医師・看護師によるカルテ評価、病棟訪問などの認知症ケアラウンドを定期的に実施します。
・多職種による認知症カンファにてプロファイルを評価、医療的対応や環境調整を図ります。
・認知症院内研修を実施し、質の向上を図ります。



多職種連携

脳神経内科･神経精神科の医師、認知症看護認定看護師、薬剤師、臨床心理士／公認心理師、精神保健福祉士などが連携します。

感染制御チーム
Infection Control Team

電話一本でいつでもどこでもすぐに対応できるようにチーム内で課題を共有し、よりよい感染制御を実践します。

チームの概要



多職種で連携して、薬剤耐性菌検出状況や特定抗菌薬使用状況等の最新情報を共有し、各診療科への抗菌薬の提案・指導を迅速に行っています。感染症発生時は現場の感染対策を確認して適切な対策が実践できるように支援を行なっています。

チームの役割・活動内容

感染情報の解析・管理、院内感染症のサーベイランス、アウトブレイク時の対応、診療現場の現状把握と感染防止に関する指導（ラウンドの実施）、職員への感染防止対策に関する教育と啓発、感染防止対策マニュアルの改訂および感染対策ガイドラインの作成、職業感染防止対策、ファシリティー・マネージメント等を実施しています。とくにサーベイランスに注力しており、このデータを基に PDCA サイクルを回し、現場の実践力向上を目指しています。

多職種連携



専門的な資格を有する医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師が連携し、それぞれの専門性を活かして質の高い医療を提供しています。

・感染症専門医　・感染管理特定認定看護師
・抗菌化学療法認定薬剤師　・感染制御認定臨床微生物検査技師

抗菌薬適正使用支援チーム
Antimicrobial Stewardship Team

患者さんの菌検出状況や抗菌薬使用状況を速やかに把握し、適切な感染症治療が行えるようにサポートします。

チームの概要

薬剤耐性菌の発生や不適切な抗菌薬の使用による治療失敗を防ぐために、感染症を発症した患者さんが適切な抗菌薬治療を受けているか否かを専門的に監視・管理し、抗菌薬の適正使用を支援しています。

チームの役割・活動内容

各職種がそれぞれの役割を発揮し、血液培養陽性例は全例支援、特定抗菌薬や抗菌薬長期使用例についても全例確認を実施しています。支援が必要な事例については多職種によるチームで病棟ラウンドを行い直接主治医に感染症の診断と治療のアドバイスを行っています。これまで 10 年間で約 5000 例の相談実績があり、菌血症の死亡率低下、抗菌薬の使用日数の短縮等につなげています。また、毎週開催している AST カンファレンスでは他施設からの参加を積極的に受け入れ、院内のみならず地域の抗菌薬適正使用の向上にも貢献しています。

多職種連携



専門的な資格を有する医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師が連携し、それぞれの専門性を活かして質の高い医療を提供しています。

・感染症専門医　・感染管理特定認定看護師
・抗菌化学療法認定薬剤師　・感染制御認定臨床微生物検査技師

精神科リエゾンチーム
Psychiatric Liaison Team

医師、看護師、公認心理師等のそれぞれの専門性を活かしたチーム医療を提供しています。

チームの概要

2021 年春、精神科リエゾンチームを立ち上げました。当チームでは、入院中の患者さんを対象に精神疾患や心の不調（せん妄、不安、抑うつ、不眠など）に対する相談に応じ、身体的治療がスムーズに進められるよう支援しています。

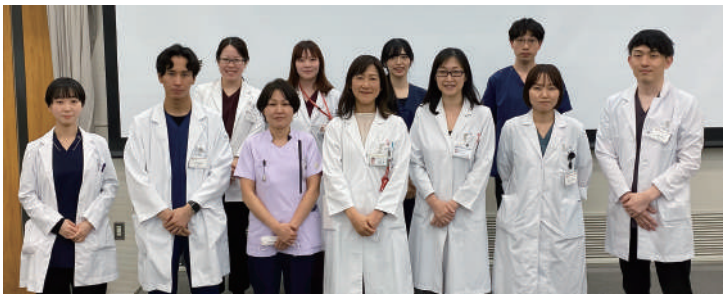
チームの役割・活動内容

2023 年度からの取り組みとして、医療の質・安全管理部、薬剤部等関連部門と協議し、【睡眠薬の適正使用に関する院内推奨】【過活動型せん妄に対する初期薬剤選択フロー】を作成し治療の標準化を図っています。

他にも、救急医療、周産期メンタルヘルス、緩和ケア、意思決定支援など、総合病院精神科で求められる課題へ多職種で対応しています。

多職種連携

精神科医（9 名）、精神看護専門看護師（1 名）、公認心理師（1 名）



褥瘡対策チーム（褥瘡委員会）
Pressure Ulcer Care Team

詳細はこちら

院内褥瘡発生ゼロ・褥瘡の治癒率向上を目指して

チームの概要

当院では、2002 年に褥瘡の予防と早期治癒を目指して、褥瘡対策チームが設置されました。褥瘡は、個体要因や環境・ケア要因などが重なり合い生じるため、多職種で回診を行い、多角的視点から検討し、褥瘡対策に取り組んでいます。

チームの役割・活動内容

当院では全患者さんに褥瘡リスク評価を行い、必要時には褥瘡専任医師と専任看護師が中心となり、薬剤師･管理栄養士と協力し患者個々に応じた褥瘡対策診療計画書を作成しています。さらに医師･看護師･薬剤師･管理栄養士･理学療法士が週 1 回の褥瘡チーム回診とカンファレンスで治療やケア内容を検討し提案します。職員研修や体圧分散寝具の整備も行い、多職種で質の高い褥瘡予防とケアを実施しています。



多職種連携

褥瘡専任医師、褥瘡専任看護師、皮膚･排泄ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床工学技士、臨床検査技師、事務職員等

早期離床・リハビリテーションチーム
Early mobilization and Rehabilitation Team

多職種連携を駆使し、集中治療センターに入室した患者さんの早期離床および早期回復を支援します。

チームの概要

早期離床・リハビリテーションチームは、集中治療領域に精通した医師・看護師・理学療法士で構成されており、集中治療センターに入室した重症な患者さんが、安全かつ早期に立ったり歩いたりできるように支援します。

チームの役割・活動内容

朝に行われる集中治療センターでのカンファレンスにおいて、早期離床が必要とされる患者さんの状態を多職種で把握し、安全かつ効果的な早期離床が行えるような計画を立てます。その計画に沿って、当日の介入内容を検討し、担当看護師や担当理学療法士と情報共有して、患者さんの早期離床および早期回復を促します。

多職種連携

集中治療専門医、急性・重症患者看護専門看護師、クリティカルケア認定看護師、集中ケア認定看護師、理学療法士が中心となり、関連診療科と協力して活動しています。



栄養サポートチーム（NST）
Nutrition Support Team

詳細はこちら

多職種によるチームで患者さんの栄養管理を行い、早期回復を支援します。

チームの概要

栄養サポートチーム（NST）は、医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士、臨床検査技師などが協力し、経口・経腸・静脈栄養について、個々の患者さんにとって適切な栄養管理を検討・提案し、栄養状態の維持・改善による早期回復に努めています。

チームの役割・活動内容

当院の NST 活動の特徴は、NST チームを診療科別に 6 チーム設けており、各診療科の専門的な知識を持って栄養管理のカンファレンスが行われています。NST が無い診療科の患者さんにも、消化器外科 NST チームが中心となって介入をしています。また、院内スタッフに対する栄養管理の勉強会開催や、NST 専門療法士取得にかかわる実地修練研修の受入れを行っています。





報告書確認対策チーム
Report confirmation team

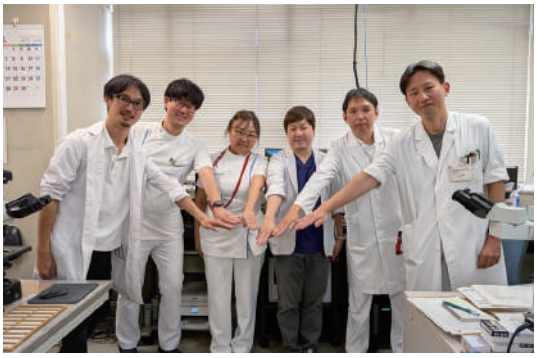
報告書確認の面から医療安全品質の向上に取り組んでいます。

チームの概要

医療安全管理者を中心として病理診断科および医療の質・安全管理部と連携し、診療科医師を含む多職種による実施状況の評価等を通して、病理診断報告書見忘れ防止に向けた組織的な取り組みを促す啓発活動を行っています。

チームの役割・活動内容

・月２回、定期的に報告書未読リストを配布し、見忘れ防止対策に努めています。
・月１回、診療科別既読率の公表による評価を行います。
・未読診療科の医学的対応の有無を確認し、必要な業務改善を行います。
・報告期日の管理、結果の品質管理を行っています。



多職種連携

医師、臨床検査技師、薬剤師

実績

2025 年度	報告書件数	未読件数	平均既読率
組織診断報告	31,355 件	412 件	98.6%
細胞診報告	21,607 件	203 件	99.0%

排尿ケアチーム（UCT）
Urinary Care Team

多職種で最適な排尿方法を検討し、患者さんの尊厳と排尿自立を支えるチームです。

チームの概要

疾患や治療のために尿道カテーテルを使用した患者さんを対象に、尿道カテーテルを早期に抜去して尿路感染を防止します。さらに自立した排尿を支援することで退院後の生活の質の向上を目指します。

チームの役割・活動内容

病棟・外来看護師、診療科医師と共同して、下部尿路機能の評価（排尿状況、残尿量、排尿動作など）を行い、個々の患者さんに応じた包括的排尿ケア計画に沿ったケアを実践しています。

排尿ケアチーム回診、カンファレンスを定期的に行い、チーム内で情報共有と排尿に関する問題について検討しています。病棟看護師への助言や教育を通じて、院内全体の排尿ケアの質向上にも取り組んでいます。

多職種連携

泌尿器科医師、リハビリテーション医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、下部尿路症状の排尿ケア講習を受講した病棟及び外来病棟看護師、理学療法士、事務職員などが連携し、それぞれの専門性を生かした排尿ケアを提供しています。多職種で情報を共有しながら介入方針を検討することで、患者さんの身体機能や生活状況に即した支援を可能とし、継続的かつ安全な排尿ケアの実践につなげています。



呼吸サポートチーム（RST）

Respiratory Support Team

入院患者の呼吸状態を総合的に評価し、呼吸合併症の予防と人工呼吸器の早期離脱を支援します。

チームの概要

呼吸療法を安全かつ効果的に提供することを目的として活動する、多職種で構成された専門チームです。患者さん一人ひとりの状態に応じた最適な呼吸管理を実践することで、医療の質向上と安全確保に貢献しています。

チームの役割・活動内容

・多職種で週１回の病棟ラウンドを実施し、人工呼吸管理の適正化と合併症予防を目的に、呼吸状態や設定条件の評価、人工呼吸器関連肺炎（VAP）予防の支援、ウィーニング（離脱）に向けた提案などを行っています。
・認定看護師や臨床工学技士などを中心に、非侵襲的陽圧換気（NPPV）や高流量鼻カニュラ療法（HFNC）、酸素療法など呼吸補助を要する患者に対して、多職種で連携し呼吸ケアの実践と調整を行い、呼吸療法の質の向上と安全の確保の両立を図っています。
・スタッフに対する勉強会や教育活動を通じて、呼吸状態の評価や対応に関する知識・技術の向上を図り、院内全体での適切な呼吸ケアの実践につなげています。





多職種連携の内容

医師、クリティカルケア認定看護師、集中ケア認定看護師、臨床工学技士、理学療法士など、さまざまな専門職がそれぞれの視点と専門性を活かして連携しています。

MEMO

MEMO

データでみる
大阪公立大学医学部附属病院

施設基準

届出施設基準一覧

2026 年 4 月 1 日現在

基本診療料（入院基本料・入院基本料等加算・特定入院料）、入院時食事療養費、酸素の購入単価

医療 DX 推進体制整備加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療医療安全対策加算２
歯科外来診療感染対策加算４
歯科診療特別対応連携加算
特定機能病院入院基本料（一般病棟７対１、精神病棟 13 対１）
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算１
医師事務作業補助体制加算１
急性期看護補助体制加算
看護職員夜間配置加算
看護補助加算
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算１
無菌治療室管理加算２
放射線治療病室管理加算（治療用放射性同位元素による場合）
放射線治療病室管理加算（密封小線源による場合）
緩和ケア診療加算
小児緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
摂食障害入院医療管理加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算１
感染対策向上加算１
患者サポート体制充実加算
報告書管理体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
呼吸ケアチーム加算
後発医薬品使用体制加算１
バイオ後続品使用体制加算
病棟薬剤業務実施加算１
病棟薬剤業務実施加算２
データ提出加算
入退院支援加算
精神科入退院支援加算
認知症ケア加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
精神科急性期医師配置加算
排尿自立支援加算
地域医療体制確保加算
地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料１
救命救急入院料４
特定集中治療室管理料１
ハイケアユニット入院医療管理料１
新生児特定集中治療室管理料２
総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児集中治療室管理料）
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料２
入院時食事療養Ⅰ

特掲診療料

外来栄養食事指導料の注２に規定する基準
外来栄養食事指導料の注３に規定する基準
心臓ペースメーカー指導管理料の注５に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料の注２に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料（臓器移植後）
移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
一般不妊治療管理料
下肢創傷処置管理料
慢性腎臓病透析予防指導管理料
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料１
連携充実加算
外来腫瘍化学療法診療料の注９に規定するがん薬物療法体制充実加算
ニコチン依存症管理料
がん治療連携計画策定料
外来排尿自立指導料
ハイリスク妊産婦連携指導料１
ハイリスク妊産婦連携指導料２
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
地域連携診療計画加算
医療機器安全管理料１
医療機器安全管理料２
医療機器安全管理料（歯科）
歯科治療時医療管理料
救急患者連携搬送料
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
遺伝学的検査の注１に規定する基準
染色体検査の注２に規定する基準
骨髄微小残存病変量測定
ＢＲＣＡ１／２遺伝子検査
がんゲノムプロファイリング検査
先天性代謝異常症検査
抗アデノ随伴ウイルス９型（ＡＡＶ９）抗体
抗ＨＬＡ抗体（スクリーニング検査）及び抗ＨＬＡ抗体（抗体特異性同定検査）
ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅳ）
国際標準検査管理加算
遺伝カウンセリング加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法
ヘッドアップティルト試験
人工膵臓検査、人工膵臓療法
長期継続頭蓋内脳波検査
長期脳波ビデオ同時記録検査１
脳磁図（自発活動を測定するもの）
脳磁図（その他のもの）
脳波検査判断料１
神経学的検査
補聴器適合検査
黄斑局所網膜電図
全視野精密網膜電図
ロービジョン検査判断料
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
経頸静脈的肝生検
前立腺針生検法（ＭＲＩ撮影及び超音波検査融合画像によるもの）
経気管支凍結生検法
口腔細菌定量検査
精密触覚機能検査
睡眠時歯科筋電図検査
画像診断管理加算１
ポジトロン断層撮影（アミロイドＰＥＴイメージング剤を用いた場合を除く。）
ポジトロン断層撮影（アミロイドＰＥＴイメージング剤を用いた場合に限る。）
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影影（アミロイドＰＥＴイメージング剤を用いた場合を除く。）
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影影（アミロイドＰＥＴイメージング剤を用いた場合に限る。）
ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影
冠動脈ＣＴ撮影加算
血流予備量比コンピューター断層撮影
心臓ＭＲＩ撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算１
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料２
抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
医療保護入院等診療料
エタノールの局所注入（副甲状腺）
人工腎臓
導入期加算３及び腎代替療法実績加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス療法
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
ストーマ合併症加算
口腔粘膜処置
ＣＡＤ／ＣＡＭ冠及びＣＡＤ／ＣＡＭインレー
皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節加算
皮膚移植術（死体）
自家脂肪注入
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法

骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）
椎間板内酵素注入療法
腫瘍脊椎骨全摘術
緊急穿頭血腫除去術
脳腫瘍覚醒下マッピング加算
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(７本以上の電極による場合)に限る。)
癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
角結膜悪性腫瘍切除手術
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））
毛様体光凝固術 (眼内内視鏡を用いるものに限る。)
網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)
網膜再建術
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
人工中耳植込術
植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
耳管用補綴材挿入術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）
上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は１肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合）
肺悪性腫瘍手術（壁側･臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
内視鏡下筋層切開術
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）
内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁形成術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
胸腔鏡下弁置換術
経カテーテル大動脈弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）
経皮的僧帽弁クリップ術
不整脈手術左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
不整脈手術 左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
補助人工心臓
経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（後腹膜）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
腹腔鏡下小切開副腎摘出術
腹腔鏡下小切開腎部分切除術
腹腔鏡下小切開腎摘出術
腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
内視鏡的逆流防止粘膜切除術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
体外衝撃波胆石破砕術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下肝切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
生体部分肝移植術
体外衝撃波膵石破砕術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下膵中央切除術
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下副腎摘出手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術 (褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
同種死体腎移植術
生体腎移植術
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
人工尿道括約筋植込・置換術
精巣温存手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下仙骨膣固定術
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
体外式膜型人工肺管理料
医科点数表第２章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
医科点数表第２章第 10 部手術の通則の 19 に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術）
再製造単回使用医療機器使用加算
輸血管理料Ⅰ
貯血式自己血輸血管理体制加算
コーディネート体制充実加算
自己生体組織接着剤作成術
自己クリオプレシピテート作製術（用手法）
同種クリオプレシピテート作製術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯周組織再生誘導手術
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
口腔粘膜血管腫凝固術
レーザー機器加算
麻酔管理料（Ⅰ）
麻酔管理料（Ⅱ）
周術期薬剤管理加算
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
１回線量増加加算
強度変調放射線治療（ＩＭＲＴ）
画像誘導放射線治療（ＩＧＲＴ）
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携による病理診断
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
デジタル病理画像による病理診断
病理診断管理加算２
悪性腫瘍病理組織標本加算
口腔病理診断管理加算２
クラウン・ブリッジ維持管理料
看護職員処遇改善評価料
外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
入院ベースアップ評価料

ご不明な点等ございましたら各診療科または職員までお問い合わせください。

業務概況

（1）診療科別患者数（2025 年度 入院・外来延患者数、1 日平均患者数）　　2025 年 4 月 - 2026 年 3 月

	入院		外来	
	延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均
総合診療科	426	1.2	1,736	7.2
循環器内科	12,134	33.2	17,042	70.4
呼吸器内科	12,128	33.2	18,323	75.7
膠原病・リウマチ内科	3,857	10.6	9,259	38.3
生活習慣病・糖尿病センター	3,907	10.7	12,922	53.4
腎臓内科	6,107	16.7	12,011	49.6
骨・内分泌内科	2,911	8.0	9,803	40.5
消化器内科	12,252	33.6	23,612	97.6
肝胆膵内科	8,303	22.7	19,311	79.8
血液内科・造血細胞移植科	12,347	33.8	11,344	46.9
脳神経内科	5,379	14.7	11,995	49.6
感染症内科	694	1.9	1,526	6.3
小児科・新生児科	8,843	24.2	9,593	39.6
神経精神科	10,894	29.8	15,454	63.9
皮膚科	5,176	14.2	25,907	107.1
放射線科	2,818	7.7	1,475	6.1
放射線治療科	0	0.0	6,123	25.3
核医学科	399	1.1	557	2.3
消化器外科	13,870	38.0	12,517	51.7
乳腺外科	3,909	10.7	16,326	67.5
肝胆膵外科	10,827	29.7	10,084	41.7
心臓血管外科	5,470	15.0	2,492	10.3
呼吸器外科	4,460	12.2	4,878	20.2
小児外科	295	0.8	1,089	4.5
脳神経外科	14,454	39.6	11,334	46.8
整形外科	22,905	62.8	31,243	129.1
泌尿器科（腎臓移植）	16,029	43.9	27,443	113.4
女性診療科（婦人科腫瘍）	13,993	38.3	17,265	71.3
女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学）	11,956	32.8	13,223	54.6
眼科	5,271	14.4	27,395	113.2
耳鼻いんこう科	9,677	26.5	23,125	95.6
麻酔科・ペインクリニック科	208	0.6	11,846	49.0
形成外科	5,349	14.7	9,387	38.8
救命救急センター	5,761	15.8	218	0.9
リハビリテーション科	0	0.0	51,163	211.4
ゲノム診療科	0	0.0	520	2
緩和ケア内科	0	0.0	7	0.0
集中治療科	543	1.5	339	1.4
医　科　計	253,552	694.7	479,887	1,983.0
歯科口腔外科	175	0.5	7,422	30.7
医科歯科計	253,727	695.1	487,309	2,013.7

新生児	1,959	5.4

（2）放射線検査件数　　2025 年度

	検査区分	部位	件数（部位数）
エックス線検査等	一般撮影検査	胸腹・骨撮影	69,075 (93,958)
		乳房	293 (541)
		ポータブル撮影	18,676 (23,138)
		合　計	88,044 (117,637)
	骨塩定量検査	腰椎・大腿骨、等	3,453 (7,477)
	血管撮影・IVR	ー	3,316
	透視検査	ー	6,793

	検査区分	入院 / 外来	件数（部位数）
CT・MRI 検査	CT 検査	入院	11,740 (23,970)
		外来	30,644 (62,992)
		合　計	42,384 (86,962)
	MRI 検査	入院	3,180
		外来	15,650
		合　計	18,830

	検査区分	入院 / 外来	件数
核医学検査	PET 以外	入院	533
		外来	2,189
		合　計	2,722
	PET	入院	96
		外来	1,421
		合　計	1,517

	照射区分	手技	人数（照射数）
放射線治療	外部照射	X 線および電子線治療	336 (8,457)
		定位治療	192 (1,131)
		IMRT	417 (7,309)
		全身照射	10 (35)
		合　計	955 (16,932)
	外部照射以外の照射	腔内照射	46
		組織内照射	4
		合　計	50
	治療計画（外部照射）	X 線および電子線治療	336
		定位治療	192
		IMRT	417
		全身照射	10
		合　計	955
	治療計画（外部照射以外）	腔内照射	46
		組織内照射	2
		合　計	48

（3）診療科別手術件数

2025 年度

	手術件数
総合診療科	0
循環器内科	250
呼吸器内科	14
膠原病・リウマチ内科	0
生活習慣病・糖尿病センター	0
腎臓内科	0
骨・内分泌内科	0
消化器内科	83
肝胆膵内科	3
小児科・新生児科	0
神経精神科	0
皮膚科	289
放射線科	1
放射線治療科	0

	手術件数
核医学科	0
消化器外科	501
乳腺外科	564
心臓血管外科	273
肝胆膵外科	339
呼吸器外科	375
小児外科	71
脳神経外科	552
整形外科	1,181
泌尿器科	943
女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学）	516
女性診療科（婦人科腫瘍）	652
眼科	1,436
耳鼻いんこう科	560

	手術件数
麻酔科・ペインクリニック科	27
形成外科	655
血液内科・造血細胞移植科	13
脳神経内科	0
歯科口腔外科	36
感染症内科	0
救命救急センター	112
ゲノム診療科	0
リハビリテーション科	0
緩和ケア内科	0
集中治療科	0
総　　計	9,446

（4）臨床検査件数

2025 年度

区　　分	入院	外来	健診（検診）	合計
一　般　検　査	116,714	194,051	54,103	364,868
血液学的検査	306,609	363,924	23,765	694,298
生化学的検査	1,618,614	2,718,061	339,906	4,676,581
免疫学的検査	111,769	361,340	65,960	539,069
微生物学的検査	62,962	19,652	0	82,614
その他検体検査	42,421	8,022	11,884	62,327
生理機能検査	19,057	56,306	50,422	125,785
合　　計	2,278,146	3,721,356	546,040	6,545,542

（5）処方せん調剤数

①処方せん調剤数（内服・外用）

2025 年度

	枚数	件数	剤数
入　　院	261,439	622,677	4,185,121
外　　来	6,364	16,186	210,057

②処方せん調剤数（注射薬）

	枚数	件数	剤数
入　　院	825,923	1,291,894	15,885,526
外　　来	32,368	39,049	51,496

（6）病理診断科件数　　2025 年 4 月 -2026 年 3 月

組織検査集計	入院	外来	健診（検診）	合計
組織件数	8,195	5,798	624	14,617
迅速件数	577	240	0	817
ブロック数（個）	48,250	9,049	640	57,939
1 臓器	6,766	5,436	608	12,810
2 臓器	885	279	15	1,179
3 臓器以上	544	83	1	628
標本診断のみ	39	965	0	1,004
免疫件数	3,269	2,392	0	5,661
ホルモンレセプター	1,020	1,665	0	2,685

細胞診集計	入院	外来	健診（検診）	合計
婦人科細胞診	511	6,005	4,606	11,122
婦人科以外	1,944	2,155	1,903	6,002
標本診断のみ	1	125	0	126
術中迅速細胞診	367	9	0	376
合　　計	2,823	8,294	6,509	17,626

剖検	院外（人）	院内（人）	死亡数（人）	院内解剖率（%）
	9	21	239	9%

（7）先進医療実施一覧　　2026 年 4 月 1 日現在

本院で実施している先進医療【A】		
先進医療名	承認年月日	診療科名
CYP2D6 遺伝子多型検査 ゴーシェ病患者のうち経口投与治療薬を投与される予定の患者	2019 年 8 月 1 日	小児科・新生児科

本院で実施している先進医療【B】		
先進医療名	承認年月日	診療科名
S-1+ パクリタキセル経静脈腹腔内投与併用療法 膵癌（遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。）	2020 年 4 月 1 日	肝胆膵外科

（8）施　設

附属病院　敷地面積：15,825.53 ㎡　所在地：大阪市阿倍野区旭町 1 － 5 － 7　　2026 年 4 月 1 日現在

建　物	階数		延面積（㎡）	建設年月	備　考
	地上	地下			
附属病院	19	4	86,878.48	平成 4 年 10 月	
駐車場	1	4	10,642.41	平成 7 年 6 月	
病院補完施設	2～3	—	777.88	平成 3 年 5 月	阿倍野区旭町 1 － 3 － 15（あべのアストビル 2 F～3 F）
医療情報訓練施設	13	2	216.62	平成 7 年 4 月	阿倍野区旭町 1 － 10 － 6（あべのメディックスビル 415）
看護師若草寮	14	1	2,309.66	平成元年 1 月	阿倍野区旭町 2 － 1・1 － 600（あべのマルシェ 4 F～7 F） 収容定員 51 人（2 人室＝ 24 室　3 人室＝ 1 室）
看護師西今川寮	3	—	1,043.78	平成 6 年 11 月	東住吉区西今川 4 － 19 － 1　収容定員 28 人（個室＝ 28 室）
元看護専門学校教室	14	1	2,411.29	平成元年 8 月	阿倍野区旭町 2 － 1・1 － 100（あべのマルシェ 171 号室）
元看護専門学校倉庫	14	1	35.83	平成元年 1 月	阿倍野区旭町 2 － 1・1 － 800（あべのマルシェ 289 号室）
研修医・研究医宿舎	14	1	577.44	平成元年 1 月	阿倍野区旭町 2 － 1・1 － 800（あべのマルシェ 8 F）収容定員 14 人
病院書庫	14	1	97.08	平成元年 8 月	阿倍野区旭町 2 － 1・1 － 200（あべのマルシェ 281 号室、283 号室）
その他建物（連絡廊下及び地下道）	—	1	328.51	昭和 42 年 11 月	

（9）職員数　　2026 年 4 月 1 日現在

	常勤	非常勤
医師	544	208
歯科医師	7	4
小計	551	212
薬剤師	99	0
栄養士	13	0
臨床検査技師	81	5
診療放射線技師	75	0
臨床工学技士	37	0
理学療法士	13	0
作業療法士	4	0
視能訓練士	8	0
言語聴覚士	7	0
歯科衛生士	4	1
看護師	1,017	104
助産師兼看護師	66	0
事務職員	211	23
医療ソーシャルワーカー	10	0
治験コーディネーター	14	2
技術職員	2	0
技能職員	39	31
その他の職員	159	86
合　計	2,410	464

※合計人数は医師も含んでいます。
※大学院、MedCity21、先端予防医療部、学務課、阿倍野医学図書館除く

（10）許可病床数　　2026 年 4 月 1 日現在

	一般病床	精神病床	合計
許可病床数	927	38	965

（11）2025 年 1 月～ 12 月における手術実施件数一覧
医科点数表第２章第 10 部手術通則第５号及び第６号並びに歯科点数表第２章第９部手術通則第４号に掲げる手術

区分１に分類される手術

区分	手　　術　　名	手術の件数
ア	頭蓋内腫瘤摘出術等	208 件
イ	黄斑下手術等	334 件
ウ	鼓室形成手術等	31 件
エ	肺悪性腫瘍手術等	271 件
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術	254 件

区分２に分類される手術

区分	手　　術　　名	手術の件数
ア	靭帯断裂形成手術等	69 件
イ	水頭症手術等	58 件
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	4 件
エ	尿道形成手術等	8 件
オ	角膜移植術	0 件
カ	肝切除術等	179 件
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	51 件

区分３に分類される手術

区分	手　　術　　名	手術の件数
ア	上顎骨形成術等	21 件
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	19 件
ウ	バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	4 件
エ	母指化手術等	5 件
オ	内反足手術等	1 件
カ	食道切除再建術等	7 件
キ	同種死体腎移植術等	59 件

区分４に分類される手術（胸腔鏡下・腹腔鏡下手術）

手術の件数
1,077 件

その他の区分に分類される手術

手　　術　　名	手術の件数
人工関節置換術	235 件
乳児外科施設基準対象手術	1 件
ペースメーカー移植術及び ペースメーカー交換術	82 件
冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む。）及び体外循環を要する手術	246 件
経皮的冠動脈形成術	39 件
急性心筋梗塞に対するもの	2 件
不安定狭心症に対するもの	5 件
その他のもの	32 件
経皮的冠動脈粥腫切除術	3 件
経皮的冠動脈ステント留置術	100 件
急性心筋梗塞に対するもの	10 件
不安定狭心症に対するもの	20 件
その他のもの	70 件

施設案内

（2025 年 4 月 1 日時点）

	西病棟　7〜18階	東病棟　6〜18階	
18階	会議室	特別病室	
17階	小児医療センター（こども病棟）	女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学） 女性診療科（婦人科腫瘍）	
16階	整形外科／呼吸器外科	整形外科	
15階	消化器内科／泌尿器科／麻酔科	消化器外科	
14階	腎臓内科／泌尿器科（腎臓移植）／人工じん部		
13階	皮膚科／骨・内分泌内科／ 生活習慣病・糖尿病センター	耳鼻いんこう科／形成外科	
12階	眼科／脳神経内科	脳神経外科／NRCU	
11階	肝胆膵内科／膠原病・リウマチ内科／乳腺外科	肝胆膵外科／救急科	
10階	循環器内科／心臓血管外科	集中治療センター（ICU/CCU）	
9階	HCU	呼吸器内科／感染症内科／総合診療科	
8階	新生児科（NICU・GCU）／分娩室／院内学級	女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学） MFICU	
7階	放射線治療室・無菌治療	放射線科／血液内科／核医学科	
6階	コンビニエンスストア	神経精神科	庭　園
5階	歯科口腔外科　リハビリテーション科　事務室　看護部　医療機器部（診療材料室　MEセンター） 医療安全センター（医療の質・安全管理部　感染制御部　新規技術・医薬品審査部）　講堂　美容室		
4階	中央手術部　救命救急センター　ＥＣＵ　血管内手術・ＩＶＲセンター　外来手術室		
3階	外来診療部門　中央臨床検査部　病理診断科（病理部）　輸血部　肝炎防止調査センター		
2階	外来診療部門　栄養相談室　薬事相談室　治験相談室　遺伝カウンセリングルーム		
1階	外来診療部門　総合案内　入退院窓口・会計窓口・相談窓口　患者総合支援センター　入退院支援センター 化学療法センター　ゲノム医療センター　在宅医療材料払出室　自動支払機		カフェ 自販機 コーナー
地下１階	外来診療部門　救命救急センター　薬剤部　中央放射線部　内視鏡センター　おくすり渡し口 時間外受付・精算窓口　警備室・防災センター　休日・時間外出入口・駐車場出入口	銀行　自販機コーナー	
地下２階	栄養部		

2026年度 大阪公立大学医学部附属病院概要

発行日：2026年7月発行
発　行：公立大学法人大阪
大阪公立大学医学部附属病院
大阪市阿倍野区旭町１丁目５番７号
06–6645–2121（代表）

ACCESS MAP





交通アクセス

●Osaka Metro 御堂筋線「天王寺駅」 …… 西改札を出て13番、14番出口方面へ（徒歩 約７分）
●Osaka Metro 谷町線「天王寺駅」 …… 南西・南東改札を出て直進し、階段を上り右、13番、14番出口方面へ（徒歩 約９分）
●Osaka Metro 御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」 …… 東改札を出て右、２番出口方面へ（徒歩 約８分）
●ＪＲ大阪環状線・大和路線・阪和線・関西国際空港線・きのくに線「天王寺駅」 …… 中央改札口を出て左へ（徒歩 約９分）
●近鉄南大阪線「大阪阿部野橋駅」 …… 西改札を出て右へ（徒歩 約９分）
●阪堺電車上町線「天王寺駅前」 …… 改札を出て地下道もしくは歩道橋へ（徒歩 約７分）
●大阪シティバス「大阪公立大学医学部附属病院」 …… 下車すぐ

所在地

〒545-8586　大阪市阿倍野区旭町1-5-7　TEL.06-6645-2121（代表）

特定機能病院
大阪公立大学医学部附属病院
https://www.hosp.omu.ac.jp/